BERNINA 555 | 570 QE

made to create BERNINA

made to create BERNINA

ベルニナユーザーの皆様へ

この度はベルニナミシンをお買い上げ戴き誠にありがとうございます。ベルニナミシンは、これから長年に渡ってあなたの信頼にお応えしてゆくことでしょう。100年以上に渡って,私の家族はユーザーにご満足戴ける製品を作り続けてきました。私自身、精密な、完成度の高い、将来を見据えたソーイングテクノロジーに基づいて作り出されたスイスのミシンを、行き届いたカスタマーサービスとともに、ご提供出来ることを誇りに思っております。

この度ベルニナが発売したB 570 QEおよびB 555は、二機の超現代的なソーイングおよび刺しゅうミシンで、初の特別キルターズエディションです。私たちは、最高級のテクノロジーはもちろ ん、デザインも追及し、クリエイティブで高品質、そして芸術性のあるデザインを敏感に感じ取られる皆様にご満足いただける製 品に仕上げました。

B 570 QE または B 555と 共に多岐にわたる豊富なアクセサリーを使用して、クリエイティ ブなソーイングや刺しゅう、キルティングをお楽しみいただけることを願っております。 また当社ウェブサイト、www.bernina.com をご覧いただき、あなたのソーイングに新しい息吹を吹き込んでください。

最後に、経験豊富なベルニナ正規販売代理店が皆様のアフターサービスをご提供いたしますのでご安心ください。

皆様がこの新しいベルニナミシンで数多くのクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう切に願っております。

H.P. Ueltschi
オーナー
ベルニナインターナショナル株式会社
CH-8266 Steckborn, Switzerland
www.bernina.com

初版

安全にご使用いただくために

重要事項

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

ご使用になる前に必ずミシンと刺しゅう機に関する全ての説明をご一読ください。

ミシンを使わないときは、プラグをコンセントから抜いておいて下さい。

⚠ 危険!

感電を防ぐために:

1. プラグをコンセントにつないだままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。
3. LEDライト放射光:光学機器などを使って、ライトを直接見ないようにして下さい。こちらはクラス1MのLED製品です。

⚠ 警告!

火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。ベルニナ社がお薦めする付属品やアクセサリー以外はご使用にならないで下さい。
2. お子様の玩具としてご使用にならないでください。小さなお子様や病弱な方の近くでご使用になる時は、特別の注意を払って下さい。経験の少ない方および知識に欠ける方(お子様を含む)、身体の不自由な方、意思疎通が上手にできない方が当製品をお使いになる際には、保護者または責任者の方が指導してください。
3. 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい。
   - ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
   - ミシンが正常に作動しないとき。
   - 落としたり、損傷したとき。
   - 水の中に落としたとき。

   このような場合には、お買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。
4. ミシンの通気孔をふさいだ状態で使わないでください。また常に、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まっていないことをお確かめください。
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の周りでは、細心の注意を払って下さい。
6. 製品の隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
7. 戸外では使用しないで下さい。
8. 酸素ガス等や引火性のあるスプレーを使用している場所では使わないで下さい。また酸素ガスを扱う場所でのご使用は避けて下さい。
9. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりしないように。そのような行為は針をいため、針折れの原因となります。
10. 曲がった針は使用しないで下さい。
11. 常にベルニナ純正品の正しい針板をご使用ください。間違った針板をお使いになると針折れを発生させます。
12. ミシンを電源から切り離すときは、まず電源スイッチをオフ«0»にしてから電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードを引っ張らないで、プラグを掴んで引き抜いてください。
13. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。
14. 注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
15. ミシンは二重に絶縁されています。ミシンの修理には、必ず専用の部品を使って下さい。詳しくは取扱説明書をご覧下さい。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

二重絶縁構造-製品のサービスに関して

二重絶縁構造の製品には、アースを取る方法の変わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品には、アースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品の修理・サービスには極度の注意と知識を要します。資格を有するサービス担当者によるサービスのみお受けください。二重絶縁構造の製品の交換部品は製品に使われているオリジナルの純正部品と同一のものでなければなりません。二重絶縁構造の製品には«DOUBLE INSULATION» または «DOUBLE INSULATED» と表記されています。

製品には、二重絶縁構造のシンボルマーク⧈ もまた表示されています。

ご注意!

当製品の誤った使用によって生じた損害については、当社は責任を負いません。
当製品は、家庭用ミシンです。
当製品の電磁気許容量に関しては 欧州規格 2004/108/EC に準じるものです。

使用説明書は大切に保管しておいてください!

最新の説明書は www.bernina.com で入手できます。

環境保護について

環境保護について ベルニナ社は環境保護に準じることを宣言しています。私達は製品の製造に当たっては製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。

当製品がご不要になった場合には、お住まいの国の環境基準法に準じた方法で処分していただけますようお願い申し上げます。家庭用ごみとして廃棄しないようにご注意ください。ご不明な点があれば、お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談ください。

ミシンを長期間に渡り厳寒の部屋の中に放置していた場合は、お使いになる1時間くらい前に暖かいお部屋に移してから使い始めてください。

目次

ソーイング

安全にご使用いただくために 2
- 環境保護について 3

記号の説明 10
- 用語解説 10

アクセサリー 11
- 標準アクセサリー 11
- 押え金 12
- スタンド式アクセサリーボックス 13
  - 収納例 13

ミシン各部の名称 14
- 前面 14
- 細部拡大 14

ソーイングに関する重要事項 16
- 糸 16
  - コットン糸 16
  - ポリエステル糸 16
  - レーヨン糸 16
- 針と糸と布地 16
- 針、糸 17
  - 正しい針と糸の組合わせ 17
  - 細い糸に太すぎる針の組み合わせ 17
  - 太い糸に細すぎる針の組合わせ 17
  - ガイドライン 17
- 針の一覧表 18

ソーイングの準備 20
- 電源スイッチおよび電源コード 20
- フットコントローラー 20
- ソーイングテーブル 21
  - ソーイングテーブルを取り付ける 21
  - ソーイングテーブルを取り外す 21
  - シームガイド 21
- フリーハンドシステム（FHS） 21
  - 膝押え上げレバーの取り付け方 21
  - 押え金を膝の操作で上げたり、下げたりする 21
- 垂直糸立て棒て（折りたたみ式） 22
- 下糸を巻く 23
  - ソーイング中の下糸巻き 23
  - 適切なサイズの糸こまカバー 23
- ボビンをセットする/下糸を掛ける 24
- ボビンケースの脱着 24
  - ボビンケースを取り出す 24
  - ボビンケースを挿入します。 24
  - 下糸切り 24
- 上糸を掛けます 25
  - 適切な糸こまカバー 25
- 針の交換 25
  - 針を交換する 25
  - 新しい針を取り付ける 25
- 二本針の糸通し 26
  - 最初の糸掛け 26
  - 二本目の針に糸を通す 26
- 三本針に糸を掛ける 26
- 針に糸を通す 27
- 押え金の交換方法 27
  - 押え金を取り外す 27
  - 押え金を取り付ける 27
- 針板 28
  - 針板上のマーキング 28
  - 針板を取り外す 28
  - 針板を取り付ける 28

糸調子 29
- 基本セッティング 29
- 完璧な状態のステッチテンション 29
- 上糸調子が強すぎる。 29
- 上糸調子が緩すぎる。 29
- 押え圧の調節 30
  - 押え圧 30
  - 押え圧を強くする 30
  - 押え圧を弱くする 30
  - 押え圧表示 30
- 送り歯を下げる/縫い始める 31
- 送り歯と布送り 31

機能の説明 32
- «機能»ボタンの一覧 32
  - «返し縫い»ボタン 32
  - «スタート/ストップ»ボタン 32
  - «模様終わり»ボタン 32
  - スライド式スピードコントロール 32
  - «針停止»ボタン 32
  - «模様頭出し»ボタン 32
  - «針基線»ボタン 33
  - 振り幅調節、送り長さ調節ダイヤル（多機能ダイヤル） 33

画面 34
- 主画面の説明 34
  - システムの設定 34
  - メニュー選択画面 34
  - 模様の選択方法 35
  - ステッチの選択 35
  - ステッチの表示 35

機能 - 画面 36
- ミシンの各種機能 36
- 機能の説明 36
  - 針上停止位置と«返し縫い»ボタン 36
  - 針下停止機能と«返し縫い»ボタン 36
  - 針上下位置停止機能 36
  - 留め縫い 36
  - 模様繰り返し 36
  - 針基線 37
  - 模様左右反転機能 37
  - セキュリティプログラム 37
  - 模様上下反転機能 37
  - 押え金表示 37
  - 連続返し縫機能 37

- バランス 37
- 押え圧 37

ボタンホール機能について 38
- ボタンホールの長さを設定する 38
- ボタンホールの長さの直接入力 38
- マニュアルボタンホール 38
- ステッチカウントボタンホール 38
- 留め縫い 38
- ボタンホールの穴の幅 39
- バランス 39
- セキュリティプログラム 39
- 推奨押え金の表示 39
- 押え圧 39

アルファベット(文字)機能に関して 40
- 留め縫い 40
- 繰り返し縫い 40
- 針基線 40
- 左右反転機能 41
- セキュリティプログラム 41
- 模様上下反転 41
- 押え金表示 41
- 連続返し縫い 41
- バランス 41
- 押え圧 41

コンビモード機能に関して 42
- 削除 42
- カーソルの位置でコンビネーションを編集する 42
- コンビネーション全体を編集する 42
- 針基線 42
- 左右反転 42
- セキュリティプログラム 43
- 上下反転 43
- 推奨の押え金 43
- 連続返し縫い 43
- バランス 43
- 押え圧 43
- コンビネーションの分割(1) 44
- コンビネーションの分割(2) 44
- 留め縫い 44
- 削除 45
- 左右反転 45
- コンビネーションの繰り返し 45

セットアッププログラム 46

«セットアップ»画面に関して 46

画面表示の設定 47
- 明るさ 47
- ソーイングライト 47
- ウェルカムテキスト 47
- 修正 47

画面の色を調整します 48

ソーイングの設定 48
- ソーイングスピード 48

刺しゅうの設定 49
- 刺しゅう枠のズレを調節する 49

画面のズレの調節 50

シグナル音の設定 50
- ステッチパターン、機能、BSRを選択する 50

モニター機能 51
- 上糸センサー 51

糸巻のスピードを調節する 51

アップデート 52

ボタンホール押えNo.3Aのズレの調節 52

リセット/ユーザーデータの削除 53
- リセット 53
- ユーザーデータを削除する 53

インフォメーション 54
- 言語 54
- バージョン情報 54
- 代理店情報 55
- サービスデータ 55

チュートリアル 56

チュートリアルに関して 56

クリエイティブコンサルタント 58

クリエイティブコンサルタントに関して 58

ソーイングテクニックに関して 58
- ソーイングコンサルタントを終わる 58

ヘルププログラム 59

ステッチパターン 59

機能 59

バランス 60

実用と飾り縫いステッチ，アルファベット 60
- バランスの修正 60
- 設定をリセットします 60

エコに関する説明 61

実用縫い 62

実用縫いの一覧 62
- 直線縫い 62
- ジグザグ縫い 62
- バリオーバーロック 62
- ランニングステッチ 62
- 留め縫いプログラム 62
- トリプル直線縫い 62
- トリプルジグザグ縫い 62
- ネットステッチ 62
- まつり縫い 62
- ダブルオーバーロック 62
- スーパーストレッチ 62
- ギャザーステッチ 62
- ストレッチオーバーロック 62
- トリコットステッチ 62
- ユニバーサルステッチ 63
- 二点ジグザグ 63
- ライクラステッチ 63
- ストレッチステッチ 63
- 補強オーバーロック 63
- ニットオーバーロック 63
- シンプルダーニングプログラム 63
- 補強ダーニングプログラム 63
- バータックプログラム 63
- 小型フライステッチ 63
- 幅の狭いまつり縫い 63
- しつけ縫い 63
- 1針直線縫い 63
- 3針直線縫い 63

ステッチを選択する 64
- ダイレクト選択 64
- ステッチ番号で選択 64
- キャンセル 64

各ステッチを好みの設定に変更できます 65

一時的なステッチメモリー 65
- 標準の設定に戻すには 65
- ステッチの幅と送りを変更する 66
- 針基線を変更する 66

実用縫いの適用例 67

直線縫い 67
トリプル直線ステッチ 67
トリプルジグザグ縫い 68
ファスナー付け 69
マニュアル式の繕い縫い 70
自動繕い縫い 71
補強繕い縫い(自動) 72
縁縫い 72
ダブルオーバーロック 73
布端にトップステッチで飾り縫い 74
ヘムのまつり縫い 75
フラットヘムステッチ 75
留め縫いプログラム 76
しつけ縫い 76
フラット縫い 77
不均一な表面での高さ矯正に 78
コーナーを縫う 78

ボタンホール 80

ボタンホールのまとめ 80
- 標準ボタンホール 80
- 幅の狭いボタンホール 80
- ストレッチボタンホール 80
- ラウンドボタンホール・標準バータック付 80
- はと目ボタンホール 80
- キーホールボタンホール(ポイントバータック) 80
- 直線ボタンホール 80
- ボタン縫い付けプログラム 80
- ジグザグアイレット 80
- 直線アイレット 80
- ヘアロームボタンホール 80

ボタンホールに関する重要な情報 81
- マニュアルボタンホールの印のつけ方 81
- 自動ボタンホールの印のつけ方 81
- はと目ボタンホールの印のつけ方 81
- 試し縫い 81
- 穴かがり幅を調節するには 81
- 送り長さを変えてみる 81

安定紙(芯地) 82

芯糸の効果 83
- 実際に縫うときには 83
- 理想的な芯糸のタイプ 83
- 自動ボタンホール押えNo. 3Aを使った芯入りボタンホール 83
- 縫い方 83
- コードをセットしたボタンホール押え No. 3 83
- 縫い方 83
- 芯糸の始末方法 83
- シームリッパーを使ってボタンホールを開ける 83
- ボタンホールカッター(オプション)を使ってボタンホールを切り開く 83

送りバランス 84
- 調節ダイヤルを使ってバランスを調整する 84
- 直接入力ダイヤルではと目とラウンドボタンホールのバランスを調節する 84
- はと目ボタンホールとラウンドボタンホールのバランス 84
- マニュアル(手動)の標準ボタンホールのバランス 84
- ステッチカウント方式ボタンホールのバランス 84
- バランスをクリアーする 84

ボタンホールをプログラムする 85

自動操作による標準、伸縮地用ボタンホール 85
- 最初のボタンホールをプログラムする 85
- 自動ボタンホール 85
- 繰り返し縫い 85
- ソーイングスピード 85

長さをダイレクトに入力して自動で縫う 86
- ボタンホールの長さを入力する 86
- ボタンホールの長さを決める 86
- ボタンホールメニューに戻ります 86

ボタンサイズ測定と自動ボタンホール 86
- ボタンサイズを決める 86
- ボタンの厚みに対する修正 86
- ボタンホールの縫い始めに戻る 86
- 保存したボタンホールの長さを消去する 86

自動ラウンド、はと目ボタンホール 87
- ボタンホールをプログラムする 87
- 自動ボタンホール 87
- 繰り返し縫い 87
- はと目ボタンホールを二度縫いする 87

ヘアロームボタンホール 88
- 最初のボタンホールをプログラムする 88
- 自動ボタンホール 88

ステッチカウントボタンホール 88
- 最初のボタンホールをプログラムする 88

ボタンホールを記憶する 89
- 最初のボタンホールをプログラムする 89
- 保存したボタンホールを選ぶ 89
- 保存されたボタンホールを調整する。 90
- 保存したボタンホールを消去する 90

7- または 5-ステップマニュアルボタンホール 91
- 7-ステップボタンホールを縫う 91
- 5-ステップボタンホールを縫う 91
- 直線縫いボタンホール No. 59 91

ボタン付けプログラム 92

- 準備 92
- ボタンの縫い付け 92
- ボタンをダーニング押え No. 9(オプション)で縫い付ける 92
- ボタン付け押えNo. 18 (オプション)を使って縫う 92
- 四つ穴のボタンを縫う 92

アイレット 93

- アイレット 93
- アイレットに穴を開ける 93

飾り縫い 94

飾り縫いに関して 94
適用 94

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

飾り縫いの適用例 95

クロスステッチ 95
- 適用 95
- 縫い方 95
- ふち飾りを縫う 95
- 刺しゅう糸を使用したクロスステッチ 95

ピンタック 96
- ピンタック押え(オプション) 96
- コード芯入りピンタック 96
- コード芯をセットする 96
- ピンタックを縫う 96

ボビンマジック 97
- フリーモーションソーイング 97
- 飾り縫いステッチを選ぶ 97

キルトステッチ 98

キルトステッチの一覧 98
- キルター用留め縫い機能 98
- キルティング用直線縫い 98
- スティップリングステッチ 98
- 手縫い風キルトステッチ 98
- ブランケットステッチ 98
- ダブルブランケットステッチ 98
- まつり縫い (狭い) 98
- フェザーステッチ 98
- 各種フェザーステッチ 98
- 各種飾り縫いキルトステッチ 98
- キルトステッチ／手縫い風キルトステッチ各種 98
- ブランケットステッチ(上送り) 98
- ダブルブランケットステッチ(上送り) 98
- サテンステッチ 98

キルトステッチの適用例 99

手縫い風キルトステッチ 99
- 準備 99
- 作品の持ち方 99
- デザインをキルティングする 99
- スティップリング 99
- フリーモーションキルティングとダーニング 99
- 針目が揃わない 99
- ナイロン糸が切れる場合 99
- 糸切れする時は 99

BSR 100

BSRでキルティング（オプション） 100
- BSRの機能 100
- BSR機能を直線縫い No. 1で使う 100
- BSR機能をジグザグ縫い No. 2で使う 100
- BSRには2種類の動作モードがあります。 100
- 準備 101
- 押え底を取り外すには 101
- 押え底を取り付ける 101

BSRモードでの各種機能 102
- 針下位置停止(標準設定) 102
- 針上位置停止 102
- 針を上げる、または下げる 102
- «スタート/ストップ»ボタン を使った留め縫い機能(モード1のみ) 102
- 留め縫い機能(モード2のみ) 102
- フリーモーションキルティング (モード2のみ) 102
- BSRをオンにしないでフリーモーションキルティング 102
- BSR警告音(ピー音)をオン／オフにするには 103
- セットアッププログラムのBSR警告音アイコンを選びます 103
- «BSR»画面で警告音のオン/オフを選ぶ 103
- BSR機能をオンにします 104
- «スタート/ストップ»ボタンを押してBSR機能を停止させる 104
- モード 1 104
- モード 2 104
- BSR 機能を停止させる 104

文字 105

文字に関して 105
- レタリング 105
- 完璧なステッチを縫うには 105

レタリングの組み合わせ 106
- 次の文字を選ぶ 106

組合わせたステッチ/文字を訂正するには 106
- 文字を挿入する 106
- 文字を削除するには 106

文字と機能の組み合わせ 107
- 小文字を選びます。 107

パーソナルプログラム 108

パーソナル画面を作る 108

ステッチパターンを準備する 108
- 最初のステッチをプログラムして保存する 108
- 二番目のステッチをプログラムし保存する 109
- パーソナルプログラムからステッチを選ぶ 109
- パーソナル画面 109

ステッチの変更、上書き 110
- ステッチパターンを選びます 110

ステッチパターンを削除する 111
- ステッチパターンを選びます 111

コンビモード 112

ステッチコンビネーションを作る 112
- プログラムと保存 112

ステッチパターンの削除 113
- パターンの削除 113
- コンビネーションを削除する。 113

保存されたコンビネーションステッチを開く 113

コンビネーションステッチを修正する 114
- ステッチパターンを挿入する 114
- ステッチを加工する 114
- コンビネーション全体を反転させる 115
- コンビネーションの分割 1 115
- コンビネーションの分割 2 115

ステッチパターンコンビネーション 116
- 上書き 116
- 削除 116

刺しゅうの部

アクセサリー 117

標準アクセサリー 117

刺しゅう機 118

各部詳細 118

刺しゅうに関する重要事項 119

刺しゅう糸 119
- ポリエステル糸 119

- レーヨン糸 119
- メタリック糸 119
- 刺しゅう針 119

下糸 119
- ボビンフィル（ボビン専用糸） 119
- ダーニングおよび刺しゅう用糸 119

刺しゅうモチーフを選ぶ 120

試し縫い 120

モチーフのサイズ変更 120

ステッチタイプのいろいろ 121
- アンダーレイステッチ 121
- サテンステッチ 121
- ステップ（たたみ）ステッチ 121
- ジャンプステッチ 121

刺しゅうの準備 122

刺しゅう機の取り付け 122
- ミシンに刺しゅう機を接続する 122
- ケーブルを接続する 122
- コードを接続する 122
- 刺しゅう機を取り外す 122
- ケーブルを刺しゅう機に収納する 122
- 刺しゅう枠のズレの調節 122

刺しゅう押え/刺しゅう針 123
- 刺しゅう針 123
- 準備 123
- 送り歯を下げます。 123

直線縫い/カットワーク用針板（オプション） 123

上糸と下糸の糸掛け 124
- 上糸を掛ける 124
- 糸こまホルダー 124
- 下糸を通す 124
- 糸調子を設定／変更する 124

刺しゅう枠 125
- 中心を決める 125
- 刺しゅう枠を使う 125
- 刺しゅう枠用テンプレート 125
- 布を刺しゅう枠にセットする 125

安定紙 126

安定紙 126
- 破り取れる安定紙（ティアウエイ） 126
- 切り取る安定紙（カット・アウエイ） 126

スプレー糊 126
- スプレー洗濯のり・布地の補強用 126

アイロン接着芯 127
- のり付き安定紙 127
- 水溶性安定紙 127

各種機能 128

«機能»ボタンの一覧 128
- «スタート/ストップ»ボタン 128
- 振り幅、送り長さ調節ダイヤル 128
- スピードコントロール 128

画面の一覧 129

刺しゅうモードに切り替える 129
- 刺しゅうモード 129
- ソーイングモード 129
- 刺しゅう機アイコン 129
- USBメモリー(オプション) 129
- 文字フォルダー 129
- 刺しゅうモチーフフォルダー 129
- マイデザインフォルダー 129

文字の刺しゅう 130

ベルニナ 刺しゅうモチーフ 130

マイデザイン 131

USBメモリー(オプション）に保存された刺しゅうモチーフ 131

«編集»画面 132

«編集»画面一覧 132

機能の説明 132
- インフォメーション 132
- 戻る 132
- 確認チェック 132
- 画面を閉じる 132
- 刺しゅう枠内でのモチーフの移動 132
- ズームアップ 132
- ズームアウト 132
- モチーフの移動 133
- 左右反転 133
- プロポーションを維持してモチーフの拡大、縮小 133
- 上下反転 133
- モチーフの回転 133
- モチーフの削除 133
- 刺しゅう枠の選択メニュー 134
- 格子ガイド 134
- 刺しゅう機の調整 134
- モチーフの中心 134
- 刺しゅう枠を後方に移動 134
- バーチャルポジショニング（仮想位置合わせ） 135
- 刺しゅう機の待機位置 135
- 刺しゅう枠とモチーフのサイズの確認 135

刺しゅう操作メニューの一覧 136
- 押え金表示 136
- セキュリティプログラム 136
- カラー情報 136
- モチーフの選択 137
- 糸切れ 137
- 編集 137
- 色番号 137
- 塗りつぶし機能 137
- 刺しゅう操作メニュー/スタート/ストップ 137
- しつけ縫い 138
- 刺しゅう機の調整 138
- 刺しゅう枠の移動 138
- 刺しゅう枠を後方に移動 138
- 刺しゅう枠の移動 138

選択メニュー画面 139
- 新しいモチーフ 139
- モチーフの保存 139
- モチーフの削除 139

カラー画面 140
- 糸のブランドを変える 140

刺しゅうモチーフ 141

刺しゅうモチーフを選ぶ 141

文字 141
- 書体を選びます 141
- 文字列の入力と修正 141
- 文字を削除する 141
- 修正 141

ベルニナオリジナルモチーフ 142
- モチーフの一覧 142

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

マイデザインフォルダー 142
- モチーフの一覧 142

モチーフと機能を組合わせる 143
モチーフの移動 143
プロポーションを維持して拡大、縮小 143
モチーフの回転 143
モチーフの反転 144
モチーフの中心 144
刺しゅうの位置合わせ 145
刺しゅうモチーフのサイズを確認する 145
刺しゅう枠の選択 145
ズーム 146
モチーフの移動 146
モチーフのサイズとし刺しゅう時間 146
モチーフの色 147
- モチーフの色を変える 147

糸のブランドを入れ替える 147
単色で刺しゅうする 148
しつけ縫い 148
- しつけ縫いをオフにする 148

モチーフの保存 149
刺しゅうメモリー 149
メモリースティック 150

モチーフの上書き 151

保存した単体のモチーフを削除する 152
- 削除をキャンセルする 152

保存されている全てのモチーフを削除する 153
- 削除作業をキャンセルする 153

刺しゅうを始める 154
刺しゅう枠の選択 154
- 刺しゅう枠を取り付ける 154
- 刺しゅう機のアームの取付金具に刺しゅう枠を取り付けます 154
- 刺しゅう枠を取り外す 154

刺しゅうメニュー 155
ミシン上の«スタート/ストップ»ボタンを押して刺しゅうを始める 155
- 途中で止めるには 155
- 一つの色を完成させる 155
- 糸を交換する 155
- «刺しゅう»画面 155

フットコントローラーを使って刺しゅうする 156
- フットコントローラーで刺しゅうを止める 156
- 一つの色を完成させる 156
- 糸を交換する 156
- «刺しゅう»画面 156

刺しゅう途中に糸が切れる 157
上糸、下糸が切れる。 157
糸が切れたときの手順 157
- 刺しゅう画面に戻る 157
- 刺しゅうを再開する 157

クリーニング 158
- 液晶画面とミシンの掃除の仕方 158
- 送り歯周辺 158
- 大釜の掃除 158
- 注油について 158

トラブルシューティング 159

ステッチの一覧 164
実用縫いステッチ 164
ボタンホール 164
飾り縫い 164
文字 167

刺しゅうモチーフの一覧 170

アルファベット 175

索引 176

記号の説明

危険!
特に重要!
ケガの危険あり!

ご注意!
特に重要!
機器への損傷の危険あり!

ヒント!

用語解説

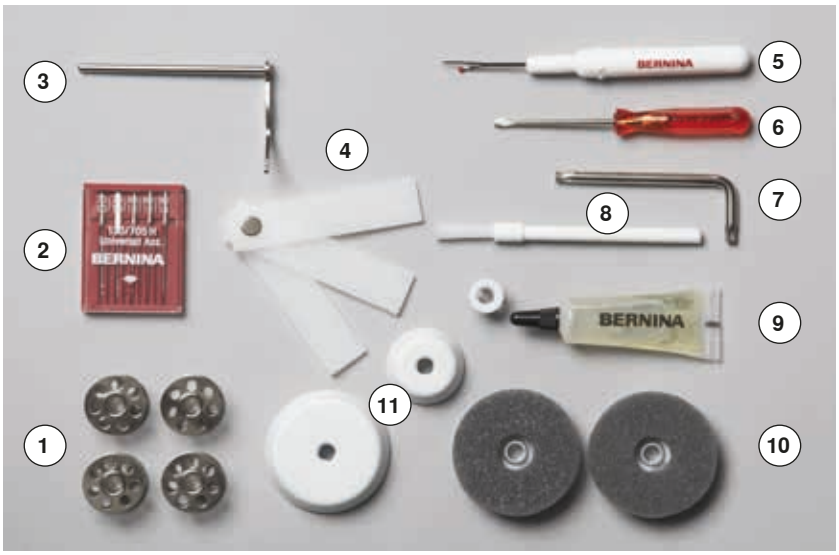
バランス	布により発生するステッチの歪みを補正すること
折り目	布を折り返した折り山
BSR	ベルニナステッチレギュレーター。所定のスピードで安定した長さのキルティングステッチを縫います。
clr	設定やデータを消去する
釜の剣先	上糸の輪を«すくい», 下糸と絡ませて一つのステッチを構成する部品
LMS	ボタンホールの長さ測定機能
メモリー	恒久メモリー
ベルニナUSBメモリー	持ち運び可能な記憶装置
サテンステッチ	密度の濃いジグザグ縫い
バータック	ボタンホールの環留め

無断転載禁ず
技術的な理由、そして製品改良の為にミシンの機能、部品、アクセサリー等が予告なく変更、改良されることがあります。付属品の仕様は国により異なります。

アクセサリー

標準アクセサリー

1 キャリングバッグ
2 アクセサリーボックス
3 シームガイド
4 フットコントローラー
5 電源コード
6 ソーイングテーブル
7 押え上げレバー



1 ボビン5個（一個はミシンに装着）
2 標準針セット
3 キルティングガイド
4 高さ調節板
5 シームリッパー
6 赤い小型ドライバー
7 特殊L型レンチ
8 ブラシ
9 オイル
10 糸こまクッション2個
11 糸こまカバー3種類

押え金

1 No. 1 標準押え
2 No. 3A 布ガイド付自動ボタンホール押え
3 No. 4 ファスナー押え
4 No. 5 まつり縫い押え
5 No. 20 オープン刺しゅう押え
6 No. 37 パッチワーク押え*
7 No. 42 BSR押え*

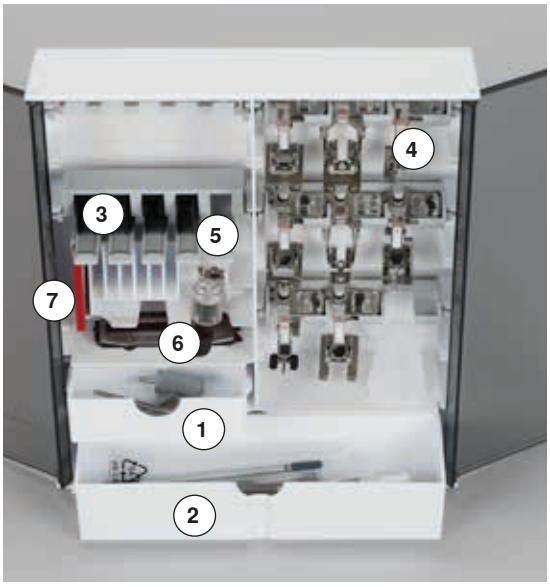
* BERNINA 555では標準品に含まれません。

www.bernina.com をご覧になり、更に豊富なアクセサリーを見つけて下さい。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

スタンド式アクセサリーボックス

- ボックスの後ろ側にある脚部分を、カチッという音がして固定するまで引き出して下さい。

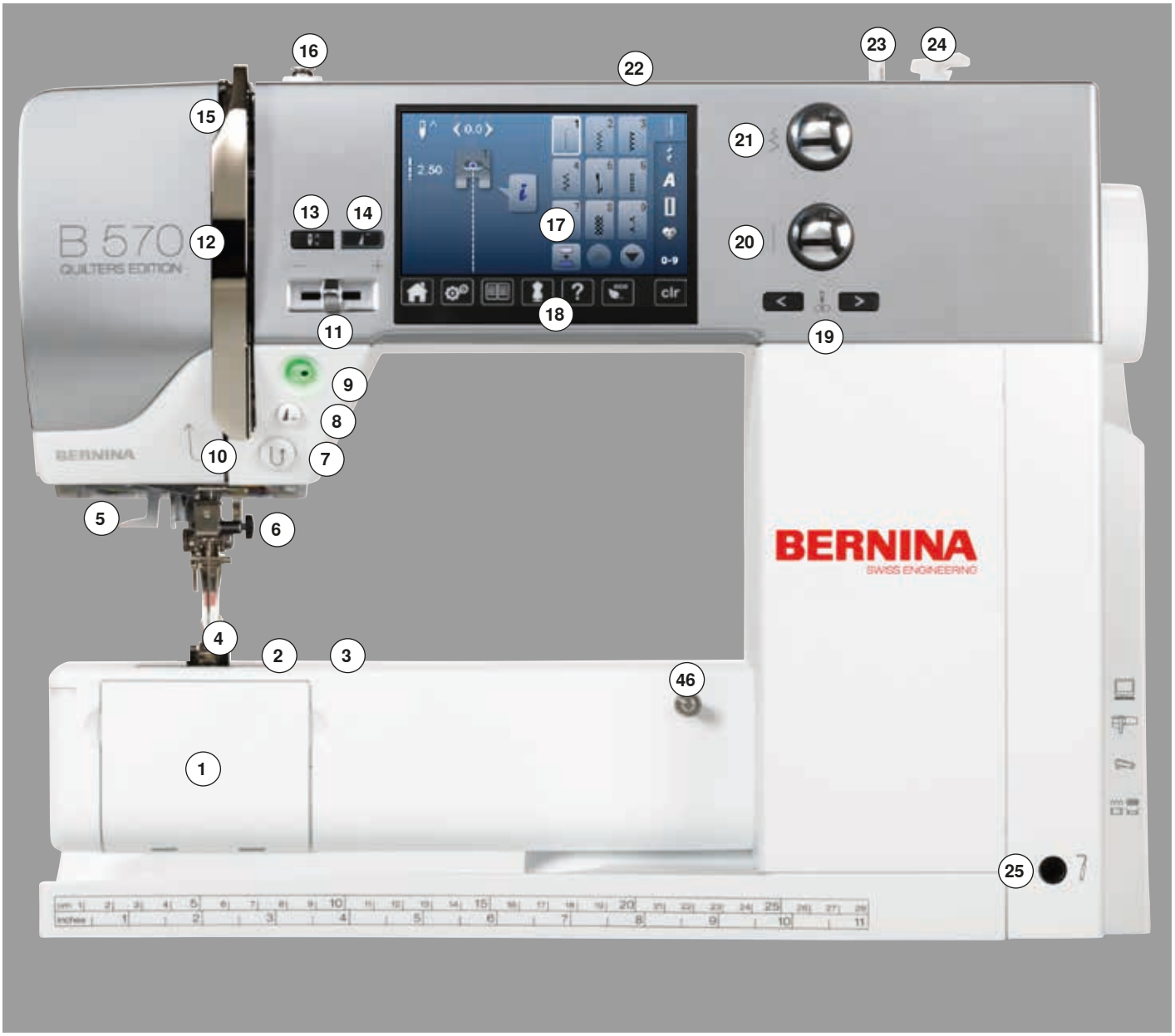


収納例
アクセサリーボックスには、小型引き出し1、大型引き出し2、ボビンホルダー3および押え金ホルダー4が標準装備されています。

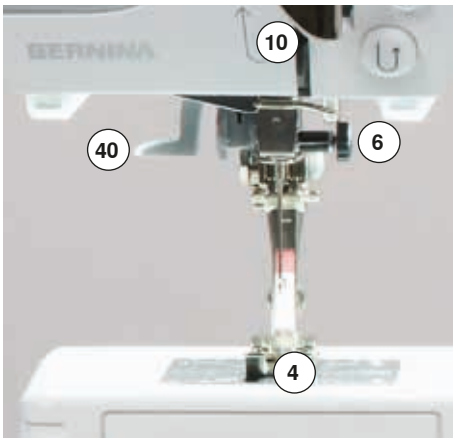
- ボビンを取り外すには、ホルダーの5部分を軽く下に押します。
- 布ガイド付自動ボタンホール押え3Aは、左側の6に収納できます。
- 針ケースは、7の縦型収納スロットに収納します。

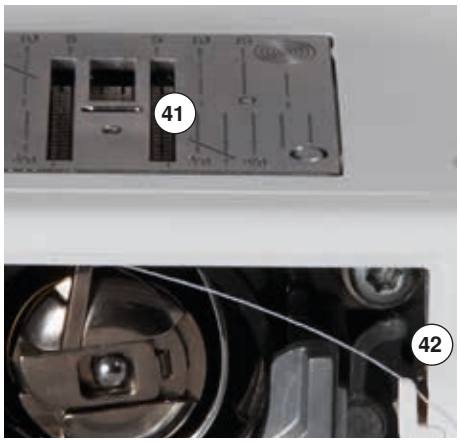
ミシン各部の名称

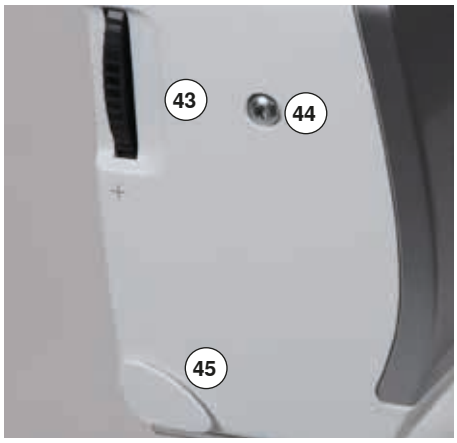
前面



細部拡大







036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

1 釜カバー
2 針板
3 オプションアクセサリー取付け穴
4 押え金
5 LED-ソーイングライト
6 針止めネジ
7 «返し縫い»ボタン
8 «模様終わり»ボタン
9 «スタート/ストップ»ボタン
10 糸ガイド
11 スライド・スピードコントロール
12 天秤安全カバー
13 «針上/下停止»ボタン
14 «模様頭出し»ボタン
15 天秤
16 下糸巻用テンション付糸案内
17 画面
18 «ソーイングサポート»ボタン
- «ホーム»ボタン
- «セットアップ»ボタン
- «チュートリアル»ボタン
- «ソーイングコンサルタント»ボタン
- «ヘルプ»ボタン
- «eco»エコボタン
- «clr»クリアボタン

19 «針基線»ボタン
20 送り長さ調節ダイヤル
21 振り幅調節ダイヤル
22 キャリングハンドル
23 下糸巻取装置
24 下糸巻き糸切り
25 押え上げレバー接続穴
26 後部上糸案内
27 水平糸こま立て
28 垂直糸こま立て（折りたたみ式）
29 アイレット糸案内
30 はずみ車
31 上糸ダイヤルテンション
32 電源スイッチ・オン «I»/オフ «0»
33 電源コード用ソケット
34 USB-ソケット
35 PC接続用コネクター（ソフトのアップデート・パソコンソフト用）
36 刺しゅう機接続用ソケット
37 フットコントローラー用ソケット
38 送り歯ドロップボタン
39 換気口
40 針糸通し機
41 送り歯
42 下糸切り
43 押え圧調節ダイヤル
44 面板固定ネジ
45 糸切り（ミシン左側面）
46 ソーイングテーブル固定用突起
47 繕い縫いアタッチメント取付け穴
48 押え上げレバー
49 BSR接続ソケット

ソーイングに関する重要事項

糸

糸は、用途に合わせて選びます。きれいな縫いあがりを得るために、糸を布地の種類に合わせて選ぶことが大切です。高品質の糸を使うことをお勧めします。

コットン糸
- コットン糸は天然の繊維を使った糸で、コットン地を縫うには最適な糸です。
- シルケット加工されているコットン糸は、光沢があり、洗濯しても変わりません。

ポリエステル糸
- ポリエステル糸は大変丈夫で、耐退色性に優れています。
- コットン糸より伸縮があり、用途が広く特に強度や伸縮を要求されるようなソーイングに最適です。

レーヨン糸
- レーヨン糸は天然繊維を使って作られており、大変光沢の良い糸です。
- レーヨン糸は飾り縫いに適しており美しい仕上がりを約束します。

針と糸と布地

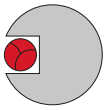
ご注意!
針の状態を常にチェックしましょう!
新しいソーイングプロジェクトを始めるときはできるだけ、新しい針に交換するようにしましょう。傷んだ針を使うと、作品を台無しにするだけでなく、ミシンを壊す結果にもつながります。

針と糸の選択には特に注意が必要です。

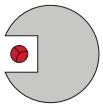
正しい針のサイズは、糸と布地に合わせて選びます。布地の厚さやタイプにより、糸を選び、その糸に合った針のサイズとタイプを選びます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

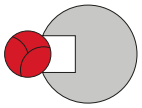
針、糸



正しい針と糸の組合わせ
縫うときは、糸が針の縦に付けられた溝に滑らかに収まらなければなりません。



細い糸に太すぎる針の組み合わせ
糸が針の溝の中で不安定な動きをしてステッチを乱す原因になります。目飛びや糸切れ等の原因になります。

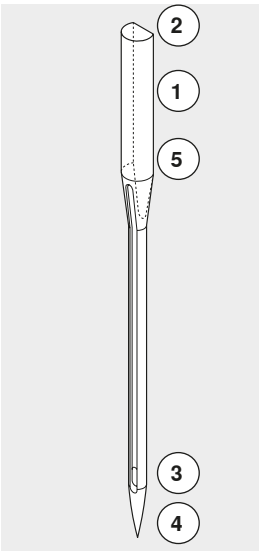


太い糸に細すぎる針の組合わせ
糸が針の溝から飛び出して、針の側面と擦れたり、布にフラッギング（上下に動く）現象を起こします。糸絡み、糸切れや目飛びの原因になります。

ガイドライン

布地と糸と針のサイズの相関関係	針サイズ
薄地: 細手の糸（しつけ糸、刺しゅう糸）	70-75
中厚地: ミシン糸	80-90
厚地: ソーイング糸（キルティング用糸、トップステッチ用糸）	100, 110, 120

130/705 H-S/70



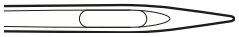
1 130 針シャンクの長さ
2 705 針シャンクが平らである
3 H 針スカーフ（くびれ）
4 S 針先の形状（この例では、ミディアムボールポイント）
5 70 サイズ（針シャンクの直径）

針の一覧表

標準針
130/705 H/60-100

標準の針先形状で少し丸みを帯びている。

ほとんどの天然および合成繊維（織地およびニット）に。



メタフィル針
130/705 H-MET/75-80 またはH-SUK/90-100

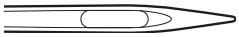
大きな針穴

メタリック糸用。

ジャージーおよびストレッチ針
130/705 H-S, H-SES, H-SUK/70-90

ボールポイント

ジャージー、トリコット、ニット、伸縮地に。



コルドネット(トップステッチ)針
130/705 H-N/80-100

長めの針穴、小さなボールポイント。

厚手の布地のトップステッチ用に。

レザー針
130/705 H-LL, H-LR/90-100

カッティングポイント

すべてのレザー、合成皮革、ビニール地シート類に。

ウィング針(ヘムステッチ針)
130/705 HO/100-120

ウィング（幅広い羽付）針

ヘムステッチに。

ジーンズ針
130/705 H-J/80-110

非常に細く鋭い針先

ジーンズ地、キャンバス地、オーバーオール等の厚手の布地に。

ダブルウィング針
130/705 H-ZWI-HO/100

ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果用。

マイクロテックス針
130/705 H-M/60-90

特別に細く鋭い針先。

マイクロファイバー地、シルク

二本針
130/705 H-ZWI/70-100

2本の針の間隔 1.0/1.6/2.0/2.5/3.0/4.0

伸縮地で縁飾り、ピンタック、飾り縫いに。

キルティング用針
130/705 H-Q/75-90

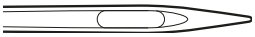
細く鋭い針先

直線縫いおよびトップステッチに。

三本針
130/705 H-DRI/80

針の全幅: 3.0mm

伸縮地で縁飾り、ピンタック、飾り縫いに。



刺しゅう針
130/705 H-SUK/70-90

大きな針穴、多少ボールポイントの針先

あらゆる天然繊維や化学繊維での刺しゅうに。

メモ

ソーイングの準備

電源スイッチおよび電源コード

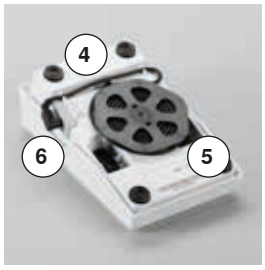
1　電源スイッチ
ミシンは、«I»でスイッチオン、«0»でオフとなります。

I　電源がオンになった状態
0　がオフになった状態

2　電源コード用ソケット
3　フットコントローラー用ソケット
4　刺しゅう機接続用ソケット
5　PC接続用コネクター（ソフトのアップデート・パソコンソフト用）
6　USB-ソケット

フットコントローラー

フットコントローラーの接続
- コードを取り出します。
- プラグをミシンのソケット1に差し込みます。
- コードを必要な長さだけ取り出し、4 または 5に固定します。



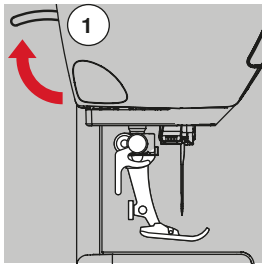
スピードコントロール
フットコントローラーのペダル2を踏み込む加減でスピードをコントロールします。

針を上下する
- フットコントローラーのかかと部分3を踏み込みます。
- ► 一回踏み込む度に針を上げたり、下げたり出来ます。

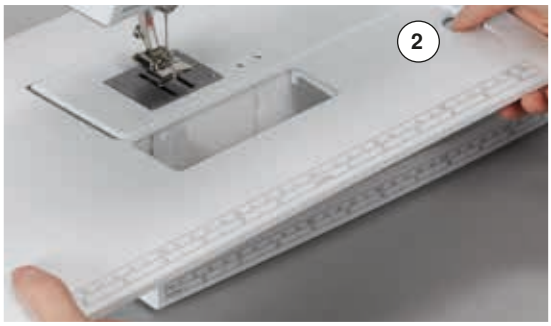
フットコントローラを取り外す
- コードを底にあるリールに巻き付けます。
- プラグを6の収納穴に差し込みます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

ソーイングテーブル



- はずみ車を手前に回します（15ページ　参照）。
- ► 針が上がります。
- 押え上げレバー1 を上げます。
- ► 押え金が上がりました。



ソーイングテーブルはソーイングスペースを広げます。

ソーイングテーブルを取り付ける
- 針と押え金を上げます。
- フリーアーム部に合わせてカチッと接続するまでスライドさせます。

ソーイングテーブルを取り外す
- 針と押え金を上げます。
- ボタン2 を押し下げたままにします。
- ソーイングテーブルを左方向へスライドして取り外します。

シームガイド
- シームガイドの脱着ボタンを押して、テーブルの正面から軽く押し付けるようにして取付けます。

テーブルの端から端まで移動できます。

フリーハンドシステム（FHS）

フリーハンドシステムを使うと押え金を上げ下げ出来、同時に送り歯も下げます。

膝押え上げレバーの取り付け方
- 取付け用穴に差し込みます。

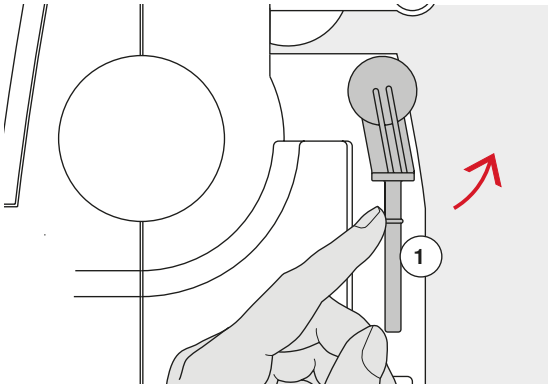
押え金を膝の操作で上げたり、下げたりする
- レバーを膝で右方向に押しやります。

座った状態でレバーを膝で操作します。
- ► 押え金を上げ、同時に送り歯を下げ、また、ダイヤルテンションを開放します。

送り歯はソーイングを始めると自動的に瞬時に上がり縫い始めます。

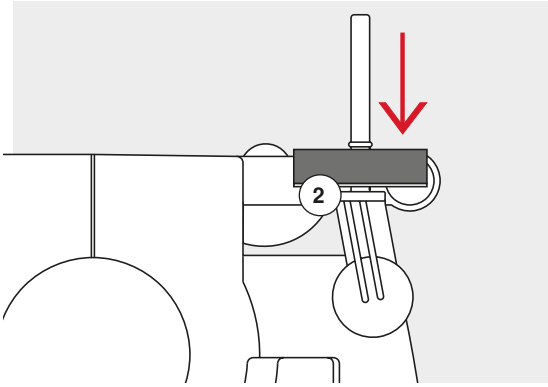
レバーの角度は代理店に依頼すれば調整できます。

垂直糸立て棒て（折りたたみ式）



折りたたみ式の垂直糸立て棒がはずみ車の後方に装置されています。
二本針ソーイングをする時などには必須の装置です。また縫いながら下糸巻きをするのにも便利です。

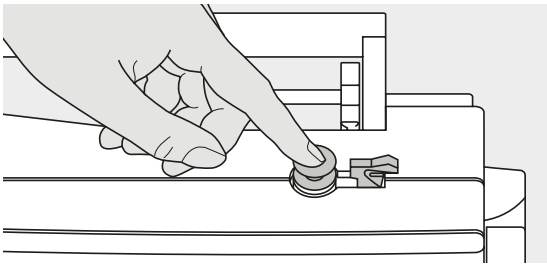
- 糸立て棒を手前に向けて引き起こします1。



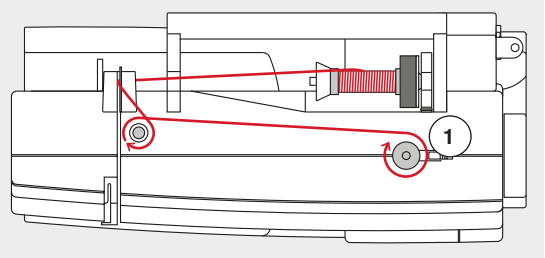
- 糸こまクッション2を使うと糸こまが安定します。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

下糸を巻く

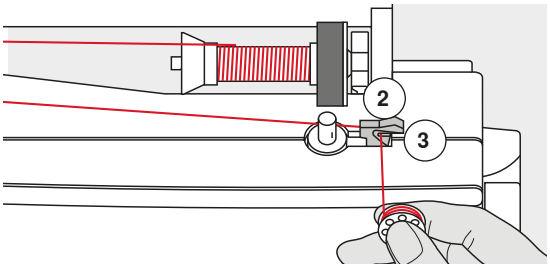


- 電源スイッチをオン«I»にしてください。
- 空のボビンを糸巻き軸に装着します。

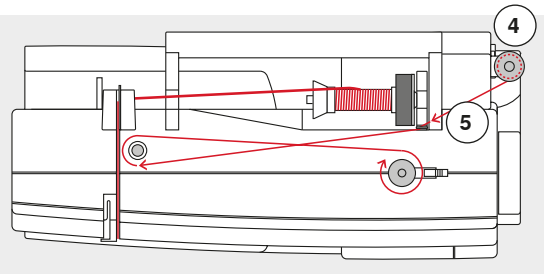


- まず糸こまクッションを取り付けます。
- 糸こまを装着します。
- 適当なサイズの糸こまカバーを取り付けます。
- 次に、ミシン上の矢印案内に従がって上糸を後方糸ガイドに通した後、下糸巻きガイドに回して掛けます。
- 空のボビンに糸を2～3回巻きつけます。
- 余分な糸は糸巻き用の糸切り1で切り取ります

適切なサイズの糸こまカバー
糸こまのサイズに合った糸こまカバーで糸こまと糸こまカバーの間に隙間の無いように糸こまをセットします。

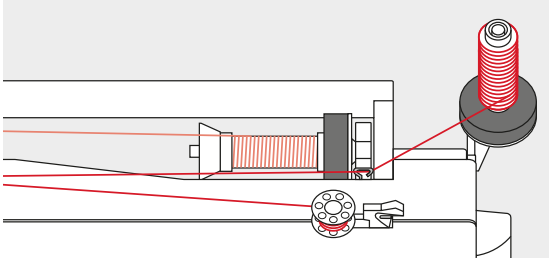


- 糸巻きスイッチ2をボビンに対して押し込みます。
- ► 糸巻きが始まります。
- ► 糸巻き画面が表示されます。
- 画面中の丸いつまみを左右に動かすか、または、
- 送り長さ調節ダイヤル（14ページ参照)を回します。
- ► 糸巻きのスピードを調節できます。
- ► ボビンが一杯になると自動的に止まります。
- ► 画面が閉じられます。
- ボビンを取り外し、
- ボビンから出ている糸を糸巻き用糸カッター3で切り取ります。



ソーイング中の下糸巻き

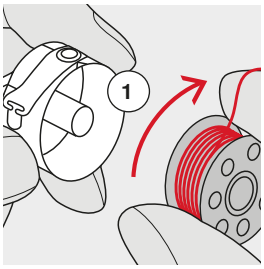
- 垂直糸立て棒にクッション付き糸こま土台4を取り付けます。
- 垂直糸立て棒に糸こまを取り付けます。
- 矢印案内に従がって糸案内5に糸を掛け、
- 糸巻き用糸案内に糸を掛けます。

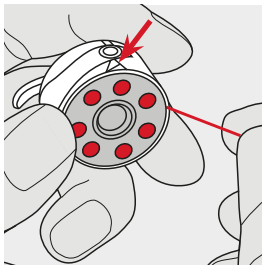


先に説明したとおり進めます。

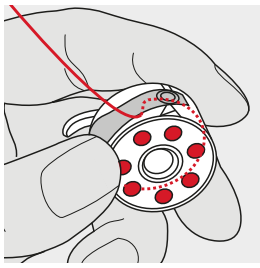
垂直糸立て棒を使って糸巻きする時は、糸こまが踊らない様に糸巻きの速度を緩めに調節しましょう。

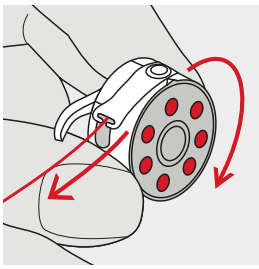
ボビンをセットする/下糸を掛ける





- 糸が時計方向1に向く様にボビンをセットします。
- 糸をボビンケースの溝を通して逆方向に引きます。

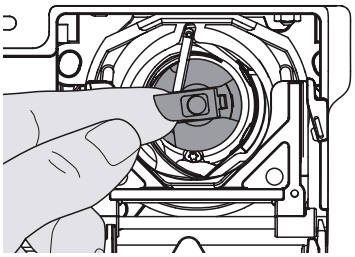




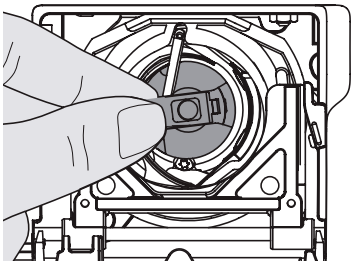
- テンションスプリングの下に糸をもぐらせて引きます。
- テンションスプリングの端のT字型の溝に糸を通します。

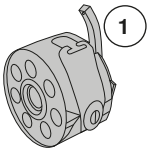
- 糸を引きます。
- ボビンが時計方向に回るのを確かめます。

ボビンケースの脱着



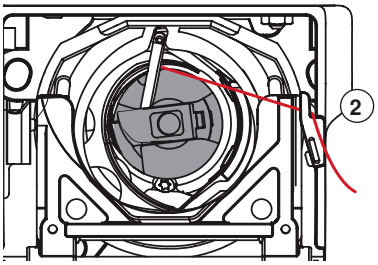
ボビンケースを取り出す
- 針を上げます。
- 電源スイッチをオフ«0» にします。
- 釜カバーを開けます。
- ボビンケースの爪の部分を指で起こしてつまみ、
- ボビンケースを取り出します。





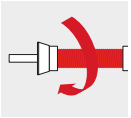
ボビンケースを挿入します。
- 爪の部分を左手でつまみます。

ボビンケースの角 1 は上を向いています。.
- カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。

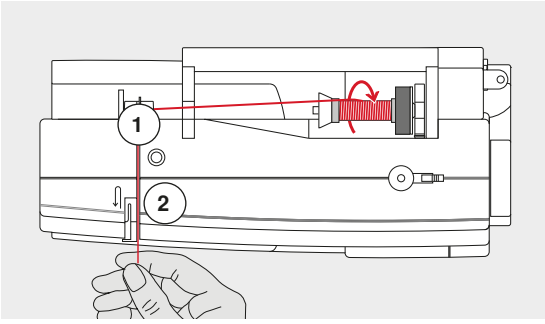


下糸切り
- ボビンから出ている糸を糸巻き用糸カッター2 で切り取ります。
- カバーを閉じます。

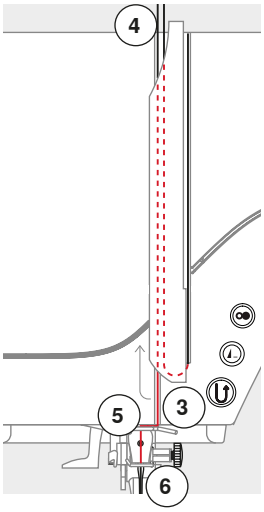
上糸を掛けます

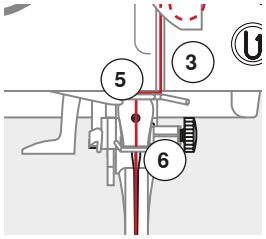


- 針と押え金を上げます。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- まず糸立て棒に糸こまクッションを取り付けます。
- 糸が時計方向に出てくるように糸こまをセットします。
- 適当なサイズの糸こまカバーを取り付けます。



- ミシン後部の糸案内1に糸を通します。
- 次に上糸テンションダイヤル2に通して、

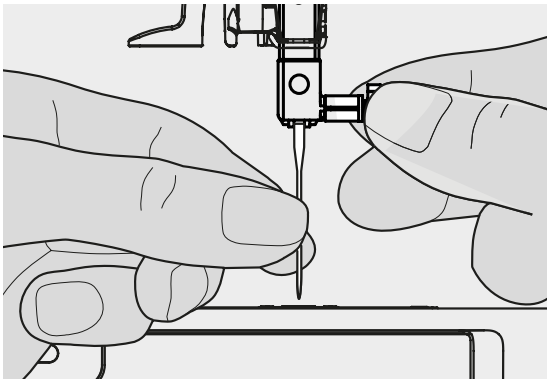




- 天秤カバーの右側に沿って3で上に回し、
- 天秤安全カバー4の左側に沿って糸を持ち上げ、天秤に糸を掛けて、
- 最後に5 と6、それぞれの糸案内に糸を掛けます。
- 針に糸を通します。(27ページ参照)

適切な糸こまカバー
糸こまのサイズに合った糸こまカバーを選びます。糸こまと糸こまカバーの間には隙間が無いように糸こまカバーをセットします。

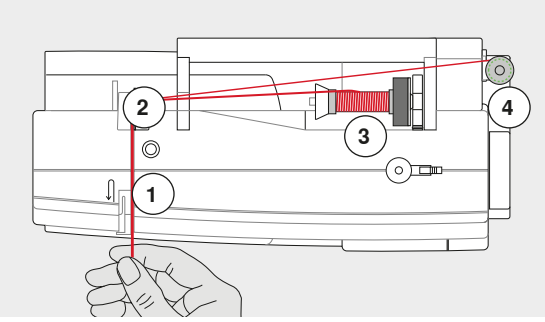
針の交換



針を交換する
- 針を上げます。
- 押えを下げるか、取り外します。(27ページ 参照)
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- 針止めネジを緩めます。
- 針を下に引いて抜き取ります。

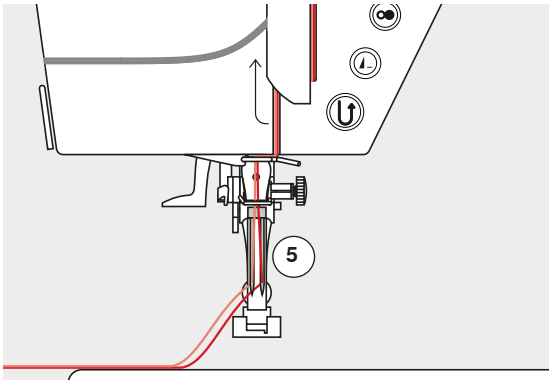
新しい針を取り付ける
- 針の平らな面を後ろに向けます。
- 針が当たって止まるまで上に差し込みます。
- 針止めネジを締めつけます。

二本針の糸通し



最初の糸掛け

- 電源スイッチをオフ «0»にします。
- 二本針を取り付けます。
- 針と押え金を上げます。
- まず糸こまクッションを取り付けます。
- 糸こま3 を水平糸立て棒にセットします。
- 適切なサイズの糸こまディスクを取り付けます。
- 後方糸案内 2に糸を掛けます。
- 糸をダイヤルテンションのディスク1 の右側に通します。
- 糸を通常の糸掛けの様にガイドし、
- 右側の針に手で糸を通します。



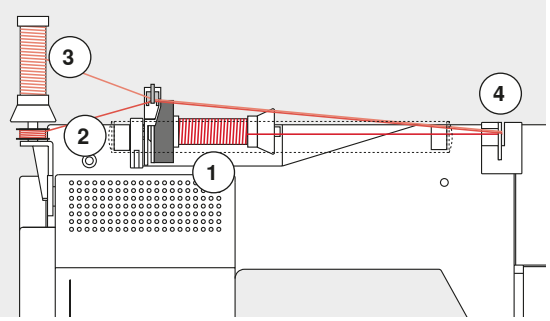
二本目の針に糸を通す

- 垂直糸立て棒にクッション付糸こま土台を取り付けます。
- 二つ目の糸こま4 を垂直糸立て棒にセットします。
- ミシン後側の糸案内 2に糸をかけます。
- 糸をダイヤルテンションのディスク1の左側に通します。
- 通常の方法で針まで糸を掛け、
- 左側の針に糸を通します。

二本の糸 5を絡ませないように。

垂直糸立て棒を使うときは必ずクッション付き糸こま土台を使います。糸こまから糸が滑り落ちて糸立て棒に絡みつくのを防ぎます。

三本針に糸を掛ける



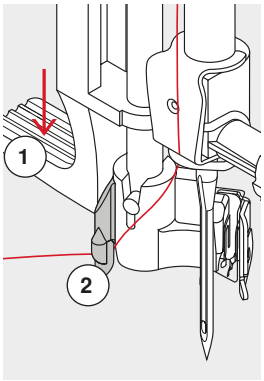
二つの糸こまと糸を巻いたボビンを準備します。

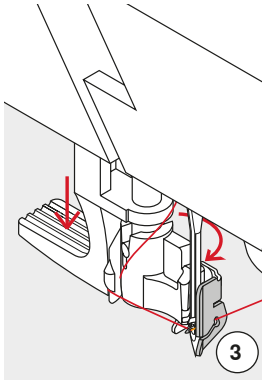
- 三本針を取り付けます。
- 糸こま 1 を水平糸立て棒にセットします。
- 垂直糸立て棒に、二番目の糸こま3 とボビン2の間に糸こまディスクを挟むように、また同じ方向から糸が出るようにセットします。
- 糸掛けを通常通りにし、
- 二本の糸を左側のテンションディスク4に通し、一本の糸を右側のテンションディスクに通します。
- 針まで通常通りに糸を掛け、
- そして全ての針に糸を通します。

補助糸ガイド（オプション）を使えば、メタリック糸やシルク糸の流れがスムーズになります。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

針に糸を通す

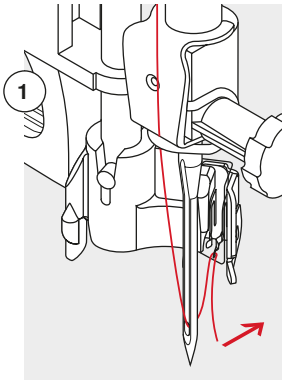


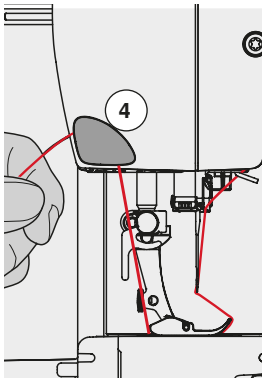


フットコントラーを軽く一回踏み込んで針を上げます。(1 ステッチ)

- 針を上げます。
- 押え金を下げます。
- 電源スイッチをオフ «0»にします。
- 糸を矢印のように左へ引き、そして後方へ。
- 糸通しレバー1を押し下げたままにします。
- フック2に糸を右から左へと回すように掛け、右方向に引っ張りながら針の前に引きます。

- 糸を前方からガイド3 に押し付けるようにするとフックに引っ掛かります。



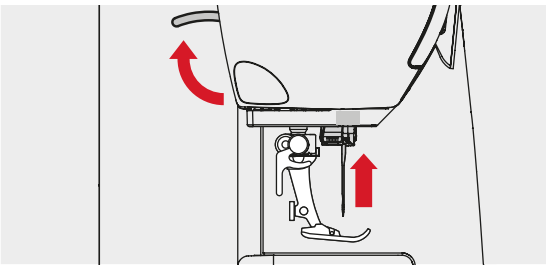


- レバー1を放します。
- ► 糸掛けが完了しました。
- 糸を後ろへ引き、

- 糸を押えの下に回し、前から後ろへ引き、ミシンの側面にある糸切り4で切ります。

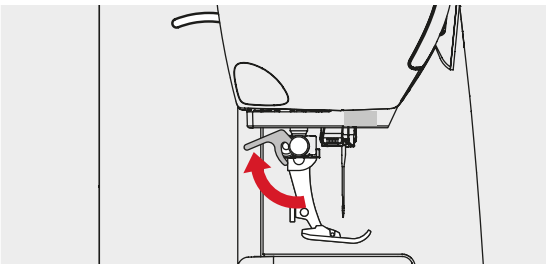
糸切りに引っ掛けた糸は縫い始めると自動的に外れます。

押え金の交換方法

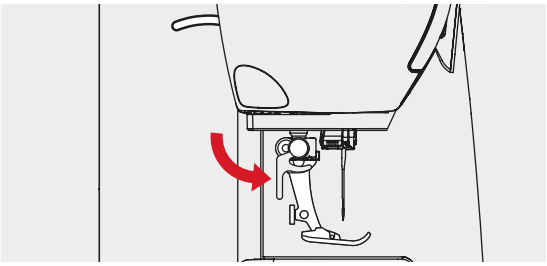


押え金を取り外す

- 針と押え金を上げます。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。



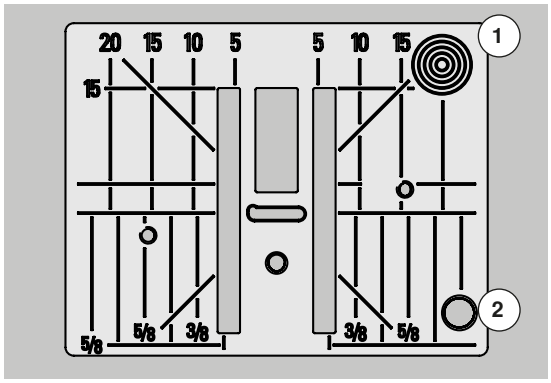
- 押え止めレバーを上げます。
- 押え金を取り外す。



押え金を取り付ける

- 押え金を押え棒の先端にかぶせるようにして、押し上げます。
- 押え止めレバーを押し下げて押え金を固定する。

針板



針板上のマーキング

– 針板の表面にはミリ(mm)とインチ表示で布ガイド用の線が水平、垂直、斜めに刻印されています。
– 刻印されたラインは布地のガイドとして、またトップステッチに便利です。
– 水平の目盛り線はコーナーの仕上げやボタンホールに便利です。
– 斜線はキルティングに便利です。
– 針が刺さる位置は «0» (針基線中心で)
– 垂直の目盛り線は針位置がセンターにある場合の針からの距離です。
– 寸法は、中央の針基線から左右に向かって印されています。

針板を取り外す

- «送り歯ドロップ»ボタン(15ページ参照)を押し込む。
► 送り歯が下がります。
- 電源スイッチをオフ «0»にします。
- 押え金と針を取り外します。
- 針板の右側後方の角 1 を指で押し付け針板を浮かび上がらせます。
- 針板を取り外します。

針板を取り付ける

- 針板をベッド上の所定の位置 2 に合わせます。
- 針板の右側をベッドに当てて左側を押し下げて取り付けます。
- «送り歯ドロップ»ボタンを再度押し込みます。
► 送り歯は縫い始めると自動的に上がってきます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

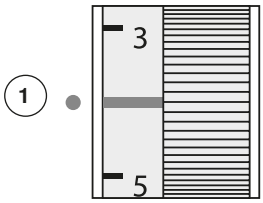
糸調子

糸調子は、工場出荷時の初期設定で最適の状態に調節されています。上糸および下糸テンションの初期設定に使われた糸は、メトロシーンのセラロン100/2（スイス、メトラー社）です。

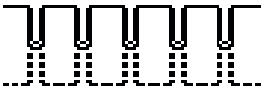
他のソーイング糸または刺しゅう糸を使用する場合には、最適なテンションに合わせる必要があるかもしれません。こんな時は、布地およびステッチに合わせて、糸調子を調整する必要が生じます。

例えば:

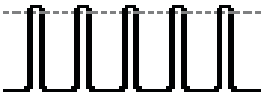
	テンション	針
メタリック糸	約3	90
モノフィラメント透明糸	約 2-4	80



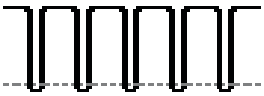
基本セッティング
– 基本はダイヤルテンションの上に赤く表示された位置 1が標準です。
– 普通の布地では、糸調子の調整は必要ありません。
– 特殊な布地などでは、布に合わせて、糸調子を調整することが必要です。



完璧な状態のステッチテンション
上糸と下糸が、布の内部で釣り合っています。



上糸調子が強すぎる。
下糸が、布の表面に引き出されてしまっています。
- 上糸の調子を弱めるには、糸調子の調整用ダイヤルを3から1までの間で下げます。

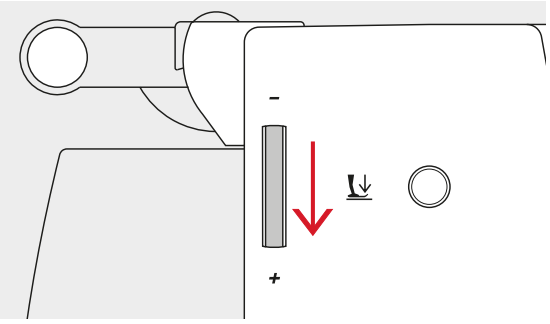


上糸調子が緩すぎる。
上糸が、布の裏面に引き込まれてしまっています。
- 上糸の調子を強めるには、糸調子の調整用ダイヤルを5から10までの間で上げます。

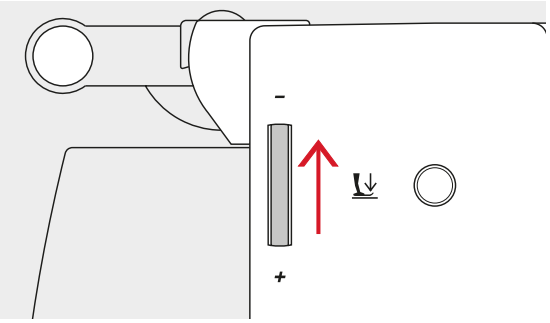
押え圧の調節

ミシンの左側面の調節用ダイヤル**1**で押え圧を調節します。

押え圧
基本セッティング = 46

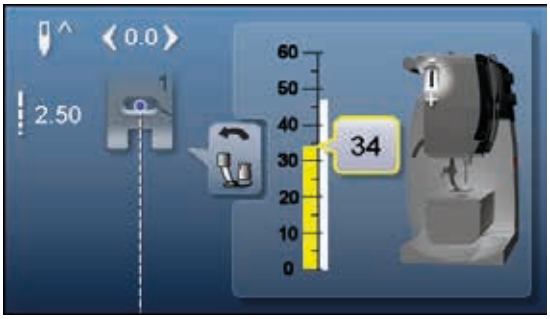


押え圧を強くする
– デニムのような硬い布地などで布地の送りを良くします。



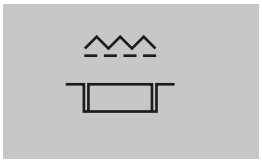
押え圧を弱くする
– ジャージーや目の粗いニット地など。
– 布地が伸びるのを防ぎます。
● 布地が正確に送られるように押え圧を調節します。

● «i»アイコンをタッチします。
● «押え圧»アイコンをタッチします。

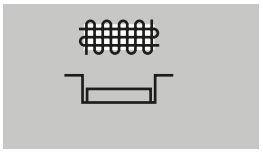


押え圧表示
► «押え圧»画面が表示されます。
► 変更した押え圧が目盛りの中に(黄色)で表示され、黄色枠のアイコンにも表示されます。
► 基本の押え圧は(白く)表示されています。

送り歯を下げる/縫い始める



«送り歯ドロップ»ボタン**1**がミシンの側面カバーと同じ高さにある時
► 送り歯は縫い始める状態にあります。

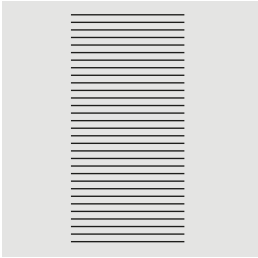


«送り歯ドロップ»ボタン**1**が押しこまれている状態
► 送り歯が下がっています。
フリーモーションソーイングの状態です。(繕い縫い、刺しゅう、キルティング等)

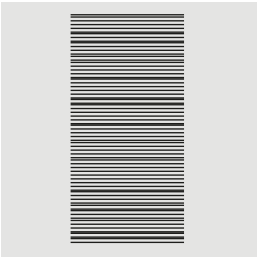
送り歯と布送り

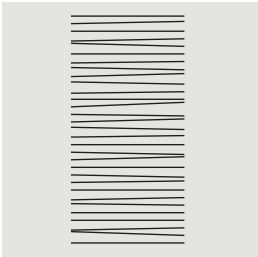
送り歯は、一針毎にワンステップ進みます。このワンステップの長さは、送り長さで指定した値です。

送り長さを非常に短く設定すると、送り歯の進みも小さくなります。そのため、ボタンホールステッチおよびサテンステッチ、また飾り縫い等の特に送り長さの小さなステッチでは、フルスピードで縫っても、布の送りは非常にゆっくりしたものとなります。



布は均等に送るようにします。





ご注意!
布を押し込んだり、引いたりすると、針折れを発生させたり、針板に傷をつけたりします。

布を押したり引いたり、押さえたりすると、針目が乱れてしまいます。

機能の説明

«機能»ボタンの一覧

«返し縫い»ボタン
- 縫い始めと縫い終わりで返し縫いします。ボタンを押している間、返し縫いを続けます。
- ボタンホールの長さをプログラムするのに使います。
- ダーニングの長さをプログラムするのに使います。
- 直線自動留め縫いステッチNo.5 で押すと返し縫いします。縫い始めと縫い終わりで手動での留め縫いに使用します。
- キルト用留め縫いステッチNo. 1324で使います。

«スタート/ストップ»ボタン
- フットコントローラーを 接続していても 、していなくても ミシン、または刺しゅうをスタート、ストップすることができます。
- BSR押えが接続されていて起動している時、BSR機能をスタート、ストップさせることができます。

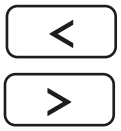
«模様終わり»ボタン
- ソーイング中にボタンを押します。
- ► ミシンは現在縫っているステッチ、またはコンビモードで組合わせた（メモリー中の）コンビネーションを縫い終わったところで、自動的に止まります。

スライド式スピードコントロール
- スライドつまみを動かすことで、ミシンのスピードを自由にコントロールできます。

«針停止»ボタン
- ボタンをタッチします。
- ► フットコントローラーで針を上下させるのと同じように、針を上下させることが出来ます。

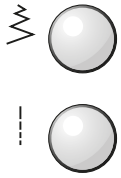
«模様頭出し»ボタン
- ボタンを押します。
- ► ステッチや組合せステッチの先頭から縫い始めます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA



«針基線»ボタン

- 左側のボタンを押します。
- ► 針基線が左に移動します。
- 右側のボタンを押します。
- ► 針基線が右に移動します。
- ボタンを押したままにします。
- ► 素早く移動します。
- – 全部で11の針基線があります。(左右にそれぞれ5ヶ所ずつ、および中央)

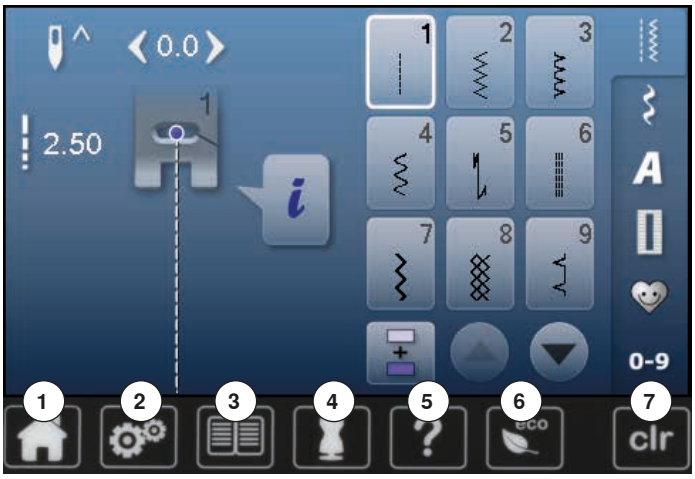


振り幅調節、送り長さ調節ダイヤル(多機能ダイヤル)

- – 振り幅、または送り長さを調節します。
- – ボタンホールのカット幅を調節し、またボタンのサイズを設定します。
- – バランスを調整します。
- – セットアッププログラムでいろんな設定作業に使います。
- – 刺しゅうで色々な作業に使います。

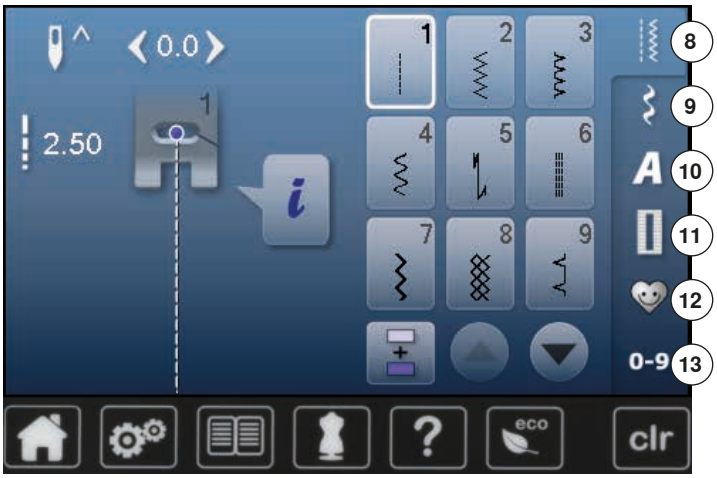
画面

主画面の説明



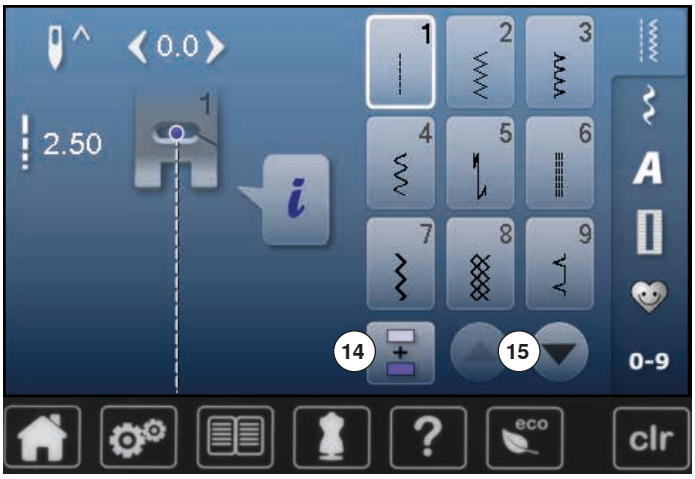
システムの設定

1 ホーム
2 セットアッププログラム
3 チュートリアル
4 クリエイティブコンサルタント
5 ヘルプ
6 エコモード
7 設定の取り消し

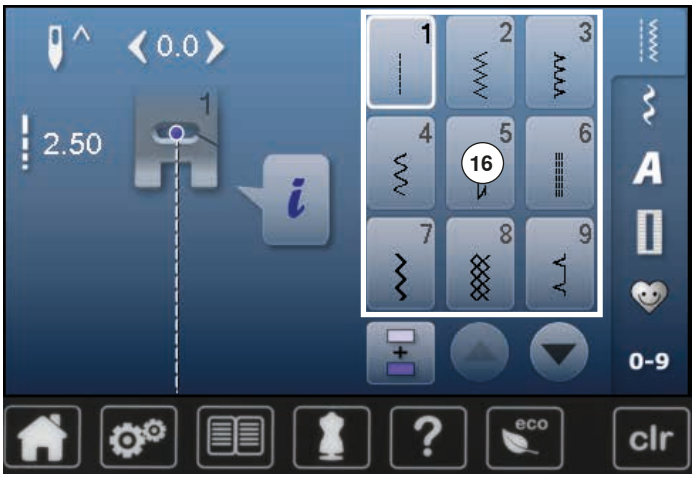


メニュー選択画面

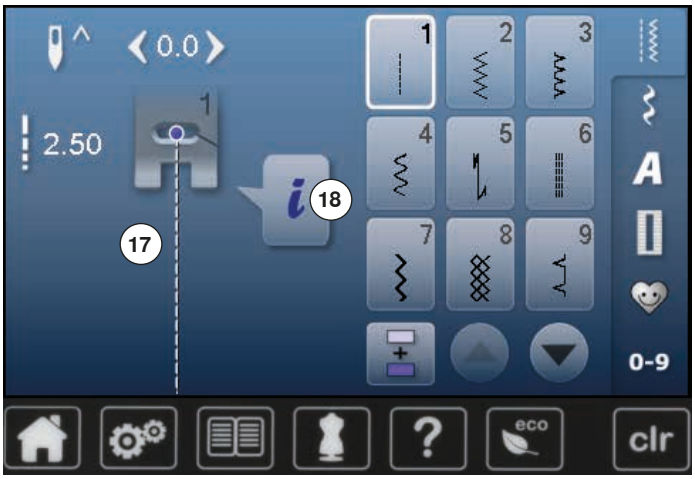
8 実用縫い
9 飾り縫い
10 アルファベット
11 ボタンホール
12 個人プログラム／メモリー
13 ステッチ番号で選ぶ



模様の選択方法
14 シングルステッチモードまたはコンビモード
15 スクロールアップまたはダウン



ステッチの選択
16 ステッチを選ぶ

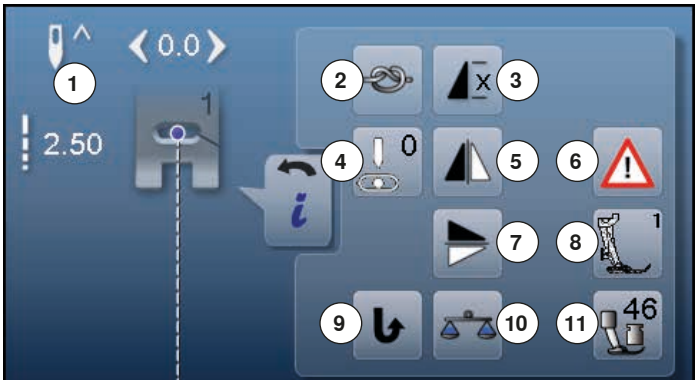


ステッチの表示
17 選択したステッチの表示
18 インフォメーション

機能 - 画面

ミシンの各種機能

- «i»アイコンをタッチします。
- 機能が画面に表示されます。



各種機能

1 針上下位置停止機能
2 留め縫い
3 模様繰り返し
4 針基線
5 模様左右反転
6 セキュリティプログラム
7 模様上下反転
8 推奨押え金表示
9 連続返し縫い
10 バランス
11 押え圧

機能の説明

インフォメーション
- アイコンをタッチします。
- ► 画面が表示されます。

戻る
- アイコンをタッチします。
- ► 前の画面に戻ります。
- ► 変更した内容は全て保存されます。

確認チェック
- アイコンをタッチします。
- ► 変更した内容または選んだ内容を確認、または実行します。

現在の画面を閉じる
- アイコンにタッチします。
- ► 画面が閉じられます。
- ► 前の画面に戻ります。

針上停止位置と«返し縫い»ボタン
ソーイング中に«返し縫い»ボタンを押したとき、または針上停止機能を使って(例えばジグザグ縫いを縫って)ミシンを止めた後に返し縫いボタンを押したとき、ミシンは前進で一針縫い、その後に返し縫いをします。

針下停止機能と«返し縫い»ボタン
(例えばジグザグ縫いで)針下停止機能を使ってミシンを止めたときに、«返し縫い»ボタンを押すとミシンは即座に返し縫いをします。

針上下位置停止機能
- アイコンをタッチします。
- ► 画面上の矢印が下を向きます。
- ► ミシンは常に針が下がった状態で止まります。
- アイコンをもう一度タッチします。
- ► 画面の矢印が上を向きます。
- ► ミシンは常に針が上がった状態で止まります。

留め縫い
- 縫い始める前にアイコンをタッチします。
- ► 縫い始めに4針留め縫いをしてから縫い出します。
- シングルステッチを縫っている最中にこのアイコンをタッチします。
- ► ステッチを完成した後に留め縫いをして、
- ► ミシンは自動で止まります。
- ステッチコンビネーションの中で留め縫いをセットするには、
- コンビネーションの中のどのステッチ模様でも縫い始め、または縫い終わりで留め縫いが可能です。

模様繰り返し
- アイコンを一回タッチします。
- ► 数字1が表示されます:ミシンはステッチまたはコンビネーションを一回縫って、止まります。
- アイコンを2回から9回タッチします。
- ► タッチした回数が表示されます:ミシンは、ステッチまたはコンビネーションを表示された回数を縫って止まります。

針基線
- 画面中の丸いつまみを指で左右に動かすか、
- 矢印アイコンを左右に押します。
- ► 針が左右に移動します。
- ボタンを押したままにします。
- ► 針基線を早く移動できます。
- ► 針基線は黄色い枠アイコンで表示されます。
- 黄色枠のアイコンをタッチします。
- ► 針基線が中央に戻ります。

模様左右反転機能
ミシンは進行方向に向かって模様を左右に反転して縫います。

セキュリティプログラム
- アイコンをタッチします。
- «針»または«針板»アイコンをタッチします。

針に関して：
- 使おうとしている«針»アイコンをタッチします。
- ► ジグザグの振り幅が自動的に制限されます。
- ► 二本針のような特殊な針を使うときに針が押え金や針板に当たって折れたりするのを防ぎます。
- ► 針アイコンに表示される数値は針の幅をミリで表示しています。
- «標準針»アイコンをタッチします。
- ► 標準針の設定に戻ります。
- ► ジグザグ幅の制限が解除されました。

針板に関して：
- 使おうとしている«針板»アイコンをタッチします。
- ► ジグザグの振り幅が自動的に制限されます。
- ► 針が押え金や針板に当たって折れたりするのを防ぎます。

ミシンの電源を切ってもこの機能は有効です。

模様上下反転機能
ミシンは模様を上下に反転させて縫います。

押え金表示
- アイコンをタッチします。
- ► 縫おうとしているステッチに使用可能なオプションの押え金を画面に表示します。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じます。

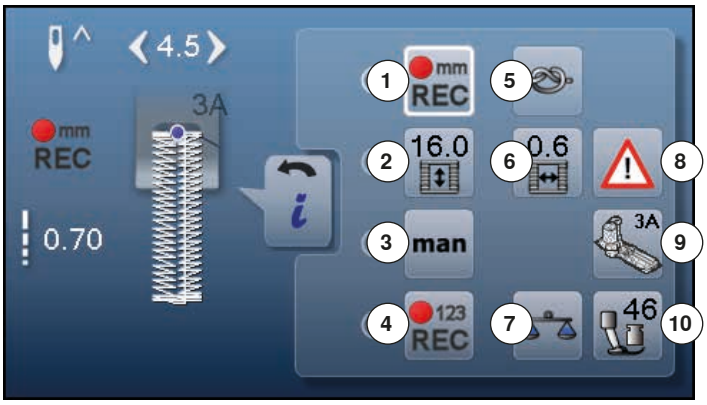
連続返し縫機能
ミシンは返し縫いを続けます。

バランス
前進、後進のステッチのバランスを調節できます。

押え圧
ミシンの左側にあるホイールを回して押え圧を調節できます。
- ► アイコンに設定した圧力が表示されます。

ボタンホール機能について

- ボタンホールアイコンにタッチします。
- ボタンホールを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。



ボタンホールを調節する

1 ボタンホール長さをプログラムする
2 ボタンホール長さの直接入力
3 マニュアルボタンホール
4 ステッチカウント・ボタンホール
5 留め縫い機能
6 ボタンホール穴の幅の調節
7 バランス
8 セキュリティプログラム
9 押え金表示
10 押え圧

ボタンホールの長さを設定する

► ボタンホールが選ばれるとアイコンは白枠で表示されます。
- ボタンホールを縫っている途中で«返し縫い»ボタンを押して長さを決めるか、または
- 次に説明されているアイコンをタッチして、ボタンホールの長さを直接に入力します。

► 長さを設定すると機能は停止します。
- 新しい長さをプログラムする場合には、再度アイコンをタッチして下さい。

ボタンホールの長さの直接入力

振り幅調節ダイヤルか、送り調節ダイヤルを使ってボタンホールの長さを設定します。単位はミリです。

マニュアルボタンホール

- （ボタンホールのタイプによりますが)5-7ステップのマニュアル操作のボタンホールを縫います。
- ボタンホールが表示された下の矢印アイコンをステップ毎に操作します。

ステッチカウントボタンホール

最初の穴かがりを縫い、適当な長さまで縫って、次に、
- «返し縫い»ボタンを押します。

次に反対側の穴かがりを同じ長さまで縫い、
- «返し縫い»ボタンを押します。

► 画面に«auto»と表示されます。
► ボタンホールの長さが設定されました。

留め縫い

- 縫い始める前にアイコンをタッチします。

► ボタンホールの縫い始めで4針の留め縫いが実行されます。
- ボタンホールを縫っている最中にアイコンをタッチします。

► 縫い終わりで留め縫いをします。
► ミシンが自動的に止まります。

ボタンホールの穴の幅

- 振り幅調節または送り調節ダイヤル、または矢印アイコンを使って穴の幅を0.1 mmから2.0 mmの間で調節できます。

バランス

前進、後進のステッチのバランスを調節できます。

セキュリティプログラム

- アイコンをタッチします。
- «針»または«針板»アイコンをタッチします。

針に関して：

- «針»アイコンをタッチします。
- ► 振り幅が自動的に制限されます。
- ► 二本針のような特殊な針を使うときに、針が押え金や針板に当たったり、針折れするのを防ぎます。
- ► 針の幅(間隔)が針アイコンに表示されます。
- «標準針»アイコンをタッチします。
- ► 標準針の設定に戻りました。
- ► 振り幅の制限が解除されました。

針板に関して：

- 使いたい«針板»アイコンをタッチします。
- ► 振り幅が自動的に制限されます。
- ► 針が押え金に当たったり、針板に当たって折れるのを防ぎます。

ミシンの電源を切ってもこの設定は有効です。

推奨押え金の表示

- アイコンをタッチします。
- ► 選んでいるステッチに使える押え金が表示されます。
- ► 選んだステッチに使えるオプションの押え金も表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じられます。

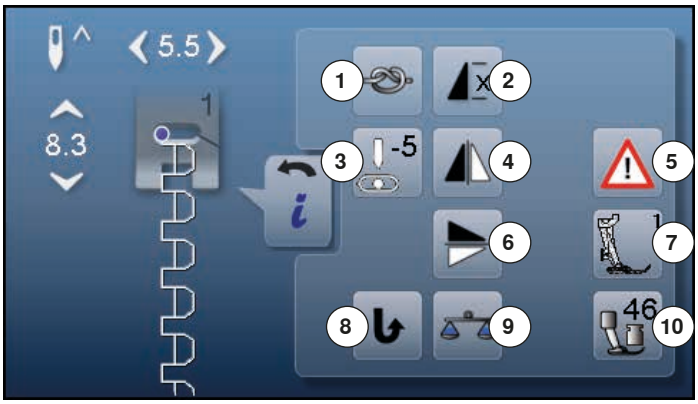
押え圧

ミシンの右側にあるホイールで押え圧を調節します。

- ► アイコンに押え圧が表示されます。

アルファベット(文字)機能に関して

- アルファベットボタンにタッチします。
- アルファベットを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。



アルファベットを編集する

1 留め縫い機能
2 繰り返し縫い
3 針基線
4 左右反転
5 セキュリティプログラム
6 上下反転
7 推奨押え金の表示
8 連続返し縫い
9 バランス
10 押え圧

留め縫い

- 縫い始める前にアイコンにタッチします。
- ► 4針の留め縫いが実行されます。
- ソーイング中にアイコンをタッチします。
- ► ステッチを縫い終わった後に留め縫いをします。
- ► ミシンは自動的に止まります。
- コンビネーションで留め縫いを使う
- コンビネーションの中の個々のステッチの縫いはじめと縫い終わりを留め縫いします。

繰り返し縫い

- アイコンを一回タッチします。
- ► 数字の1が表示されます:ミシンはステッチ、またはコンビネーションを一回縫ったあとで自動的にとまります。
- アイコンを2回から9回タッチします。
- ► 数字の2−9が表示されます:ミシンは入力した回数だけステッチまたはコンビネーションを縫って自動で止まります。

針基線

- 画面中の丸いつまみを指で左右に動かすか、
- 矢印アイコンを左右に押します。
- ► 針が左右に移動します。
- アイコンを押したままにします。
- ► 針基線が早く移動します。
- ► 針基線は黄枠アイコンで表示されます。
- 黄枠アイコンをタッチします。
- ► 針基線が中央に戻ります。

左右反転機能
ミシンは進行方向に向かって模様を左右に反転して縫います。

セキュリティプログラム
- アイコンをタッチします。
- «針»または«針板»アイコンをタッチします。

針に関して：
- 使いたい«針»アイコンをタッチします。
- ► 振り幅が自動的に制限されます。
- ► 針が押え金や針板に当たっ足り、折れたりするのを防ぎます。
- ► 針の幅、mm表示、が針アイコンに表示されます。
- «標準針»アイコンをタッチします。
- ► 標準針の設定に戻りました。
- ► 振り幅の制限が解除されました。

針板に関して：
- 使いたい«針板»アイコンをタッチします。
- ► 振り幅が自動的に制限されます。
- ► 針が押え金や針板に当たったり、針折れを防ぎます。

ミシンの電源を切っても制限は有効です。

模様上下反転
ミシンは模様を上下に反転させて縫います。

押え金表示
- アイコンをタッチします。
- ► 推奨する押え金が表示されます。
- ► 画面には選んだパターンに使えるオプションの押え金を表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じられました。

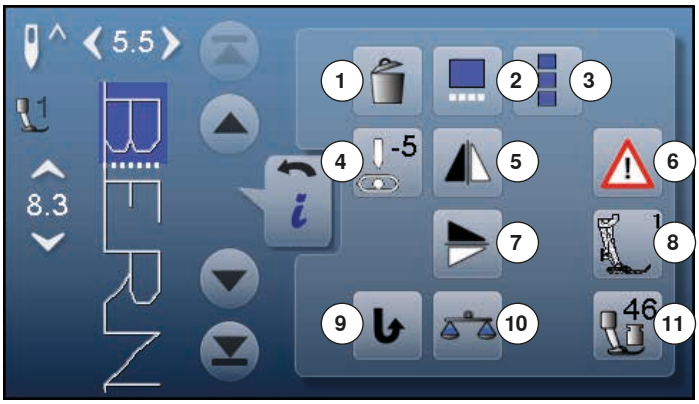
連続返し縫い
ミシンは返し縫いを続けます。

バランス
前進、後進のステッチのバランスを調節できます。

押え圧
押え圧はミシンの右側のホイールで調節します。
- ► アイコンに押え圧が表示されます。

コンビモード機能に関して

- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。



コンビモード

1 削除
2 カーソルの位置でコンビネーションを編集する
3 コンビネーション全体を編集する
4 針基線の変更
5 左右反転
6 セキュリティプログラム
7 上下反転
8 押え金表示
9 連続返し縫い
10 バランス
11 押え圧

削除
個々のステッチを削除する。

カーソルの位置でコンビネーションを編集する
- アイコンをタッチします。
- ► 画面が開きます。

コンビネーション全体を編集する
- アイコンをタッチします。
- ► 画面が開きます。

針基線
- 画面中の丸いつまみを指で左右に動かすか、
- 矢印アイコンを左右に押します。
- ► 針が左右に移動します。
- アイコンを押したままにします。
- ► 針基線が早く移動します。
- ► 針基線は黄枠アイコンで表示されます。
- 黄枠アイコンをタッチします。
- ► 針基線が中央に戻ります。

左右反転
ミシンは進行方向に向かって模様を左右に反転して縫います。

セキュリティプログラム
- アイコンをタッチします。
- «針»または«針板»アイコンをタッチします。

針に関して：
- 使いたい«針»アイコンをタッチします。
- ► 振り幅が自動で制限されます。
- ► 針が押え金や針板に当たったり、針折れを防ぎます。
- ► 針アイコンに針の幅がミリで表示されます。
- «標準針»アイコンをタッチします。
- ► 標準針の設定に戻りました。
- ► 振り幅の制限が解除されました。

針板に関して：
- «針板»アイコンをタッチします。
- ► 振り幅が自動で制限されます。
- ► 針が押え金や針板に当たったり、針折れを防ぎます。

電源を切ってもこの機能は有効です。

上下反転
ミシンは模様を上下に反転させて縫います。

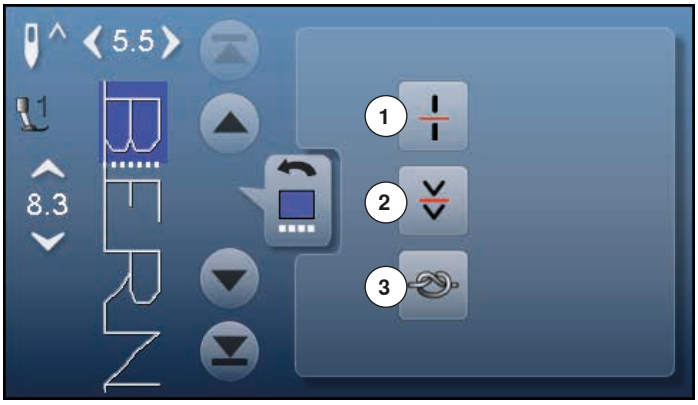
推奨の押え金
- アイコンをタッチします。
- ► 推奨する押え金を表示します。
- ► 選んだステッチに使えるオプションの押え金が表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じます。

連続返し縫い
ミシンは返し縫いを続けます。

バランス
前進、後進のステッチのバランスを調節できます。

押え圧
ミシン左側のホイールで押え圧を調節します。
- ► 押え圧はアイコンに表示されます。

- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «カーソルポジション»アイコンをタッチします。



機能

1 コンビネーションの分割(1)
2 コンビネーションの分割(2)
3 留め縫い

コンビネーションの分割(1)

– コンビネーションまたはメモリーフォルダーは、分割することができます。
– カーソルの当てられている分割された箇所のみを縫うことができます。
– 他の部分を縫うにはカーソルを縫いたい箇所に移動します。

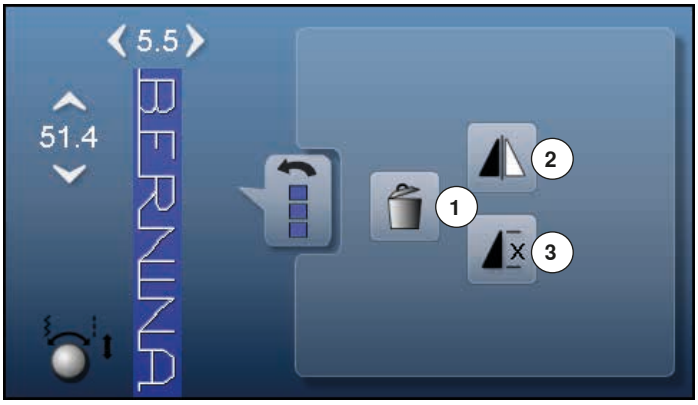
コンビネーションの分割(2)

– 各コンビネーションは好きなように中断することができます。
– 縫い終わると、針は自動的に次の場所に移動します。

留め縫い

– 留め縫い機能をパターンのコンビネーションの中に設定します。
– コンビネーションの中の各パターンは縫いはじめと縫い終わりで留め縫いします。

- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «全てのコンビネーションを編集»アイコンをタッチします。



機能

1 削除
2 左右反転
3 コンビネーションの繰り返し

削除
全てのコンビネーションを削除する。

左右反転
ミシンはコンビネーション全体を左右反転イメージで縫います。

コンビネーションの繰り返し

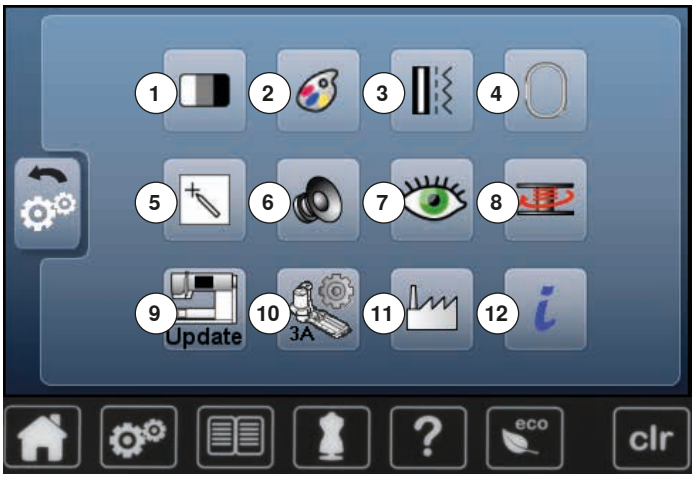
- アイコンを一回タッチします。
- ► 数字の1が表示されます:ミシンはコンビネーションを一回縫って自動で止まります。
- アイコンを2回から9回タッチします。
- ► 数字の2から9画表示されます:ミシンはコンビネーションを数字の回数だけ縫って自動で止まります。

セットアッププログラム

«セットアップ»画面に関して

セットアッププログラムは画面表示や各種機能を個々の要求に応じて設定変更するための機能です。
セットアッププログラムで加えた変更は、そのままミシンの電源をオフにした後も保存されます。
例外はそれぞれの機能ごとで直接記述しています。

- «セットアッププログラム»ボタンを押します。
- ► «セットアッププログラム»画面が表示されます。



1 画面表示の設定
2 画面の色の設定
3 ソーイング機能の設定
4 刺しゅうの設定
5 画面ズレの調整
6 オーディオシステム
7 モニター機能
8 糸巻きスピードの設定
9 ミシンのアップデート
10 ボタンホール押えNo3Aのズレの調整
11 工場基本設定
12 インフォメーション

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

基本設定にリセットするには黄枠のアイコンをタッチします。

画面表示の設定

- «画面表示の設定»アイコンをタッチします。

明るさ
- 画面中の丸いつまみを指で左右に動かすか、
- または振り幅調節ダイヤルを回すと、
- ► 画面の明るさ1を調節できます。
- ► 変更した内容は黄枠のアイコンに表示されます。
- ► 白いラインが基本の設定を表示しています。
- 黄枠のアイコンをタッチすると、初期設定に戻ります。

ソーイングライト
- ► 2のアイコンがオンになっている時は、ソーイングライトが点灯しています。
- ► 2のアイコンがオフのときはソーイングライトが消えています。

ウェルカムテキスト
- 3をタッチして、ウェルカムメッセージの編集、変更ができます。

スペースキーはキーボードの一番下に表示されています。
- ► ウェルカムテキスト4 はキーボードの上のテキストボックスに表示されます。
- «テキスト»アイコン4をタッチします。
- ► テキスト全体が消去されました。

修正
- アイコンをタッチします。
- ► テキストが右側から左へと消去されていきます。

5 «ABC» 大文字 (標準)
6 «abc» 小文字
7 «Ã À Á»、«ä à á»、そして«@,#»特殊文字、大文字、小文字
8 «1,2,3» 数字と算術記号

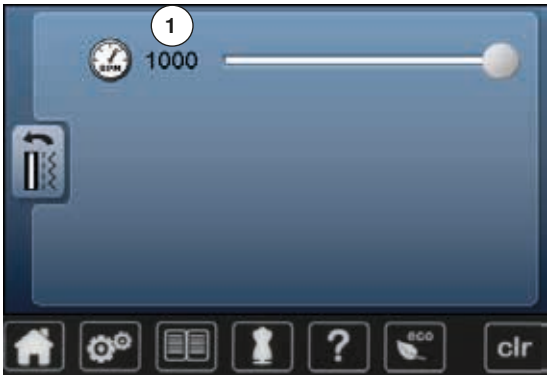
画面の色を調整します

- «画面の色の設定»アイコンをタッチします。

- 画面の色を選びます。

ソーイングの設定

- «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



ソーイングスピード

- 画面中の丸いつまみを指で左右に動かすか、
- または振り幅調節ダイヤルを回して、
- ► 最高速度1を設定します。
- ► 黄枠のアイコンにスピード（分速）が表示されます。基本スピードは白いラインで表示されています。
- 黄枠のアイコンをタッチすると、初期設定に戻ります。

刺しゅうの設定

- «刺しゅうの設定»アイコンをタッチします。

刺しゅうの速度はソーイングの設定と同じよ うに調節できます。(48ページ参照)

- アイコン1をタッチします。
- ► 刺しゅう開始後に手動で糸切りをするためにミシンを停止させる機能をオン／オフにします。
- アイコン2をタッチします。
- ► 刺しゅう開始後の留め縫いをオン／オフにします。
- アイコン3をタッチします。
- ► 刺しゅう枠のズレを調整する。

刺しゅう枠のズレを調節する

針が刺しゅう枠の中央に位置するように刺しゅう枠のズレを調節します。この調節をすると針が刺しゅう枠の中心に来るようにセットできます。調節するには、刺しゅう機が接続され、楕円形の刺しゅう枠が取り付けられていないとできません。一度楕円形の刺しゅう枠で調節すると全ての刺しゅう枠にも共通して有効です。

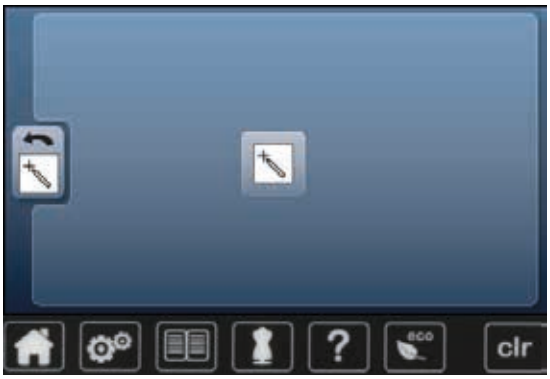
- 楕円形刺しゅう用テンプレートを刺しゅう枠にセットします。
- ✔ を押して調節作業をスターとさせます。
- ► 針が刺しゅう用テンプレートの中心に位置しているのを確認します。
- もし、針が刺しゅう用テンプレートの中心からズレているようなら矢印アイコンを使って針が中心に来るように調節します。
- チェック✔をタッチして確認します。
- ► セットアッププログラム

刺しゅう枠に布地をセットします。その刺しゅう枠用のテンプレートを取り付けます。

画面のズレの調節

画面のズレの調節画面は次のようにして開きます:
- ミシンの電源を切ります。
- フロントパネルにある針基線用の2個の矢印ボタンを押したままにして、
- ミシンの電源を入れ、画面が表示されたらボタンから指を離します。

- «画面のズレの調節»アイコンをタッチします。



- 計測アイコンをタッチします。

- 先の丸まったペンなどで、十字の真ん中をタッチします。
- ► 十字マークが次のポイントに移動します。
- この作業を繰り返して、合計3ヶ所を測定します。
- ► 画面が閉じられます。
- ► セットアッププログラム

シグナル音の設定

- «シグナル音»アイコンをタッチします。

1をタッチするとシグナル音をオンかオフにすることができます。

ステッチパターン、機能、BSRを選択する
ステッチの選択と機能の選択2がシグナル音で確認できます。
- スピーカーのアイコン3を好みの音の大きさになるまで押したままにします。

6種類のシグナル音から選べます。
- ► シグナルオンは番号(1–6)で表示されます。
- 機能選択用のシグナル音4とBSRキルティング警告音5は、同じ要領でオンまたはオフに設定することができます。
- ► シグナル音を選択する際、順番にクリックしていくと一番最後に消音が表示されます。

モニター機能

- «モニター»アイコンをタッチします。

次のセンサー機能をオン、またはオフにすることが出来ます。
1　上糸センサー

上糸センサー
► 開いた目 = センサーがオン。
- «開いた目»アイコンをタッチします。
► 閉じた目 = センサーがオフ。

センサー機能の警告音はオーディオシステムの設定でセットします。

糸巻のスピードを調節する

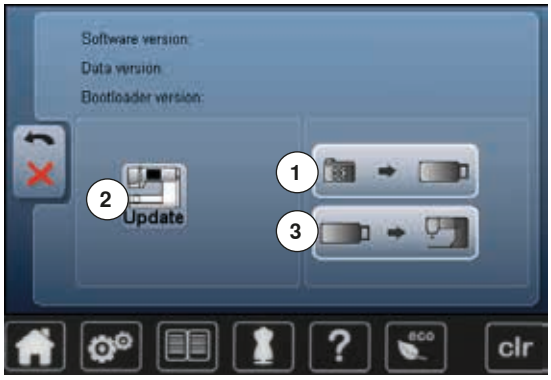
- «糸巻きスピード»アイコンをタッチする。

- 画面上の丸いダイヤルを左右に動かすか、
- または、振り幅ダイヤルを回すと、
► 糸巻のスピードが調節できます。

アップデート

⚠ **「アップデート完了」のメッセージが表示されるまで、ベルニナUSBスティックは絶対に取り外さないで下さい。**

- 新しいソフトウェアバージョンの入ったベルニナUSBスティックをセットします。
- «アップデート»アイコンをタッチします。



アップデートを実施する前にミシンのデータと設定を保存しておくことをお勧めします。
- アイコン**1**をタッチします。
- ► USBスティックにデータが保存されました。
- 再度«アップデート»アイコン**2**をタッチして実行します。

次の確認作業が実行されます：
  - ► ベルニナUSBスティックがセットされているか。
  - ► スティックに十分な空きスペースがあるかどうか。
  - ► スティックに正しいソフトウェアバージョンが含まれているかどうか。
- ► データおよび設定が認証されます。

アップデートが正常に完了したら、完了のメッセージが表示され、ミシンを使い始めることができます。
- ► アップデートがスタートできない、または作業中に問題が生じた場合は、エラーメッセージが表示されます。

アップデートを実行した後、データや設定が失われた時：
- アイコン**3**をタッチします。
- ► USBスティックに保存したデータと設定がリカバリーされました。

ボタンホール押えNo.3Aのズレの調節

- «調節»アイコンをタッチします。

- ボタンホール押えNo.3Aを取り付けます。
- ► 針には糸を通さないでおきます。
- «スタート／ストップ»ボタンを押します。
- ボタンホール押えNo.3Aを下げます。
- ► 押え金が前後に動き始めます。
- ► ボタンホール押えNo.3Aのズレが調節され、調節が正しくできたか画面に表示ができます。

これでこの押え金がこの特定のミシンで調節されました。他のミシンで使うには同じようにこの調節作業を実行します。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

リセット/ユーザーデータの削除

- «基本の設定»アイコンをタッチします。

次の選択肢から選びます:
1 リセットする
2 ユーザーデータの削除

リセット
- アイコン1をタッチします。

次の選択肢から選びます:
3 ソーイングのリセット
4 刺しゅうのリセット
5 すべてリセット

- リセットするアイコンをタッチします。
- ✔で確認します。
- ► 先の画面が表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 選択メニューが表示されます。

例外:
明るさ、背景、回転数はそれぞれの機能ごとに基本設定する必要があ ります。

ユーザーデータを削除する
- アイコン2をタッチする。

次の選択肢から選びます:
6 ソーイング «パーソナルプログラム»
7 刺しゅうの «マイデザイン»
8 刺しゅう«メモリースティック» (メモリースティックがミシンに接続されていること)

- 該当するアイコンをタッチするとデータの削除を実行します。
- ✔で確認する。
- ► データが消去され、先の画面に戻ります。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 選択メニューが表示されます。

インフォメーション

- «i»アイコンをタッチします。

言語
- 矢印アイコンをタッチして言語リストをスクロールし、必要なものを選択して下さい。

- アイコンをタッチします。

バージョン情報
- ミシンと刺しゅう機の現行のバージョンが表示されます。
- このミシンで縫われた総ステッチ数と前回サービスを受けて以来のステッチ数が表示されます。

- アイコンをタッチします。

代理店情報

- 関係するアイコンをタッチします。

ベルニナ販売代理店の情報を登録できます:

- 店舗名
- 住所
- 電話番号
- ホームページもしくはeメールアドレス

- アイコンをタッチします。

サービスデータ

何かトラブルのあったときには、ミシンの現在の状態をメモリースティックにダウンロードしてベルニナ販売代理店でのサービスに提供できます。

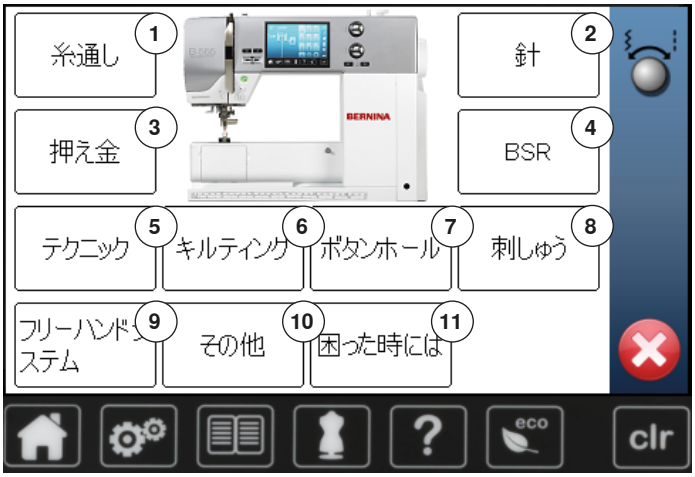
- ミシンにメモリースティックを接続します。
- «LOG (ログ)»アイコンをタッチします。
- ► メモリースティックにミシンの現状データがダウンロードされます。
- メモリースティックを取り外します。

チュートリアル

チュートリアルに関して

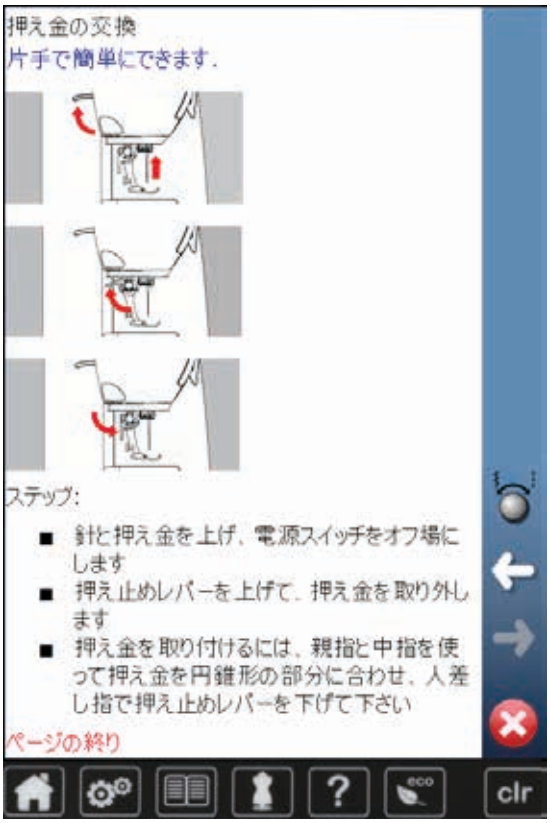
ソーイングと刺しゅうに関する操作方法や説明が表示されます。

- «チュートリアル»ボタンを押します。
- ► «チュートリアル»画面が表示されます。



1 糸掛けの方法
2 針について
3 押え金
4 BSR
5 ソーイングテクニック
6 キルティング
7 ボタンホール
8 刺しゅう
9 フリーハンドシステム（FHS）
10 その他
11 トラブルシューティング

- 必要なトピックを選択します。ここでは例として押え金を選択します。
- ► 押え金に関するトピックの一覧表が表示されます。
- 必要なトピック（例・押え金の交換等）を選択します。



► 情報が表示されます。
● ダイヤルを回すか、指でスクロールします。

● «次へ»をタッチします。
► 次のページが表示されます。

● «戻る»をタッチします。
► 前のページが表示されます。

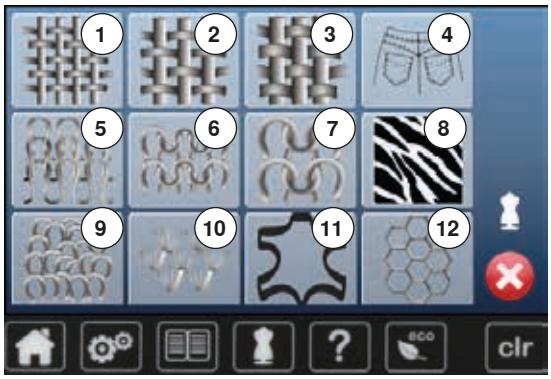
● ✕ をタッチします。
► «チュートリアル»画面が閉じました。
► 前の画面が表示されます。

クリエイティブコンサルタント

クリエイティブコンサルタントに関して

クリエイティブコンサルタントは、ソーイングに必要な情報やテクニックなどを提供するオンボードマニュアルです。布地を選んで、使いたいソーイングテクニック、針、押え金、などに関する情報を表示します。

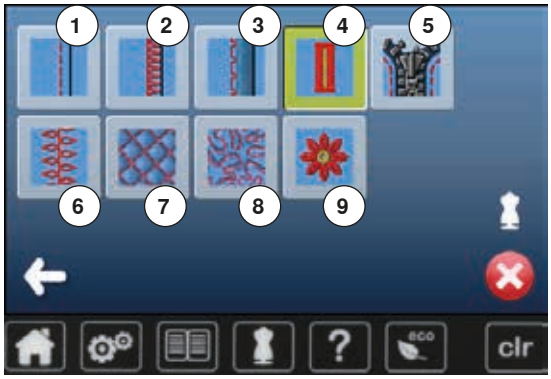
- «クリエイティブコンサルタント»ボタンを押します。
- ► «クリエイティブコンサルタント»画面が表示されます。



1 薄地の織地
2 中厚地の織地
3 厚地の織地
4 デニム地
5 薄手のニット地
6 中厚手のニット地
7 厚手のニット地
8 毛皮
9 タオル地
10 パイル地
11 皮やビニール
12 チュールとレース

ソーイングテクニックに関して

- アイコンをタッチして、縫いたい素材を選びます。例えば、薄地の織地。



適用できるソーイングテクニックが表示されます。
1 シーム縫い
2 オーバーキャスティング
3 まつり縫い
4 ボタンホール
5 ファスナー付け
6 飾り縫い
7 ミシンキルト
8 フリーモーションステッチ
9 アップリケ

- 使いたいソーイングテクニック(例・ボタンホール等)を選択します。
もし知りたいテクニックがリストになければ、それに近い手法を選んでください。

► 選ばれた素材で縫いたい手法に関するお勧めが画面に表示されます。
- ✔で確認します。
► プログラムされたステッチパターンが画面に表示されます。

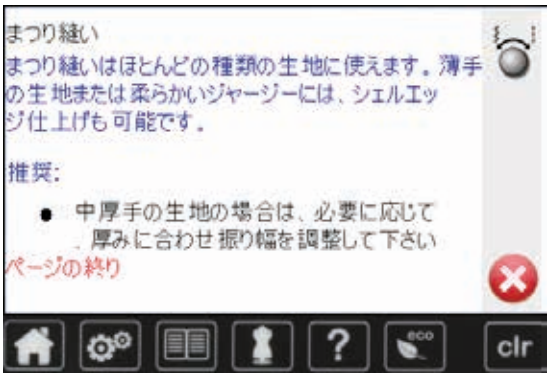
ソーイングコンサルタントを終わる
- ✕ をタッチします。

ヘルププログラム

ヘルププログラムは個々のステッチや機能に関する情報を画面に表示します。

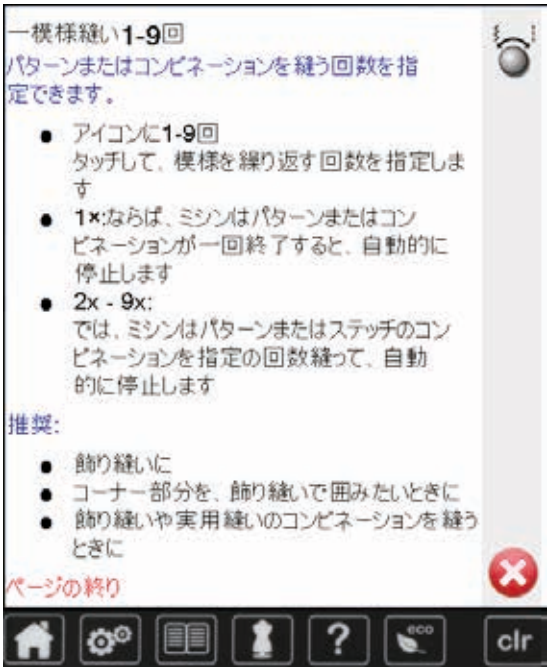
ステッチパターン

- «ヘルププログラム»ボタンをタッチします。
- 使いたいステッチパターンまたは機能を選択します。



画面に次の情報を表示します:
- ステッチパターン名。
- 適した素材。
- お薦めの情報。

機能



画面に次の情報が表示されます:
- 機能の名称。
- 機能に関する説明。
- お薦めの情報。

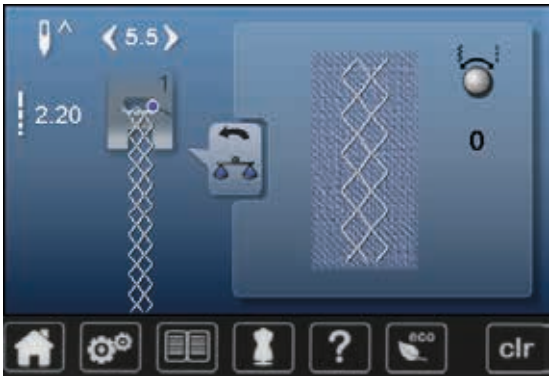
- ✕ をタッチします。
- ヘルププログラムが閉じます。
- 前の画面が表示されます。

バランス

実用縫い/飾り縫いステッチミシンはベルニナ工場で出荷前に、試縫いされ最適な状態に調整されています。布地、糸、安定紙などのいろんな条件によっては、調節が必要な場合もあります。このような場合には、電気的なバランス調整によっていろんな条件を克服することができます。

実用と飾り縫いステッチ，アルファベット

- «i»アイコンをタッチします。
- «バランス»アイコンをタッチします。



- ► 画面の左側には、基本的なステッチのフォーメーションが表示されています。
- ► 右側の画面では実際に縫った状態を再現します。

バランスの修正

例えば、ネットステッチの仕上がりが開いてしまってステッチのフォーメーションが崩れています。

- 振り幅調節、または送り調節ダイヤルを回して、右側の画面に実際の縫い上がりと同じ状態を再現します。
- ► 黄枠のアイコンに調節した数値が表示されます。
- «戻る»アイコンを2回タッチします。
- ► 変更内容が保存されました。
- ► 前の画面が表示されます。

設定をリセットします

- «i»アイコンをタッチします。
- 黄枠の«バランス»アイコンをタッチします。
- 黄枠のアイコンをタッチします。
- ► 基本セッティングがリセットされました。

エコに関する説明

作業の中断が長く続く場合、ミシンを節電モードにすることができます。

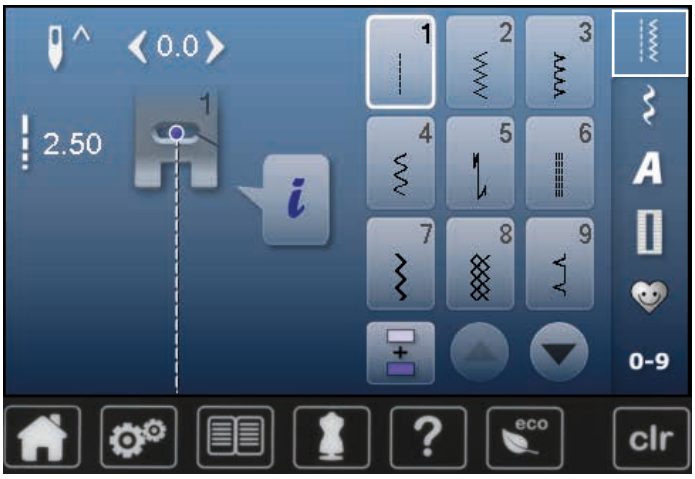
- «eco»エコボタンを押します。
- ► 画面が暗くなります。
- ► 電力の消費量が少なくなり、ソーイングライトもオフになります。

エコモードはお子様の安全モードとしてもご利用いただけます。画面はフリーズされ、ミシンも動きません。

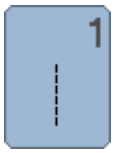
- «eco»エコボタンを押します。
- ► エコモードが終了し、ミシンが使えるようになりました。

実用縫い

実用縫いの一覧



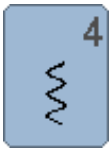
- «実用縫いステッチ»ボタンをタッチします。
- ► 実用縫いが画面に表示されました。
- その他の実用縫いは、画面をスクロールしてご覧下さい。



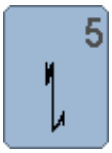
直線縫い
伸縮性のない布地、すべての直線縫いに、縫い合わせ、トップステッチ、ファスナーの縫い付けに。

ジグザグ縫い
オーバーロック縫いや、エラスティックの縫い付け、レースの縫い付けに。

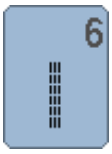
バリオーバーロック
薄手のジャージー地に適しています。伸縮性のあるオーバーロック縫い、ヘム仕上げ、伸縮性のあるシームが可能です。



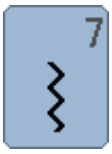
ランニングステッチ
いろんな布地に対応。繕い縫い、継ぎ接ぎパッチ縫い、補強等に。



留め縫いプログラム
あらゆる素材に適応、直線縫いの縫い始めと終わりの留め縫いに。

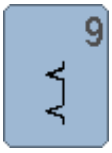


トリプル直線縫い
硬い素材での耐久性のあるステッチ、ヘム縫いや縫い合わせ等に。

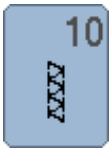


トリプルジグザグ縫い
硬い素材で耐久性のある縫い目に、ヘム縫いや縫い合わせに。

ネットステッチ
あらゆるジャージーや滑らかな布地に、ランジェリーやリネン、繕い縫い等に。

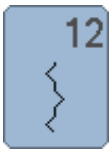


まつり縫い
あらゆる素材に。まつり縫い、ジャージーや薄手の布地でのシェルステッチ効果等、飾り縫いに。

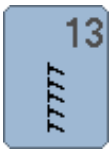


ダブルオーバーロック
あらゆるニット地に。縫うと同時に縁の始末ができます。

スーパーッストレッチ
あらゆる伸縮性のある布地に、洋服などのオープンシームに。



ギャザーステッチ
ほとんどのタイプの布地に。エラスティックでシャーリングやギャザー縫いに。



ストレッチオーバーロック
中厚手のニット地に、タオルや硬い織地に。オーバーロック縫いや、フラットシームに。

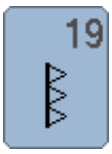
トリコットステッチ
ジャージーに、目立つ縫い目や、目立つ縁かがりに。ランジェリー、セーター、ジャージーのつくろい縫いに。

ユニバーサルステッチ
フェルトやレザー等の硬めの布地に。キルト芯のフラットな接ぎ合わせ、目立つ縫い目、エラスティックの縫い付け、飾り縫い等に。

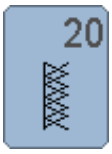
二点ジグザグ
布端の仕上げ、補強縫い、エラスティックの縫い付け、飾り縫い等に。

ライクラステッチ
全方向性伸縮地に。フラット重ね縫い、縁縫い、下着などの補強に。

ストレッチステッチ
あらゆる伸縮性の強いニット地に。スポーツウエアーなどの縫い合わせに。

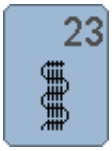


補強オーバーロック
中厚ニット地やタオル地に。オーバーロック、フラットな縫い合わせに。



ニットオーバーロック
手編み、または機械編みのニット地で、オーバーロックステッチ= 直線縫いと布端かがりを一度に。

シンプルダーニングプログラム
薄地や中厚手の布地で自動的に繕い縫い。



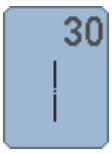
補強ダーニングプログラム
硬い布地の自動つくろい縫い。

バータックプログラム
ポケットの開口部の補強に、ベルトのループに。

バータックプログラム
ポケットの開口部、ベルトループ、ファスナー縫い付け、縫い終わなどの補強に。

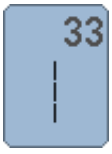
小型フライステッチ
薄地、中厚地に：
開口部やファスナーやスリット部の補強に。

幅の狭いまつり縫い
極薄地でのまつり縫いに。



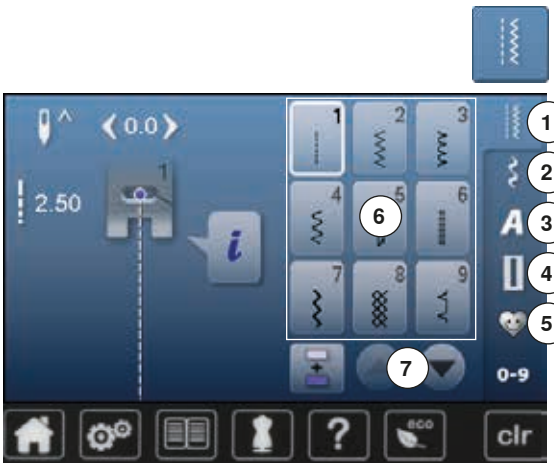
しつけ縫い
しつけ縫いをすることができます。

1針直線縫い
コンビネーションに含まれる2つの飾りステッチパターンのつなぎに使われます。



3針直線縫い
コンビネーションに含まれる2つの飾りステッチパターンのつなぎに使われます。

ステッチを選択する



ダイレクト選択

- 縫いたいステッチカテゴリー1-5選びます。

1 実用縫い
2 飾り縫い
3 アルファベット
4 ボタンホール
5 パーソナルプログラム／メモリー

► 画面6にステッチが表示されます。
- 縫いたいパターンを選択します。
- スクロールボタン7で更に他のステッチを表示できます。

ステッチ番号で選択

- «0-9»ボタンをタッチします

► 画面が模様番号選択機能の画面10に変わります。
- 模様の番号を数字ボタンで入力します。
► 画面上に入力した番号8が表示されます。
- 9アイコンをタッチします。
► 下の桁から一つづつ数字を消します。
- 番号の表示されている部分8をタッチします。
► 全部の番号が消えます。
- ✔ で確認します。

キャンセル

- «0-9»ボタンをタッチします。
► 前の画面が表示されます。

間違った番号を入力するとアイコン 8に???が表示されます。

各ステッチを好みの設定に変更できます

布地や目的に応じてステッチの内容を変更することが可能です。ここに説明されている変更内容はすべての実用縫いや飾り縫いにも共用できる内容です。

ステッチメモリーは無制限です。幾つでもステッチを変更することが可能です:
- 送り長さ
- 振り幅
- 針基線
- 反転
- バランス
- 繰り返し縫い 1～9回

一時的なステッチメモリー

送り長さや振り幅の変更は自動的に記憶されます。

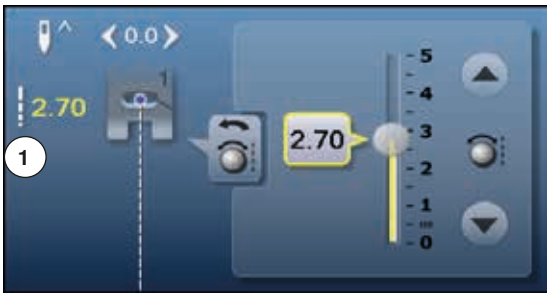
例
- 例えば:ジグザグ縫いでステッチの振り幅を調節します。
- 別のステッチ(例えば直線縫い)を選びます。
- 再びジグザグ縫いに戻ると先ほど調節した振り幅がそのままになっています。

標準の設定に戻すには
マニュアルでそれぞれの設定を標準に戻すことができます。
- 振り幅調節または送り調節ダイヤルアイコン、黄枠のアイコンをタッチする、
- または«clr»ボタンを押します。
- **選ばれている**ステッチの変更された内容は全て基本に戻されます。
- ミシンの電源を切ります。
- ステッチに加えた変更はすべてクリアーされます。

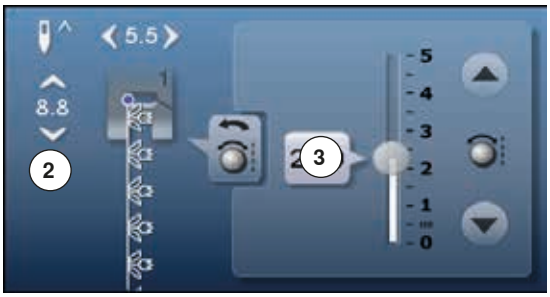
ステッチの幅と送りを変更する

- 調節ダイヤルを回します。
- または、画面上の振り幅調節、または送り長さ調節ダイヤルをタッチします。
- それぞれの画面上の矢印アイコンをタッチするか、
- または画面中の丸いつまみを指で動かします。

ソーイング中でも変更できます。



実用縫いやキルティングステッチを縫っている間、実際の送り長さは画面の1に表示されます。

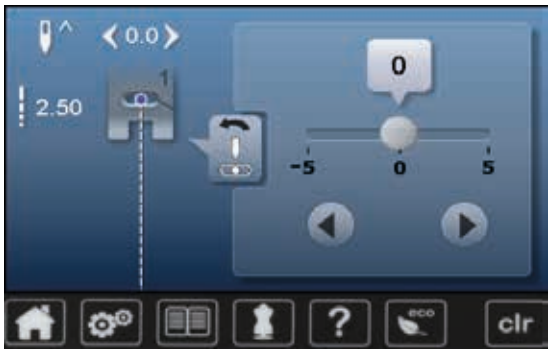


他の飾り縫いなどではステッチパターン全体の長さ2が表示されます。実際の送りの長さ3は送り長さ表示を開くと表示します。

針基線を変更する

- 針基線の«移動»ボタンをタッチします。

- または、«i»アイコンをタッチします。
- «針基線»アイコンをタッチします。

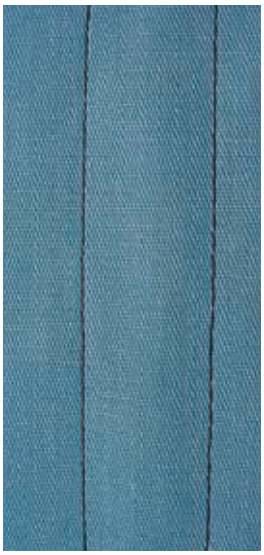


- «移動»ボタンまたは矢印アイコンを押したままにします。
- ► 針基線がすばやく移動します。
- 画面上のボタンを指でスライドさせます。

11 針基線（左に5ポジション，右に5ポジション，中央に1つ）.

実用縫いの適用例

直線縫い



標準押え金No.1

直線縫い No. 1

ミシンをオンにすると直線縫いが表示されます。
► 針は上に停止します。

適用
すべての布地に適しています。

布に合わせて送り長さを調整する
例えば、デニム地には長い送り(約3-4 mm) を使い、薄地には短い送りを使います。(約 2-2.5 mm).

糸に合わせて送り長さを調整する
例えば、トップステッチにコルドネット糸を送りを長くして使います。
(約 3-5 mm)

針停止を下に設定する。
ピボット縫い等をするときに、針が布に刺さって止まり布ずれを起こしません。

トリプル直線ステッチ

標準押え金No. 1
ジーンズ押えNo. 8（オプション）

トリプルステッチ No. 6

縫い合わせ
耐久性のあるステッチ、硬い、目の詰まったデニムやコール天の様な布地に。

硬い、目の詰まった織地に
ジーンズ針とジーンズ押え No. 8 の組み合わせでデニムやキャンバス地を針折れせずに縫い易くします。

飾りトップステッチ
送りを長くして、トリプル直線縫いステッチを使って飾り縫いのトップステッチに。

トリプルジグザグ縫い

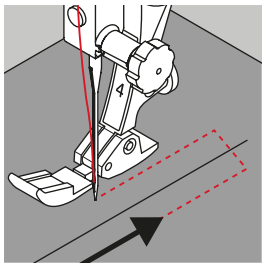
標準押えNo. 1

トリプルジグザグ No. 7

硬い素材や、特にデニムやデッキチェアー用キャンバス地や天幕に。

よく洗う必要のあるものに。布端をまず仕上げます。非常に硬い素材にはジーンズ針を使います。

ファスナー付け



ファスナー押えNo. 4

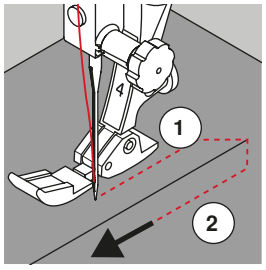
直線縫い No. 1

準備

- しつけ縫いで布地を接ぎ合わせます。
- 留め縫いをします。
- しつけを綺麗にかけます。
- 縫い代を仕上げます。
- アイロンをかけます。
- ファスナーを開きます。
- ファスナーをしつけ縫いします。しつけ、またはまち針でファスナーの位置を決め、布地がファスナーの中心で合うようにしつけ、またはまち針を打ちます。

ファスナーを縫いつける

- ファスナーを少しだけ開きます。
- 針基線を右に移動します。
- 左側の上から縫い始めます。
- ファスナーのコイル部分に沿って縫える位置に押え金を置くようにして下さい。
- むしの手前でミシンを止めます。(針は下で停止させます)
- 押え金を上げます。
- ファスナーを閉じます。
- 押え金を下げます。
- 続けて縫い、一番下まで縫い、針を下で停止させます。
- 押え金を上げます。
- 土台布を回転させます。
- 押え金を下げます。
- ファスナーを横切って縫います。針を下で止めます。
- 押え金を上げます。
- 土台布を再度回します。
- 押え金を下げます。
- 反対側を底から上に向かって縫います。



応用: 両側を下から上に縫う

ベルベットのような毛足の長い布地に適しています。

- 上記のようにファスナー付けの準備をします。
- 片側を下から上に向かって縫い付けます。
- ファスナーのコイルの端に沿って斜めに縫います。
- 最初の側 1 は底からトップへ縫います。
- 針基線を左にします。
- 二番目の側2 も同じようにして底からトップへと縫います。

ファスナーのむしの部分の縫い方

– ファスナーを閉じた状態で、むしから5cmくらいのところまで縫います。
– 針を下位置停止にしておいて、押え金を上げます。ファスナーを開き、むし部分を針に引っかからない位置まで引きます。押え金を下げ、縫いつづけます。(フリーハンドシステムを使うと便利です。)

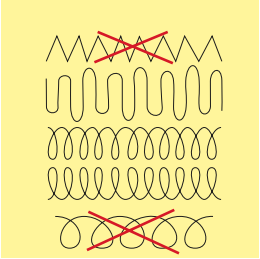
縫い始め

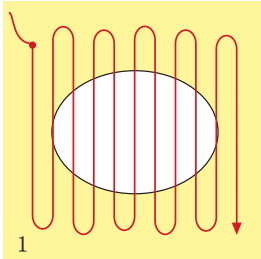
– 縫い始めは、糸を手でしっかりつかんでファスナーが確実に縫い出されるまで、糸をわずかに後ろに引き加減にするとよいでしょう。
– 最初に1～2cm返し縫いをして、縫い始めるとよいでしょう。

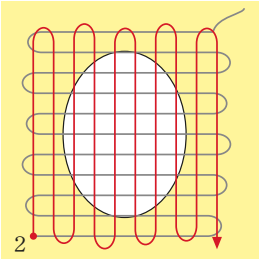
ファスナー地が厚く、また堅い

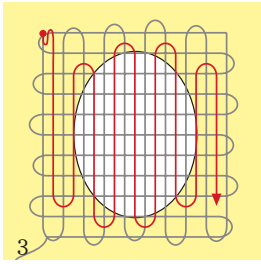
ステッチを均一にするために、90/14ー100/16番の針をお薦めします。

マニュアル式の繕い縫い









ダーニング押え No. 9（オプション）

直線縫い No. 1

穴が空いたり、または摩耗した部分
縦糸と横糸を足してつくろいます。生地の種類は問いません。

準備
- 送り歯を下げます。
- ソーイングテーブルを取り付けます。
- 繕い縫い用枠（オプション）に布地と芯地をセットします。
- ダーニングする付近は歪まないようにぴんと張った状態にしておきます。

縫い方
- 左から右に縫います。その際、押え圧は0にしておきます。
- 縫い終わりで方向転換をするときは、滑らかなカーブを描くようにして動きます。急な方向転換は、穴が開いたり、針が折れたりする原因になります。
- 長さをいろいろ変えてつくろっていくと、糸が布のなかに紛れ込んで、目立たなくなります。

1　穴を覆うように最初の列を縫います
- 最初の列は摩耗した周りを縫います。間隔が狭すぎないようにご注意ください。
- 縫う長さは、均一にならないようにしましょう。
- 布地を90度回します。

2　次に、最初の列の上を縫います
- あまり間隔を近づけると、仕上がりが堅くなってしまうので、ご注意ください。
- 布地を180度回します。

3　穴の繕いが完了しました
- 更に続けてゆるい列を縫います。

針目が揃わない
- 上糸が生地の表側でゆるむのは、針のスピードに対して、刺しゅう枠の動かし方が速すぎるからです。
- 生地の裏側にループができるのは、刺しゅう枠の動かし方が遅すぎます。

糸が切れる
布を安定した動きで動かしてください。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

自動繕い縫い

標準押え No. 1
自動ボタンホール押え No. 3A

シンプルダーニングプログラムNo. 22

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと繕います
縦方向の繊維を補強するような感じで縫います。

準備
- 繕い縫い用枠（オプション）に薄手の布地をセットします。
- ► ダーニングする付近は歪まないようにぴんと張った状態にしておきます。

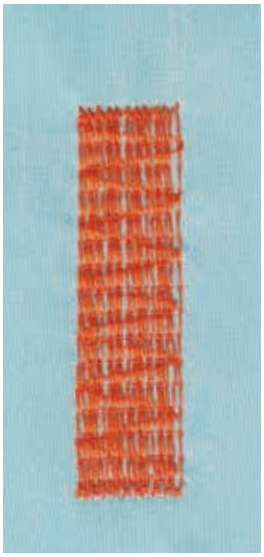
標準押えNo. 1を使った自動繕い縫い
- 摩耗した箇所の左上に針を刺します。
- 最初に縦の1列を縫い、
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ► 長さがプログラムされます。
- 自動繕い縫いが完了します。
- ► ミシンは自動的に停止します。
- «clr»ボタンを押します。
- ► プログラムを解除します。

自動ボタンホール押えNo. 3Aを使った繕い縫い
- 小さなほころびや摩耗した個所を繕う。
- 繕う長さは最大3 cm。
- 押え金 No. 1と同じ手順で繕います。

補強縫い
裏地に薄地の布地を当てたり、接着タイプの芯地を当てます。

ダーニングが歪んでしまう場合は
バランス機能を使って修正します。（ バランス機能 60ページ参照）

補強繕い縫い(自動)



ボタンホール押え No. 3A

補強ダーニングプログラムNo. 23

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと繕います
縦方向の繊維を補強するような感じで縫います。

準備
- 繕い縫い用枠(オプション)に薄手の布地をセットします。
- ► ダーニングする付近は歪まないようにぴんと張った状態にしておきます。

ボタンホール押えNo. 3Aを使った繕い縫い
針を磨耗した左上の部分に刺します。
- 最初に縦の1列を縫い、
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ► 長さがプログラムされます。
- 自動繕い縫いが完了します。
- ► ミシンは自動的に停止します。
- «clr»ボタンを押します。
- ► プログラムした内容は消去されました。

破れた箇所全体をダーニングでカバーできない場合
布を置き直して、縫い続けます。ダーニングプログラムは、セットした長さで何回でも繰り返し縫うことができます。

«直接長さ入力» (38ページ参照)を使うと、30 mmまでの長さをプログラムできます。

縁縫い

標準押え No. 1

ジグザグ縫い No. 2

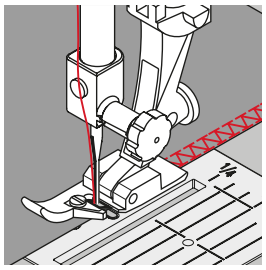
- あらゆる布地に。
- 縁かがりに。
- 伸縮性の必要なステッチに。
- 飾り縫い。

縁縫い
- 布端を押え金の中央に合わせます。
- 振り幅はあまり大きくしないように。
- 送りもあまり長くしないように。
- ジグザグの片側は布を刺し、反対側は布端すれすれの外側を刺すようにします。
- 布端は巻き込まないでフラットに仕上がるように。
- 薄手の布地には、細いダーニング用の糸を使います。

サテンステッチ
- 密度の濃い、幅の狭いジグザグ。(送り長さは 0.5-0.7 mm)
- サテンステッチでアップリケや刺しゅう等に。

バリエーションとして、サテンステッチ No. 1354も使えます。

ダブルオーバーロック



オーバーロック押えNo. 2
標準押えNo. 1

ダブルオーバーロック No. 10

縫い合わせに
目の粗いニットやニット地やジャージでクロスステッチを。

縫い方
- 押えについているピンを布端に揃えてガイドします。

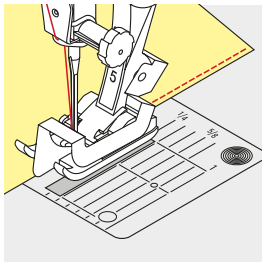
ニットとジャージー地
– 伸縮地に穴をあけてしまわないように、ジャージー針の使用をお勧めします。
– 必要に応じて押えの圧力を調節してください。

伸縮地を縫う
必要に応じてストレッチ針 (130/705 H-S)をお勧めします。

布端にトップステッチで飾り縫い

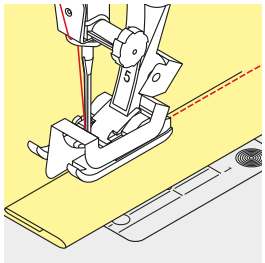
まつり縫い押え No. 5
標準押え No. 1
エッジステッチ押え No. 10 (**オプション**)

直線縫い No. 1



小幅のエッジステッチ

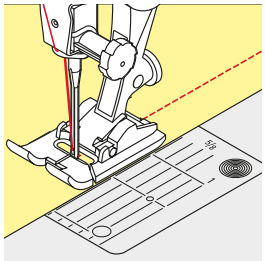
外側のエッジ
- 外側の折り曲げた端(折り山)をまつり縫い押えのガイド板の左側に当てます。
- 針基線を布端から適当な位置になるように移動します。



ヘムエッジ縫い
- 布を折り曲げた端(折り山)をまつり縫い押え/押え底のガイド板の右側に揃えます。
- 針基線を右にして、上端に沿って縫います。

まつり縫い押えNo. 5
針基線はいちばん左、または右。

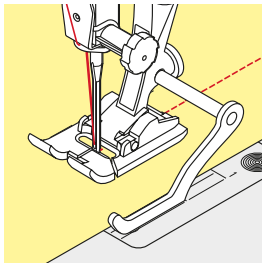
標準押えNo. 1 とエッジステッチ押え No. 10 (**オプション**)
針基線はどこでも構わない。



ワイドエッジステッチ

ガイドの方法
押え金をガイド:
- 布の折り山を、押え金の端に合わせる。

針板をガイド:
- 布の折り山を針板上のけがき線に揃えてガイドします。(1 から 2.5 cm)

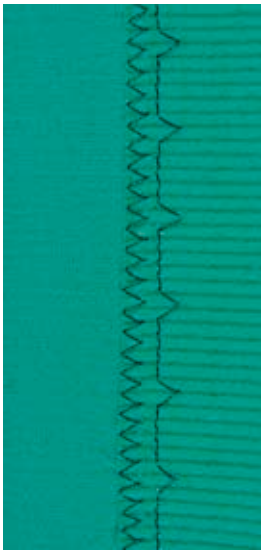


布ガイド:
押え金
- 押え金の後ろ側についているネジを緩めます。
- 布ガイドを押えの穴に差し込みます。
- 幅を適当に調節します。
- 布の折り山をシームガイドに合わせて縫います。
- 前の縫い目をシームガイドに合わせて、平行に縫うことができます。

前の縫い目をシームガイドに合わせて、平行に縫うことができます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

ヘムのまつり縫い

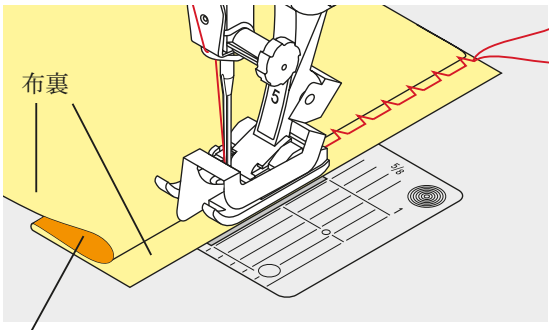


まつり縫い押え No. 5

まつり縫い No. 9

コットン、ウール、混紡の中厚手の生地に、目立たない縁縫いをするのに使います。

準備
- 布端を切りそろえます。
- 布端の表を外にして折り、しつけ縫い、またはしつけピンを打ちます。



- そのままで、布地を中表に折り、布端を右側に出します。
- 布地を押えの下に置き、
- 折り曲げた部分が押えのガイド板の左側にあたるようにセットします。

縫い方
左にジグザグした時に、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意して縫います。
- 10 cmほど縫ったら、生地の表裏をチェックして、必要であれば再度振り幅を調整します。

振り幅の微調整
折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります＝均等なかがり。

フラットヘムステッチ

標準押え No. 1

トリコットステッチ No. 14

ジャージー、コットン、化繊、混紡地等で伸縮性のあるフラットヘムステッチに。

準備
- ヘムにアイロンを掛け、必要に応じてしつけます。
- 押え圧を必要に応じて下げます。

縫い方
- 布端から適当な右側の位置にヘム縫いします。
- 布裏ではみ出た布地をハサミで切り落とし揃えます。

留め縫いプログラム

標準押え No. 1

留め縫いステッチ No. 5

– あらゆる布地に。
– 縫い始めおよび縫い終わりを留め縫いします。

直線縫いで長い縫い目を縫います。
決まったステッチ数で留め縫いをします。

縫い始め
- フットコントローラーを踏みます。
- ミシンは縫い初めに自動的に6針前進、6針後進留め縫いをします。
- 必要な長さを縫います。

縫い終り
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ミシンは(6針後進、6針前進)して自動的に止まります。
- ミシンは留め縫いの後自動的に止まります。

しつけ縫い

つくろい縫い押え No. 9（オプション）

しつけ縫い No. 30

– 長いステッチのしつけ縫いに。
– しつけ縫い、ヘム縫い、キルトなどに。
– 仮縫い。
– 糸の取り除きが簡単。

準備
- 送り歯を下げます。
- しつけする方向にまち針を打って、
- 布地がずれないようにします。

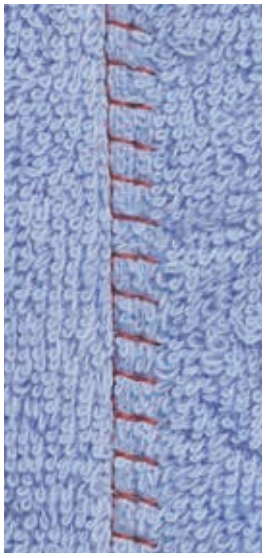
しつけ縫い
- 押え金の下に布地を置きます。
- 最初の一針を縫うときは上下の糸を指で持ちます。
- その状態で布地をまつり縫いの長さだけ後ろに引っ張ります。
- 一針縫います。
- 繰り返します。

留め縫い/糸をロックする
縫い始めと縫い終わりに3、4針、留め縫いをします。

糸
取り除きやすいようにしつけ縫い糸や繕い縫い糸を使います。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

フラット縫い



標準押え No. 1

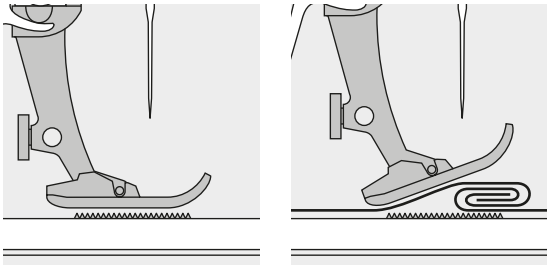
ストレッチオーバーロック縫いステッチ No. 13

タオル地、フェルト、レザーなどのふわふわした生地に最適。

縫い方

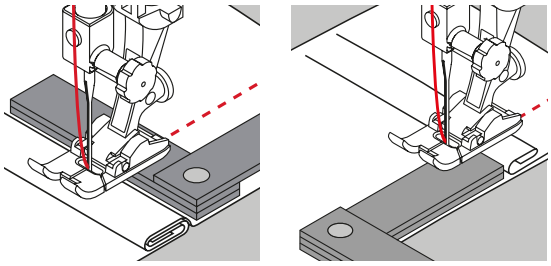
- 布端を重ねます。
- 布端に沿って、ストレッチオーバーロックで縫います。
- 上側の布端に沿って縫います。
- ► 耐久性のある、フラットな縫い合わせ。

不均一な表面での高さ矯正に



送り歯は、押え金が水平になっている場合、もっとも効果的に働きます。

押えが水平でないときは、送り歯が正確に布を遅れないので、縫い目が乱れます。布地が噛み込むかもしれません。

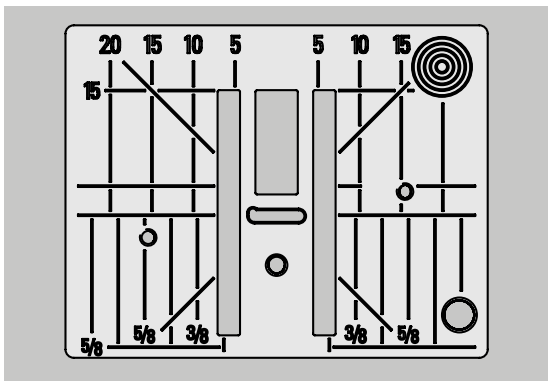


その場合には、図のようにして、高さ調整板を必要な枚数、押えの下に置くようにします。

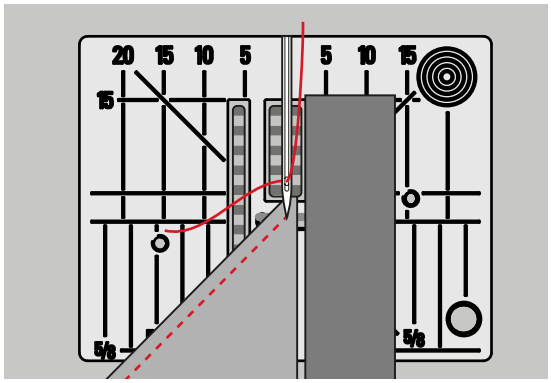
押えの前方の高さを調節するために、一枚か二枚の高さ調節板を押えの下、出来るだけ針に近い位置に挿入します。押えが水平になるところまで縫ったら調節板を取り外します。

針停止を下にセットします。

コーナーを縫う



針板の上では布を送るために三つの送り歯が上下運動をしています。



コーナーを縫う時に、僅かな布地しか送り歯に接触しません。これでは布をしっかり送ることが出来ません。
一枚か二枚の高さ調節板を押えの下に押えに平行に挿入することで、布送りを補正することが出来ます。

► 布地が均等に送られます。

針停止を下にセットします。

メモ

ボタンホール

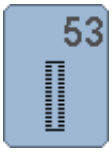
ボタンホールのまとめ

ボタンホールステッチは単に止め具のためだけではなく、飾りとしての効果も多く持ち合わせています。全てのボタンホールはプログラムでき、いろんな手法で縫うことが可能です。

- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- スクロールすると更に多くのボタンホールが用意されています。

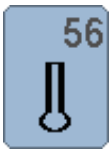
標準ボタンホール
薄手から中厚手の布地、ブラウス、シャツ、ズボン、ベッドリネンなどに。

幅の狭いボタンホール
薄手から中厚手の布地に、ブラウス、ドレス、子供服やベビー服に。



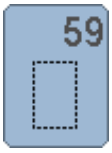
ストレッチボタンホール
コットン、ウール、シルクなどでできた伸縮性の高いニット地に。

ラウンドボタンホール・標準バータック付
中厚手から厚手の布地に、ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどに。

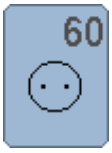


はと目ボタンホール
厚手、非伸縮性布地、ジャケット、レジャーウェアーに。

キーホールボタンホール（ポイントバータック）
固めの伸縮性のない布地に。ジャケット、コート、レジャーウェアに。

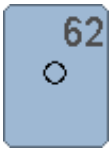


直線ボタンホール
ボタンホールを押さえる、補強する、またはポケットの開き口に使うステッチ。特に本皮、合成皮革の素材に使います。



ボタン縫い付けプログラム
二つ穴、四つ穴のボタン.

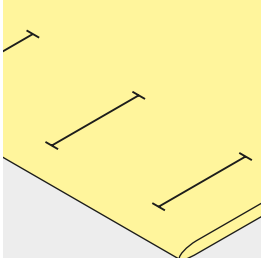
ジグザグアイレット
コード穴、リボン穴、飾り縫いに。

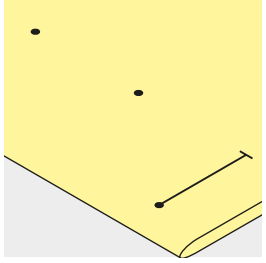


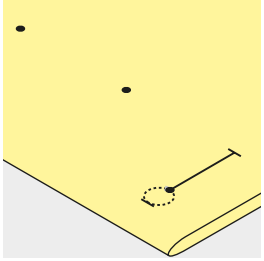
直線アイレット
コード穴、リボン穴、飾り縫いに。

ヘアロームボタンホール
薄手から中くらいの厚みの織地に。ブラウス、ドレス、レジャーウェア、ベッドリネンに。

ボタンホールに関する重要な情報







マニュアルボタンホールの印のつけ方
- 縫う場所に、必要な数のボタンホールの長さの印を付けます。
- ボタンホール押え No. 3(オプション)を使います。

自動ボタンホールの印のつけ方
- ボタンホールひとつ分の印を付けます。
- ► 最初のボタンホールを縫うと、ミシンはボタンホールのサイズを記憶します。
- 2番目以降のボタンホールは、縫い始めのみに印を付けます。
- 自動ボタンホール押えNo. 3Aを使います。

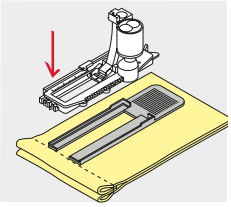
はと目ボタンホールの印のつけ方
- 直線部分の穴かがり縫いの長さの印を付けます。
- ► はと目部分は自動的に追加して縫われます。
- ► 最初のボタンホールが縫い終わったら, ミシンはボタンホールのサイズを記憶します。
- 2番目以降のボタンホールは、縫い始めのみに印を付けます。
- 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3A を使います。

試し縫い
- 必ず、まず同じ布地で試し縫いし、
- 芯地も同じものを使います。
- ボタンホールステッチを選択します。
- ボタンホールは、布の方向、水平、垂直方向、布の順目、逆目には関係無く、常に同じ方向に縫います。
- ボタンホールを切り開きます。
- ボタンを通してみます。
- もし長さ等に問題があれば、調整します。

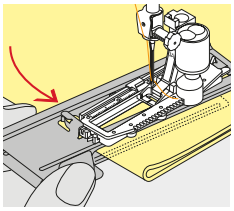
穴かがり幅を調節するには
- 振り幅を調整して下さい。

送り長さを変えてみる
送りの長さを調節するとボタンホールの穴かがりの長さに影響します。
► ステッチ間のスペース
送り長さを変えた場合：
- ボタンホール縫いを再度やり直して長さを記憶させます。

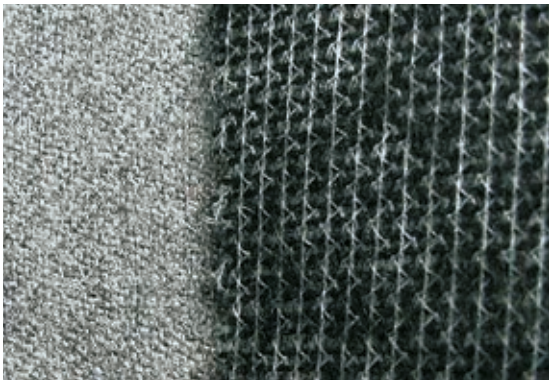
ボタンホールを角や段差部分に縫うときは、ボタンホールガイドアタッチメント(オプション)を使われることをお薦めします。高さ調節板は押えの後ろ側から押えと布との間にスライドさせ、段差を解消するようにセットします。



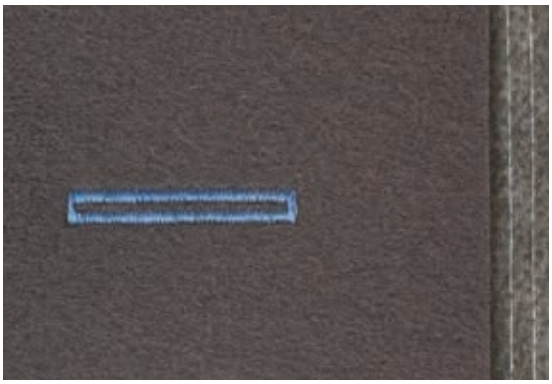
ボタンホールを送りの不安定な布地に縫うときは、ボタンホールガイドアタッチメント(オプション)を使われることをお薦めします。ボタンホール押えNo. 3Aと一緒に使います。



安定紙（芯地）



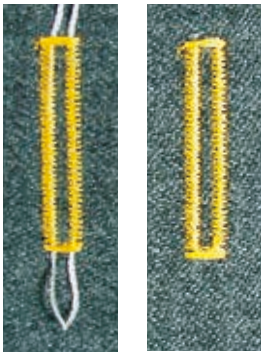
– 芯地はボタンホールの耐久性を補強します。
– 布地に合った芯地を選んでください。



– 厚地で毛深い布地に縫う時は刺しゅう用の安定紙が役に立ちます。
► 布の送りが安定します。

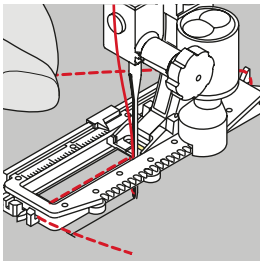
036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

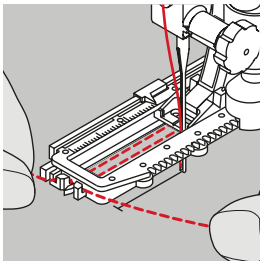
芯糸の効果



実際に縫うときには
– 芯糸はボタンホールを補強し、型くずれを防ぎ、見栄えを良くします。
– 芯糸の輪の部分が、通常もっとも力の掛かる側にくるように入れます。ボタンが止まる位置が、芯糸の輪の部分にくるように一致させます。
● 位置を確認してセットします。

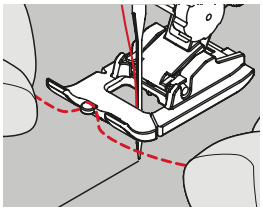
理想的な芯糸のタイプ
– パールコットン刺しゅう糸 No. 8
– 強度のある手縫い用糸
– かぎ編み用ヤーン

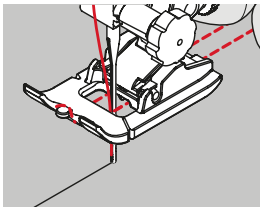




自動ボタンホール押えNo. 3Aを使った芯入りボタンホール
● ボタンホール押えNo. 3Aを上げます。
● ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
● ボタンホール押えNo. 3Aの右側の下に紐をガイドします。
● ボタンホール押え No. 3Aの後方にあるピンに芯糸を掛けます。
● 芯糸を手前に引いてボタンホール押え No. 3A の前の溝にはめ込みます。
● 芯糸を押え金の止め具に引っ掛けます。
● ボタンホール押え No.3Aを下げます。

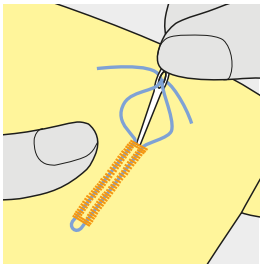
縫い方
● 通常の方法でボタンホールを縫います。
● コードを手で持たないように。
► ボタンホールは芯糸を覆うように縫われます。





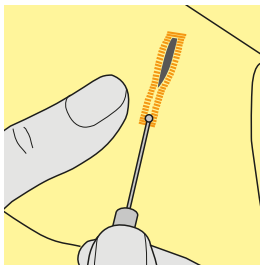
コードをセットしたボタンホール押え No. 3
● 押え金を上げます。
● ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
● ボタンホール押えの（前方の）突起に芯糸を掛けます。
● 芯糸をボタンホール押えの下側を通して後方に引きます。
● 芯糸の両側を押えの下の溝にはまるように持ち、
● 押え金を下げます。

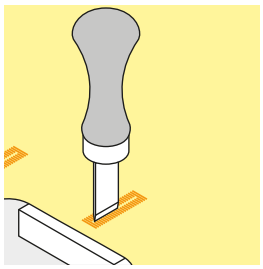
縫い方
● ボタンホールを通常の方法で縫います。
● 芯糸を手で引っ張らないように 。
► ボタンホールが芯糸をカバーするように縫われます。



芯糸の始末方法
● 芯糸を引っ張って、ループ部分がボタンホールの縫い目の端に隠れるようにします。
● かがり針を使って、糸端を裏側に出します。
● 結ぶか、留め縫いをします。

ボタンホールをカットして開く前に
間違ってバータックを切ってしまわないように、まち針をボタンホールの両端に刺します。





シームリッパーを使ってボタンホールを開ける
● ボタンホールの両端から中央に向かってボタンホールを開けます。

ボタンホールカッター（オプション）を使ってボタンホールを切り開く
● 布をブロックの上におきます。
● カッターを、ボタンホールの中央に当てます。
● カッターを力強く押し下げます。

送りバランス

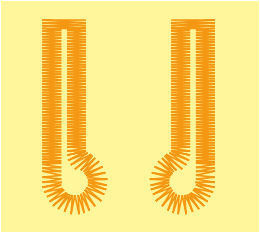
- «i»アイコンをタッチします。
- «バランス»アイコンをタッチします。

調節ダイヤルを使ってバランスを調整する
バランスを調節すると、両側の穴かかがりを均等に調節します。

直接入力ダイヤルではと目とラウンドボタンホールのバランスを調節する
バランスを調節すると、両側の穴かかがりを均等に調節します。
はと目やアイレットのバランス調節は次のように行います。
- 直線部分を縫います。
- ► 穴かがりからはと目部分に達したところで、
- ミシンを止めます。
- «バランス»アイコンをタッチします。
- 送り調節ダイヤルを回して、画面右側の表示が実際に縫ったボタンホールと同じ形状に歪めます。

はと目部分が右側に歪んでいます。A:
- 送り調節ダイヤルを左に回します。

はと目部分が左側に歪んでいます。B:
- 送り調節ダイヤルを右に回します。
- «戻る»アイコンをタッチして、ボタンホールを完成させてください。

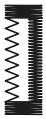


A B

はと目ボタンホールとラウンドボタンホールのバランス
バランスの調整は、左右の縫い目それぞれに、異なって作用します。
左側のステッチが密すぎるC:
- 送り長さ調節つまみを左に回します。
- ► 左側の送り長さは長く、右側は短く調節されます。

C

左側のステッチが粗いD:
- 送り長さ調節つまみを右に回します。
- ► 左側は短く、右側は長くなります。



D

はと目やアイレットのバランス調節は次のように行います。
はと目が右側にゆがんでしまった場合A:
- 送り長さ調節つまみを右に回します。

はと目が左側にゆがんでしまった場合 B:
- 送り長さ調節つまみを左に回します。

マニュアル（手動）の標準ボタンホールのバランス
バランスの調整をすると、左右両方の縫い目に同じように影響します。

ステッチカウント方式ボタンホールのバランス
バランスの調整は、左右の縫い目に、異なって影響します。（写真を参照してください）
- バランスの調整をした後、ボタンホールを再度プログラムして下さい。

バランスをクリアーする
- バランス調節画面の黄枠のアイコンをタッチします。
- または、«clr»ボタンを押します。
- ► «clr» はプログラムしたボタンホール自体を消去してしまうので、ご注意ください。

お薦め
必ず同じ布地、安定芯を使って試し縫いしてください。

長さを直接入力して、マニュアルでボタンホールを縫う場合には、ボタンホール一つ一つにバランス調整をすることが可能です。
ステッチカウント方式のボタンホールでは、左右どちらか一方の縫い目のみの調整を行なうことが可能です。調整を行なった場合、はと目部分も同様に変更されます。

ボタンホールをプログラムする

自動操作による標準、伸縮地用ボタンホール

ボタンホール押え No. 3A

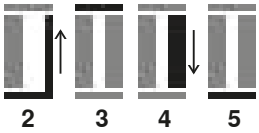
自動標準ボタンホールと伸縮地用ボタンホール No. 51, 52, 53

ボタンホール押えNo. 3Aについたセンサーで、ボタンホールの長さを自動的に読み取り、繰り返し同じサイズを完成させます。
ボタンホールタイプにより4 mm～31 mmの長さまで縫えます。

布送りガイドが平らに布地に接していなければなりません! 布ガイド部分が縫い代などの重なる部分に掛かって斜めになっていると正確な布送りができません。

最初のボタンホールをプログラムする

1 ● 最初の穴かがりを前進で縫います。
● ミシンを止めます。
● «返し縫い»ボタンを押します。
► «auto»と長さ(mm単位)が画面に表示されます。
► ボタンホールの長さがプログラムされました。



ミシンは自動でボタンホールを縫います。
2 後進で直線縫いを縫います。
3 最初のバータックを縫います。
4 もう一方の穴かがりを前進で縫います。
5 二番目のバータックを縫い、留め縫いをします。
► ミシンは自動的に停止し、次のボタンホールを縫い始められる状態になります。

自動ボタンホール

► このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
● プログラムしたボタンホールは恒久メモリーに保存しておくことができます。(89ページを参照)
● «clr»ボタンを押します。
► プログラムしたボタンホールは消去されました。

繰り返し縫い
自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

ソーイングスピード
– 中くらいのスピードで縫いましょう。
– 同じスピードで縫うのが穴かがりの縫い目を揃える秘訣です。

長さをダイレクトに入力して自動で縫う

ボタンホール押え No. 3A

ボタンホールの長さを入力する
ボタンホールは、自動ボタンホール用押え金No. 3Aで、特定の長さに縫うことができます。
ボタンホールの長さ = カットの長さ(mm).

- ボタンホールのタイプを選択します。
- «i»アイコンをタッチします。
- «ダイレクト入力»アイコンをタッチします。

ボタンホールの長さを決める
- 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使って、ボタンホールの長さを入力します。
- ► 入力したサイズはボタンの左側に表示されます。
- ► ボタンの右に表示された数字はボタンのサイズです。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 入力した長さが保存されました。
- ► プログラムされた長さは左側に表示されます。

ボタンホールメニューに戻ります
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► ボタンホールの画面が表示されます。

ボタンサイズ測定と自動ボタンホール

ボタンホール押え No. 3A

ボタンサイズを決める
ミシンは計測したボタンのサイズを元に、ボタンホールのサイズを自動的に計算します。
ボタンの厚みを考慮して実際のサイズに2mmプラスされたサイズになります。
- ボタンを、画面の右下角の明るく照らされた箇所に当てて持ちます。
- 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使って、明るく表示された部分がボタンのサイズに合うように調節します。
- ► ボタンのサイズは、mmで二つの矢印の間、ボタンの右側に表示されます。(例では14 mm)
- ボタンを画面から離します。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► サイズが保存されました。
- ► プログラムされた長さは画面の左側に表示されています。

ボタンの厚みに対する修正
球形等のボタンの場合は、ボタン計測の画面で、実際のサイズ、たとえばボタンの厚みが1 cmならば、1 cm(厚みの2 mmを含む)大きく指定してください。
ボタンがボタンホールを滑らかに通過するように。

ボタンホールの縫い始めに戻る
- «模様頭出し»ボタンを押します。
- ► プログラムはボタンホールの縫い始めに戻ります。

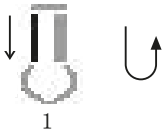
保存したボタンホールの長さを消去する
- «clr»ボタンを押すか、«レコーディング»をタッチします。
- ► «auto»表示が消えて、«REC»が現れます。
- これで新しいボタンホールの長さをプログラムできます。

自動ラウンド、はと目ボタンホール

ボタンホール押え No. 3A

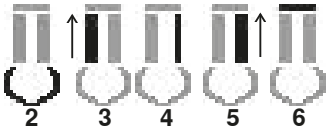
自動ラウンドとはと目ボタンホールNo. 54, 56, 57

布送りガイドが平らに布地に接していなければなりません! 布ガイド部分が縫い代などの重なる部分に掛かって斜めになっていると正確な布送りができません。



ボタンホールをプログラムする

1 ● 直線を前進で縫います。
● ミシンを止めます。
● «返し縫い»ボタンを押します。
► «auto» とプログラムしたサイズ (mm表示)画画面に表示されます。
► ボタンホールの長さがプログラムされました。



ミシンは次のボタンホールを自動で縫います:
2 はと目
3 最初の穴かがりを後進縫いで。
4 直線で前進縫い。
5 もう一方の穴かがりを後進で縫います。
6 バータックと留め縫い
► ミシンは自動で止まり、ボタンホールの縫い始めに戻ります。

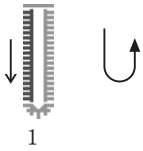
自動ボタンホール

► このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
● プログラムされたボタンホールは恒久メモリーに保存しておくことができます。(89ページ参照)
● «clr»ボタンを押します。
► プログラムしたボタンホールは消去されました。

繰り返し縫い
自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

はと目ボタンホールを二度縫いする
– 厚い布地ではは目ボタンホールを二度縫いするとしっかりした仕上がりになります。一度目は送り長さを少し大きくします。送りを変えても全体のボタンホールの長さは変わりません。
– 最初のボタンホールを縫い終わった後、そのまま押え金も布地も動かさないで下さい。
– 送り長さを少し短くして、もう一度ボタンホールを縫います。

ヘアロームボタンホール

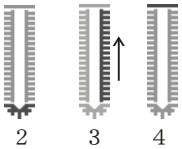


ボタンホール押え No. 3A

ヘアロームボタンホールステッチ No. 63

最初のボタンホールをプログラムする

1 ● 最初の穴かがりを前進で縫います。
● ミシンを止めます。
● «返し縫い»ボタンを押します。
► «auto»とプログラムされた長さが (mmで)画面に表示されます。
► ボタンホールの長さがプログラムされました。



ミシンは次のボタンホールを自動で縫います。

2 ラウンド部分
3 もう一方の穴かがりを後進で縫います。
4 バータックと留め縫い
► ミシンは自動で止まって、ボタンホールの縫い始めに戻ります。

自動ボタンホール

► このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
● プログラムされたボタンホールは恒久メモリーに保存しておくことができます。(89ページ参照)
● «clr»ボタンを押します。
► プログラムしたボタンホールは消去されました。

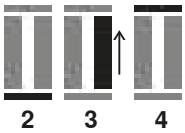
ステッチカウントボタンホール

ボタンホール押え No. 3

全てのボタンホールタイプに

最初のボタンホールをプログラムする

1 ● 最初の穴かがりを前進で縫います。
● ミシンを止めます。
● «返し縫い»ボタンを押します。



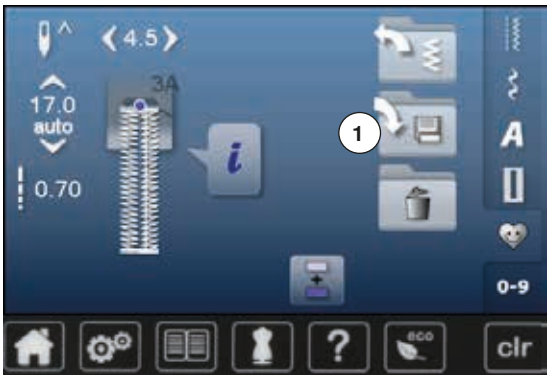
2 手前のバータックを縫います。
3 二番目の穴かがりを後進で縫います。
● ミシンを縫い始めの位置で止めます。
● «返し縫い»ボタンを押します。
4 ミシンは奥側のバータックを縫って、留め縫いして自動的に止まります。
► «auto» が画面に表示されます。
► ボタンホールの長さがプログラムされました。
► 続けて同じボタンホールを縫うことができます。

– 左側の一列は前進で、右側は返し縫いの形で縫われます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

ボタンホールを記憶する

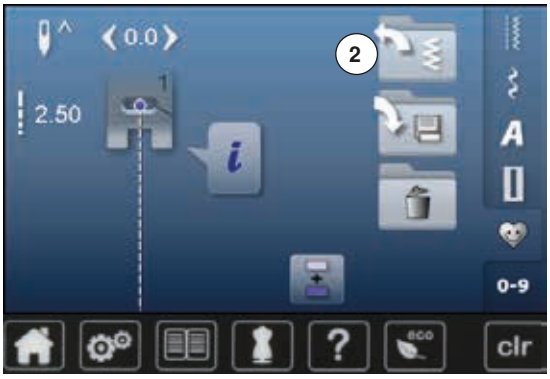
- «メモリー»ボタンをタッチします。



最初のボタンホールをプログラムする

- «保存»アイコン1をタッチします。
- ► «保存»画面が表示されます。
- «保存»アイコンをタッチする。
- ► ボタンホールは恒久メモリーに保存されました。

- «メモリー»ボタンをタッチする。



保存したボタンホールを選ぶ

- フォルダー2をタッチする。

- ボタンホールを選択します。

保存されたボタンホールを調整する。

- «i»アイコンをタッチする。
- «長さ直接入力»アイコンをタッチする。
- 保存されたボタンホールの長さを調節する。
- «戻る»アイコンをタッチする。
- ボタンホールを説明通りにプログラムしなおす。

- «メモリー»ボタンをタッチする。

保存したボタンホールを消去する

- «消去»アイコン1をタッチする。
- ► 保存したボタンホールが表示されます。
- 消去したいボタンホールを選びます。
- ✔で確認する。
- ► ボタンホールが消去されました。

7- または 5-ステップマニュアルボタンホール

- ボタンホールを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。
- «man（マニュアル）»アイコンをタッチします。

穴かがりの長さはソーイング中に決めます。バータック、はと目、留め縫いなどの要素はすでにプログラムされています。各ステップはスクロール、または矢印アイコン、または«返し縫い»ボタンで選ぶことが可能です。

7-ステップボタンホールを縫う

- ► ステップ 1がボタンホールの縫い始めです。
- ► ステップ2は縫い始めるとオンになります。
- ● そのままボタンホールの最初の一列を縫います。
- ● ミシンを適当なところで止めて、または最初に印をつけた位置まで縫って、最初の穴かがりを縫います。
- ● ステップ3を選びます。
- ► ミシンが反対方向に直線縫いします。
- ● 最初の縫い始めまで戻ったらミシンを止めます。
- ● ステップ4を選びます。
- ► ミシンが上のバータックを縫って、自動的に停止します。
- ● ステップ5を選びます。
- ► 二番目の穴かがりを縫います。
- ● 最初の穴かがりまで縫ったらミシンを止めます。
- ● ステップ6を選びます。
- ► ミシンが下のバータックを縫って、自動的に停止します。
- ● ステップ7を選びます。
- ► ミシンが留め縫いをして、自動的に停止します。

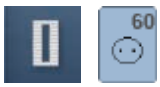
5-ステップボタンホールを縫う

- ► ステップ1がボタンホールの縫い始めです。
- ► ステップ2 でボタンホールを縫い始めます。
- ● そのままボタンホールの最初の一列を縫います。
- ● 適当な穴かがりの長さを縫ったら、または最初に印をつけた長さを縫ったらミシンを止めます。
- ● ステップ3を選びます。
- ► ミシンは、はと目を縫って自動的に止まります。
- ● ステップ4を選びます。
- ► ミシンは二番目の穴かがりを後進で縫っていきます。
- ● 最初の縫い始めまで縫ったらミシンを止めます。
- ● ステップ5を選びます。
- ► ミシンは上のバータックを縫って、自動的に留め縫いします。

直線縫いボタンホール No. 59

- – 自動ボタンホールと同じ手順で縫います。（85ページ参照）
- – 直線縫いステッチ（あるいは仮縫いステッチ）のボタンホールNo.59は特にウールのような柔らかで織の粗い布地や擦り切れやすい場所に縫うボタンホールなどに良く使います。直線縫いボタンホールはまた、皮、人工皮革、ビニールやフェルトにボタンホールを縫う場合の補強にも使われます。

ボタン付けプログラム



- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- «ボタン付けプログラム»アイコンをタッチします。

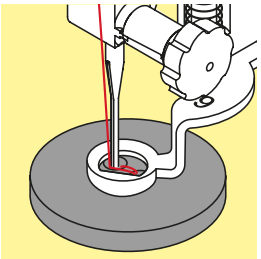
ダーニング押え No. 9 (オプション)
ボタン付け押え No.18 (オプション)

ボタン付けステッチ No. 60

二つ穴、四つ穴のボタン.

準備
- 送り歯を下げます。

ボタンの縫い付け
飾り付けるためのボタンを縫うときはボタンを浮き上がらせる(シャンク)を付ける必要はありません。«シャンク長さ» =ボタンと布地の距離を取るにはボタン付け押え No. 18が便利です。

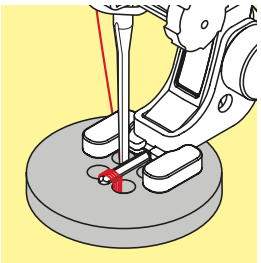


ボタンをダーニング押え No. 9(オプション)で縫い付ける
- ボタン付けプログラムを選択します。
- はずみ車を手で回して針をジグザグさせて、ボタンの穴と穴の距離を測ります。
- 必要ならば振り幅を調整します。
- 上下の糸を手で持ちながら、縫い始めます。
- 最初に左側の穴で留め縫いをします。
- 縫い始めます。
- ミシンが自動的に止まるまで縫い続けます。次のボタンを縫いましょう。

始めと終わりの糸始末
糸は留め縫いされていますので、余分な糸を切り取ります。

しっかり縫いつけるには
- 両方の糸を長く残して切り、布地の裏側に引き出します。
- 両方の糸を布裏で結びます。
- 余分な糸を切り取ります。

ボタン付け押えNo. 18 (オプション)を使って縫う
- 押えのシャンクにある調節ネジでボタンの浮き加減を調節します。
- ボタン付けプログラムを選んで、ダーニング押えNo.9 (オプション) と同じ要領で縫います。



四つ穴のボタンを縫う
- 手前側の穴をまず縫います。
- 注意してボタンを手前に引きます。
- 次に後ろの二つ穴を縫います。

強度を増したいときは、二度繰り返し縫うことをお勧めします。

アイレット

- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- «アイレットプログラム»アイコンをタッチする。

標準押え No. 1

ジグザグアイレット No. 61
直線アイレット No. 62

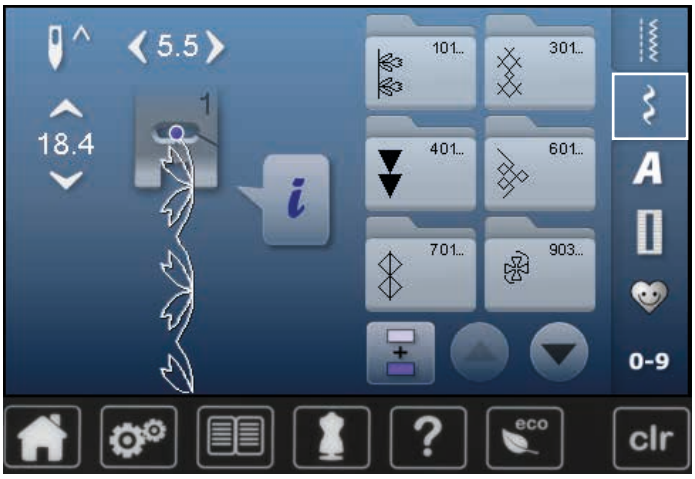
アイレット
- アイレットを選びます。
- 布地を押えの下に置き、アイレットを縫います。
- ミシンは自動的に止まります。

アイレットに穴を開ける
- 千枚通し、パンチ・プライヤー、穴あけなどでアイレットに穴を開けます。

アイレットの形状がいびつな場合はバランス機能を使って調節します。
しっかりしたアイレットには、二度縫いをお勧めします。

飾り縫い

飾り縫いに関して



- «飾り縫い»ボタンをタッチする。
- ► 画面にカテゴリーが表示されます。
- アイコンをタッチします。
- ► 選んだカテゴリーが表示されます。
- ステッチを選びます。

適用

シンプルなデザインや複雑なものなど、布地にあわせて飾りステッチを選びます。

– 薄地には、飾り縫いステッチと直線縫いを組合わせるとよいでしょう。例えば飾り縫いステッチ No. 101等。
– 中厚手の布地などには飾り縫いと直線縫いまたは幾つかのサテンステッチを組合わせるのも趣向があります。例えば、飾り縫いステッチ No. 112等。
– 中厚地には、飾り縫いとサテンステッチを組合わせるとよいでしょう。例えば飾り縫いステッチ No. 401等。

カテゴリー

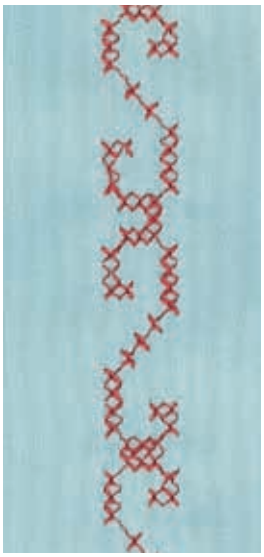
Cat. 100 = 花模様
Cat. 300 = クロスステッチ
Cat. 400 = サテンステッチ模様
Cat. 600 = 装飾模様
Cat. 700 = ヘアロームステッチ
Cat. 900 = ノーベルティー・ステッチ
Cat. 1300 = キルトステッチ

完璧なステッチを縫うには

– 上下に同じ色の糸を使うようにしましょう。
– 布裏に安定紙を使って布地を補強します。
– パイル地や毛足の長い材質の布地には表側に水溶性の安定紙をあてて縫うとよい結果が得られます。（例えば、ウール、ベルベット等.）縫ったあとで簡単に取り除けます。

飾り縫いの適用例

クロスステッチ



標準押え No.1 または
オープン刺しゅう押え No. 20

クロスステッチ

– クロスステッチは、いろいろな飾りに使える伝統的なステッチです。
– 麻布にクロスステッチを縫うと、手縫い風のクロスステッチに仕上がります。

適用
– ホームデコレーションに。
– 衣類のふち飾りに。
– さまざまな飾り縫いに。

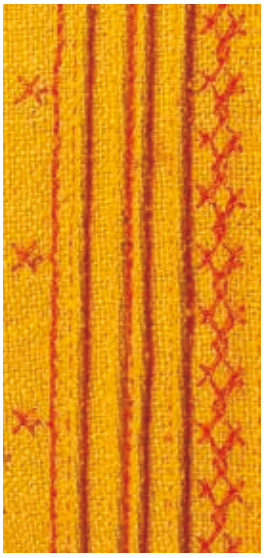
縫い方
カテゴリー300のクロスステッチは、他のどの飾りステッチとも同様に縫ったり、コンビネーションで縫ったりできます。

ふち飾りを縫う
- クロスステッチを選択します。
- シームガイド、またはスライドオンテーブルのガイドを使って、一列縫います。

最初の列が歪むと仕上がりに大きく影響しますので、一列目をまっすぐに縫うことがとても大切です。
- 新しいステッチパターンを選ぶ。
- 2列目のステッチを、一列目から押え金の幅一つ分開けるようにして縫います。
- 3列目以降も同様にして縫っていきます。

刺しゅう糸を使用したクロスステッチ
ステッチが織物のように仕上がります。

ピンタック

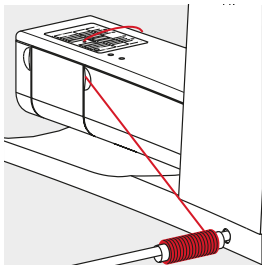


ピンタック押え(オプション)
- No. 30 (3本溝) = 4 mm 2本針、厚手の布用
- No. 31 (5本溝) = 3 mm 2本針、中—厚手の布地
- No. 32 (7本溝) = 2 mm 2本針、薄手—中厚地の布地
- No. 33 (9本溝) = 1 または1.6 mm 2本針、非常に薄手の布用(コードの縫込みはできません)

直線縫い No. 1

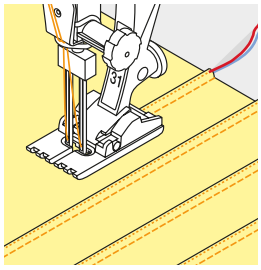
- このテクニックを使うと、布のサイズが縮まりますので、大きめの布をご用意下さい。
- ピンタックとは、布を少しつまんで、縫ったものです。通常、布が縮みますので、型紙に合わせてカットする時は、前もって縫っておきます。
- 飾り用に単独で、または他のヘアロームテクニックと併せて使います。

コード芯入りピンタック
- ピンタックをコード芯と一緒に縫うこともできます。
- コード芯を使うと、立体感のある仕上がりになります。
- 選んだピンタック用押え金の溝に合うコード芯を使用します。
- コード芯は色落ちしない、縮まないものを選びましょう。



コード芯をセットする
- 針板を外して、ボビンカバーを開きます。(28ページ参照)
- 釜カバーを開きます。
- 下側からコード芯を通し、ボビン部分を抜けて、針板の穴を通すようにします。
- 針板を戻します。

- 釜カバーを閉じます。
- コード芯は自由に送れるようにします。ボビンカバーの細いすきまをガイドに使いましょう。
- コード芯の糸こまは、フリーハンドシステム(膝押え上げレバー)に通しておきます。
- コード芯がスムーズに進むかどうか、チェックしておきましょう。



ピンタックを縫う
- 最初のタックを縫います。最初にラインを描いておくとよいでしょう。
- ► コード芯は、自動的にピンタックの中に縫いこまれます。

コードは布の裏側に下糸で縫いこまれていきます。
- 必要ならば、布の向きを変えながら進めます。
- 最初のピンタックを、押え金の溝の一つに合わせます。(タック同士の距離を考えて決めます)
- 2列目を縫います。
- これら2列のピンタックに合わせて、残りを縫っていきます。

もしコードがスムーズに流れてこないようなら、釜カバーを開けて、セットアッププログラムで下糸センサーをオフにして縫ってみてください。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

ボビンマジック

フリーモーションソーイング
ボビンに糸以外の材料を巻いて縫います。フリーモーションテクニックで布地を飾ります。普通のフリーモーションソーイングと同じ要領ですが、飾り付けるのは**布裏**です。

縫う部分は、刺しゅう用の安定紙で補強しておきましょう。布の裏側にデザインを描きます。あるいは、布の表にデザインを描いて、コットン、ポリエステルまたはレーヨンの糸を使い、直線縫いでなぞっておいてもよいでしょう。裏側に出たステッチラインをガイドにして、ボビンマジックをしていきます。

ボビンマジック手法にBSR機能を使うこともできます。作品を一定の速度で動かすことを心がけてデザインを縫います。縫い終わったら安定紙を綺麗に取り除きます。

常に実際に縫う布地を使って試し縫いをして、どのような仕上がりになるかを確かめてください。必要に応じて上下の糸のテンションを調節します。

> 下糸の流れがスムーズになるように、ボビンを通常とは反対向きに、反時計方向に挿入することもあります。

飾り縫いステッチを選ぶ
全ての飾りステッチがこの手法に適しているわけではありません。シンプルな前進のみの飾り縫いが適しています。サテンステッチや複雑なデザインステッチは使わないようにしましょう。

オープン刺しゅう押えNo. 20 がこの手法に最も適した押え金です。
– 送り長さを長く、振り幅は広めに調整します。太い糸を使って縫う場合、この方がきれいに仕上がります。

キルトステッチ

キルトステッチの一覧

キルティング、パッチワークやアップリケ等に最適ないろんなステッチが用意されています。

- «飾り縫いステッチ»ボタンをタッチします。
- ► 画面にカテゴリーの一覧が表示されます。

カテゴリー1300 = キルトステッチ

- お好みのパターンを選択します。
- ► ステッチパターンの中には振り幅を変更できないものもあります。
- ► 振り幅が変更できないステッチパターンの場合には、《鍵》マークが表示されます

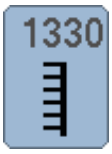
キルター用留め縫い機能

キルティング用直線縫い

スティップリングステッチ

手縫い風キルトステッチ

ブランケットステッチ



ダブルブランケットステッチ

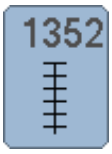
まつり縫い（狭い）

フェザーステッチ

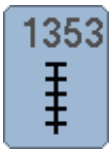
各種フェザーステッチ
1333-1338

各種飾り縫いキルトステッチ
1339-1345, 1355, 1356, 1359

キルトステッチ／手縫い風キルトステッチ各種
1346-1348



ブランケットステッチ（上送り）

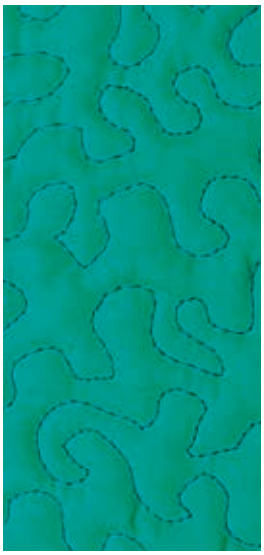


ダブルブランケットステッチ（上送り）

サテンステッチ

キルトステッチの適用例

手縫い風キルトステッチ

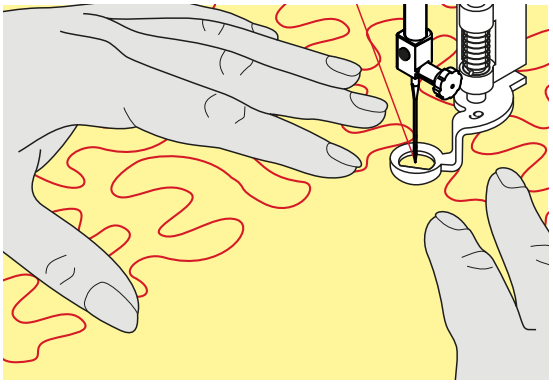


ダーニング押え No. 9 (オプション)

直線縫い No. 1

フリーモーションキルティングに
あらゆるタイプのフリーモーションソーイングに。

準備
- トップ、キルト芯、土台布の三層をまち針でとめるか、しつけを掛けます。
- ソーイングテーブルを使います。
- フリーハンドシステムを使いましょう。
- 送り歯を下げます。



作品の持ち方
- 作品を刺しゅう枠にセットするように両手でしっかり張るようにして持ちます。

指先に滑り止めのゴムコーティングされたキルター用手袋は作品をガイドするのに大変便利です。

デザインをキルティングする
- 中心から外に向かってキルトを掛けてゆきます。
- 作品をスムーズに丸く動かしながら、デザインを描いていきます。

スティップリング
– キルトステッチでスペースを埋め尽くします。
– ステッチはスムーズな曲線を描くようにし、交差しないようにします。

フリーモーションキルティングとダーニング
両方のテクニックはフリ ーモーションに基づいています。

針目が揃わない
– 糸が表側にひっぱられているようなら、布を動かすスピードを遅くしてみます。
– 裏側で糸が輪を作るようなら、布を動かす速度を早めてみてください。

ナイロン糸が切れる場合
縫うスピードを遅くして、上糸調子を緩めます。

糸切れする時は
布を安定した動きで動かしてください。

BSR

BSRでキルティング（オプション）

BSRの機能
BSR押えは、押えの下にあるセンサーで布の動きを感知して、ミシンのスピードを自在に変化させキルティングステッチの縫い目の長さを一定に保ちます。つまり、布の動かし方が速ければ、それに合わせてミシンのスピードも速くなります。
布の動かし方が速過ぎる場合に、ブザー機能がオンになっていれば、警告のピー音が鳴ります。(103ページ参照).

ご注意!
BSR押えが赤く点灯している時は、糸通しや針交換等の作業は絶対に行わないで下さい。ミシンはBSRモードになっており、うっかり布を動かしたりすると、勝手に針が動きますので、大変危険です。布が動かない状態にあると、BSRモードは約7 秒後にオフになり、赤いランプも消えます。
詳しくは、「安全にお使いいただくために」をご参照下さい。
BSR機能がオンになると、ミシンは直ちに減速されたスピードで連続縫いをするか（モード1、標準設定）、または布の動いている間だけ縫います（モード2）。

BSR機能を直線縫い No. 1で使う
BSRで直線縫いを選ぶと、直線ステッチでフリーモーションのキルティングを可能にします。縫い目は最大4 mmまでの長さで設定できます。
縫い目長さは、一定の速度までは、布の動きに関係なく設定した長さに保たれます。

BSR機能をジグザグ縫い No. 2で使う
ジグザグ縫いは、例えばスレッドペインティング等に大変便利です。ジグザグ縫いのBSRでは、送り長さは関係 無く、BSR機能は布の動きに合わせて布にペインティングするように縫っていきます。

BSRには2種類の動作モードがあります。
- **BSR 1モード** が標準設定です。
- フットコントローラーを踏み込むと、または «スタート/ストップ»ボタンを押すとすぐに、ミシンはゆっくりしたスピードで縫い始めます。
- 縫う速度は、押えの下で布を動かすスピードにより制御されます。
- 針は連続して動いているので、他のボタンを押すことなく、何処ででも留め縫いをすることが可能です。

- **BSR 2モードは**BSR画面でBSR 2アイコンをタッチするだけでBSR 2モード に切り替わります。
- BSR2モードでのミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、または«スタート/ストップ»ボタンを押すと、BSR機能がオンになりますが、布を動かさない限り、ミシンは縫い始めません。
- 布を動かすスピードによって、ミシンのスピードが決まります。
- 留め縫いをするには、«留め縫い»ボタンを押します。
- BSR画面でBSR 1アイコンをタッチすると、BSRモード1に切り替わります。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

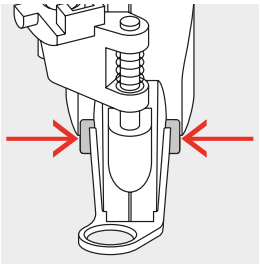
（最初の一針を）均等な縫い目で縫い始めるためには、フットコントローラーを踏み込むと同時に布を動かし始めなければなりません。角の部分を縫ったり、丸い形を直線縫いする場合も同様です。

BSR機能がオンのままでミシンの電源をオフにした後、再度ミシンをオンにした場合は、最後に使っていたBSRモードがオンになっています。
布を動かすスピードが速すぎると、針目が揃わない場合があります。

BSR押えの下側のレンズに指紋やが糊が付いたりして汚れていないのを確かめてください。BSRのレンズは定期的にレンズクロス等できれいに拭きましょう。

準備

- 送り歯を下げます。
- 押え圧は、素材のタイプや厚みにより調節します。
- ソーイングテーブルをセットしてください。
- フリーハンドシステムを取り付けます。

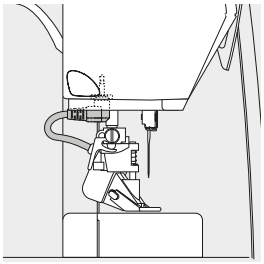


押え底を取り外すには

- 押えの両側に突起しているボタンを押して、
- 押えの底を抜き取ります。

押え底を取り付ける

- 目的にあった押え底を滑り込ませながらカチッと収まるまで押し込みます。



- BSR 押えをミシンに取り付けます。
- 押えのプラグをミシンのコネクターに接続します。

► BSR-画面が自動的に表示されます。
► BSR 1 モードが立ち上がります。
- 送り長さをセットして下さい。
– 標準の送り長さは2 mmです。
– 小さな場所やスティッピングを縫う時の送り長さは1-1.5 mm をお勧めします。

BSRモードでの各種機能

針下位置停止（標準設定）
- ► BSR画面上で、矢印が下を向いて表示されます。
- ► フットコントローラーを放すか、«スタート/ストップ»ボタンを押すと、ミシンは針が布を刺している状態で停止します。

針上位置停止
- ● 画面上で«針停止»アイコンをタッチします。
- ► 矢印が上を向きます。
- ► フットコントローラーを放すか、«スタート/ストップ»ボタンを押すと、ミシンは針が上に上がった状態で停止します。

針を上げる、または下げる
- ● «針停止»ボタン押します。
- ► 針を上下することができます。

«スタート/ストップ»ボタン を使った留め縫い機能（モード1のみ）
- ● 押えの下に布地を置きます。
- ● 押えを下げます。
- ● 上糸を持って«針停止»ボタンを二回押します。
- ► 下糸が引き上げられました。
- ● 上下の糸を指で持ったままで、
- ● «スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ► BSRモードが起動しました。
- ● 5-6針留め縫いをします。
- ● «スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ► BSR モードが停止します。
- ● 糸を切ります。
- ● «スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ► BSR モードが起動しました。
- ● 続けて縫ってください。

留め縫い機能（モード2のみ）
- ● «留め縫い»ボタンを押します。
- ● フットコントローラーを踏み込むか、«スタート/ストップ»ボタンを押します。

布地を動かすと短い留め縫いを数針縫った後、ミシンは送り長さを設定した状態に戻し、留め縫い機能をオフにします。

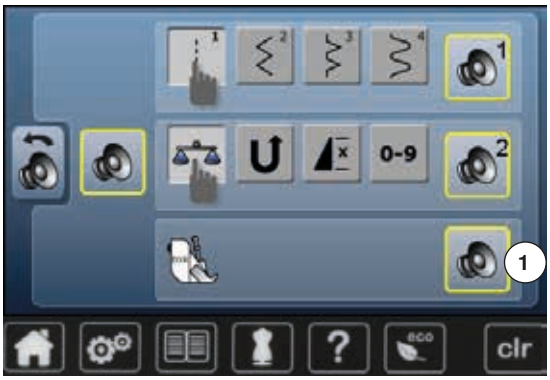
フリーモーションキルティング（モード2のみ）
- ► BSRモードをオンにします。
- ● フリーモーションキルティングができます。
- ● フリーモーションの途中で 留め縫い機能ボタンをタッチすると、短い留め縫いステッチをして、ミシンが止まります。
- ► BSRモードはオフになります。

BSRをオンにしないでフリーモーションキルティング
- ● «BSR»アイコンをタッチします。
- ● BSRモードはオフになります。

BSR押えを使って普通のフリーモーションキルティングが可能です。ステッチ長さの自動制御は働いていません。

BSR警告音(ピー音)をオン／オフにするには

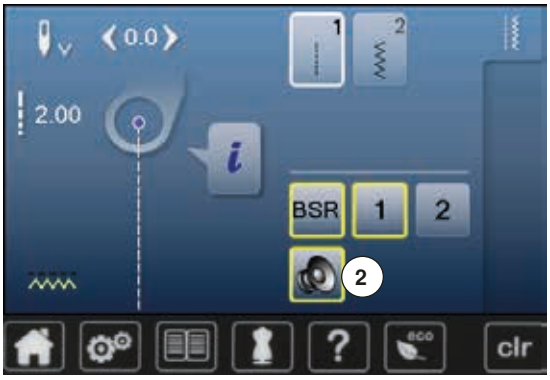
- «セットアップ»ボタンをタッチします。
- «オーディオシステム»アイコンをタッチします。



セットアッププログラムのBSR警告音アイコンを選びます

- ► 標準で警告音がオンに設定されています。
- BSRのスピーカーアイコン1 をタッチします。
- ► スピーカーが赤く表示されます。
- ► 警告音がオフに設定されました。

警告音がオンに鳴っているときはスピーカーはグレーで表示されています。



«BSR»画面で警告音のオン/オフを選ぶ

- スピーカーアイコンをタッチします。
- ► スピーカーが赤く表示されます。
- ► 警告音がオフに設定されました。

警告音がオンのときはスピーカーアイコンがグレーで表示され、黄枠で囲まれて表示されています。

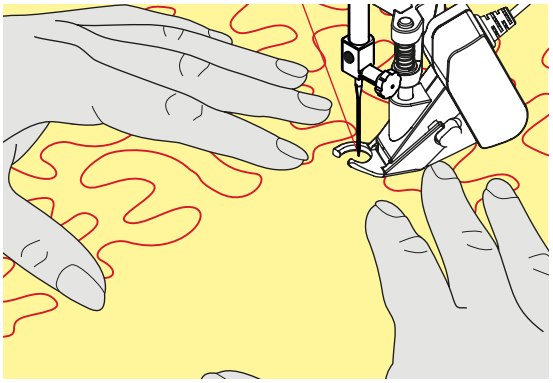
スピーカーアイコン2はセットアッププログラムで警告音がオンに設定されているときだけBSR画面に表示されます。

BSR機能をオンにします
方法1:
BSRをフットコントローラーで使う方法。
- ● フットコントローラーを接続します。
- ● 押え金を下げます。
- ● フットコントローラーを踏みます。
- ► BSR モードがスタートします。
- ► 押え金に赤いライトが点灯します。
- ● 縫っている間は、ずっとフットコントローラーを踏み込んでおきます。
- – ミシンのスピードは、布の動きに合わせて自動制御されます。
- ● フットコントローラーを放します。
- ► BSR モードが停止します。

方法2:
BSRを«スタート／ストップ»ボタンで使う方法。
- ● 押えを下げます。
- ● «スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ► BSR モードがスタートします。
- ► 押え金の赤いライトが点灯します。
- – ミシンのスピードは、布の動きに合わせて自動制御されます。
- ● «スタート/ストップ»ボタンをもう一度押します。
- ► BSR モードが停止します。

«スタート/ストップ»ボタンを押してBSR機能を停止させる
モード 1
布が約7 秒間動かない状態にあると、BSRモードは自動的にオフになり、押えの赤いランプも消えます。

モード 2
縫い終わって布を動かさずにいると、針停止位置によってはもう1針縫って停止します。画面の針停止位置の矢印が下を指していても、ミシンの針は、上位置で停止するからです。



作品の持ち方
- ● 作品は、刺しゅう枠に布地をセットするような感じで両手でしっかり張るようにして持ちます。
- – 急な手の動きは極端に長いステッチや短いステッチを生み出します。
- – 安定した布の動きが目の揃ったステッチを生み出します。
- – ソーイング中にピボット縫い（針を刺したままで布地を回転させる）をしないように。

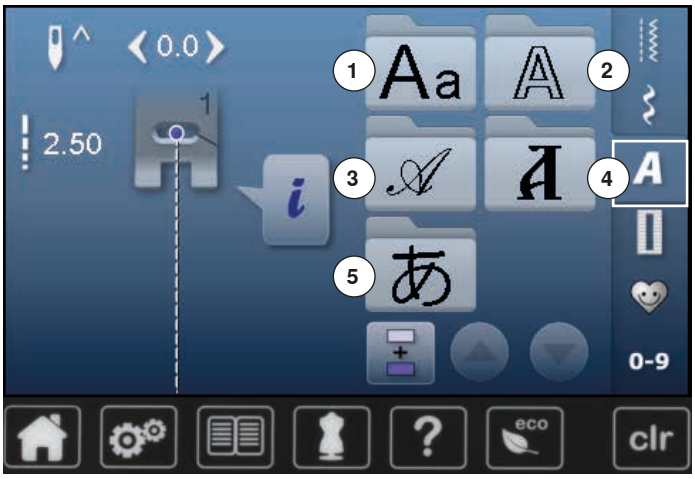
> 指先に滑り止め加工した手袋はフリーモーションキルティングには大変便利です。

適用例:
- – BSRをジグザグステッチNo. 2で縫う
- – ジグザグステッチはスレッドペインティングのような効果を生み出します。
- – 広いスペースをすばやく埋めていきますので、絵画のような作品を作り出せます。

BSR 機能を停止させる
- ● BSRのプラグをコネクターから引き抜きます。
- ● BSR押えを取り外します。

文字

文字に関して



- «アルファベット»ボタンをタッチします。
- ► 画面には文字の一覧が表示されます。

1 ブロック体
2 中抜き文字
3 イタリック体
4 ギリシャ文字
5 ひらがな

- 縫いたい書体を選びます。

レタリング

- 矢印のアイコンを使って、すべての大文字、数字、句読点等の記号および特殊文字を見ることができます。

完璧なステッチを縫うには

- 上下同色の糸を使いましょう。
- 作品の裏側に安定紙を置いて補強します。
- タオル地や毛足の長い布（ウール、ベルベット等）の場合は、安定紙に加えて、水溶性安定紙を布表にあてて縫います。
- 薄手の布地には、直線的な単純なステッチの文字（ダブルブロック体等）等が適しています。

レタリングの組み合わせ

個々の文字、および同じ字体の同じ文字を連続する場合には、シングルモードで縫います。
名前、住所、文章等をステッチするには、組合せモードを使います。

- «コンビモード»をタッチします。
- アイコンをタッチして文字を選びます。
- ► ステッチ操作域に文字が表示されます。
- ► カーソルは、文字の下に表示されます。

次の文字を選ぶ
- 文字アイコンをタッチして選びます。
- ► 2番目の文字が、ステッチ操作域に表示されます。

組合わせたステッチ/文字を訂正するには

文字を挿入する
文字は常にカーソルの上に挿入されます。
コンビネーションの先頭に文字を挿入するには:
- カーソルをスクロールしてコンビネーションの先頭に持ってきます。

挿入したい場所を特定する:
- カーソルをスクロールして挿入したい位置に持ってきます。
- 挿入する文字をタッチして選びます。
- ► カーソルの上に文字が挿入されます。

文字を削除するには
カーソルの上の文字が削除されます。
削除する位置を特定します:
- カーソルをスクロールして削除したい場所にもって行きます。
- «削除»アイコンをタッチします。
- ► これで文字を削除できました。

コンビネーションの保存、削除は、112、116ページを参照してください。

文字と機能の組み合わせ

小文字を選びます。

- «大文字/小文字»アイコンをタッチします。
- ► 小文字«a»がオンになり、黒く表示され、アイコンの左上コーナーに移動します。
- ► 小文字機能がオンになりました。
- «大文字/小文字»アイコンをもう一度タッチします。
- ► 大文字«A»がオンになり、黒く表示され、アイコンの左上に移動しました。
- ► これで大文字機能がオンになりました。

パーソナルプログラム

パーソナル画面を作る

よくお使いになるステッチをご自分の仕様に”加工”して、パーソナルプログラムに保存しておくことが可能です。

以下の変更を保存することができます:
- 振り幅
- 送り長さ
- 針基線
- 模様反転
- バランス
- 模様繰り返し（1回から9回）

パーソナルプログラム用のメモリーは刺しゅうデータの保存とかステッチの保存用メモリーと汎用です。この汎用メモリーに空きスペースが無い状態の時は、パーソナルプログラムをご利用いただけません。不要なデータをメモリーから削除してください。

ステッチパターンを準備する

最初のステッチをプログラムして保存する
- 例えば、«実用縫い»画面からジグザグを選びます。
- 変更を加えます。
- «パーソナルプログラム»ボタン**1**をタッチします。

- «保存»アイコン**2**をタッチする。

- «保存»アイコン3をタッチします。
- ”加工”したジグザグが保存されました。
- 画面が閉じます。

二番目のステッチをプログラムし保存する

- «ボタンホール»ボタンをタッチします。
- 標準ボタンホールNo. 51を選びます。
- 同じ要領でステッチを保存します。
- このようにして、どのようなステッチでも保存できます。

パーソナルプログラムからステッチを選ぶ

- «パーソナルプログラム»ボタンをタッチする。

- «開く»アイコン4をタッチする。

パーソナル画面

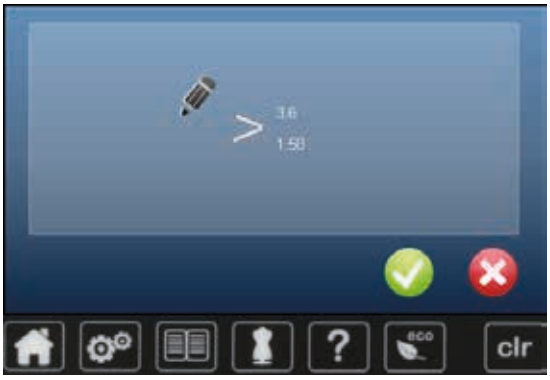
- プログラムされたステッチはイラストと振り幅、送り長さと共に表示されます。
- スクロール機能でステッチを探すことができます。

ステッチの変更、上書き

ステッチパターンを選びます

- «パーソナルプログラム»ボタンをタッチします1。
- ジグザグステッチを選びます。
- 変更を加えます。
- ► 振り幅と送り長さが修正されました。(黄色い番号表示)
- «パーソナルプログラム»ボタンをタッチします。
- «保存»アイコンをタッチします。

- ジグザグ2を選びます。



- ✔で確認します。
- ► 変更内容が保存されました。

ステッチパターンを削除する

ステッチパターンを選びます

- «パーソナルプログラム»ボタンをタッチします。
- «削除»アイコン**1**をタッチします。

- 削除したいステッチパターンを選択します。

- ✔で確認します。
- ► ステッチパターンが削除されました。
- ► 残ったステッチは空いたスペースを埋めて移動します。

コンビモード

ミシンには、ソーイングおよび刺しゅうの両方に関するメモリーを保存するメモリーシステムがあります。

ソーイングメモリーには、ステッチパターン、文字および数字の組み合わせが保存できます。

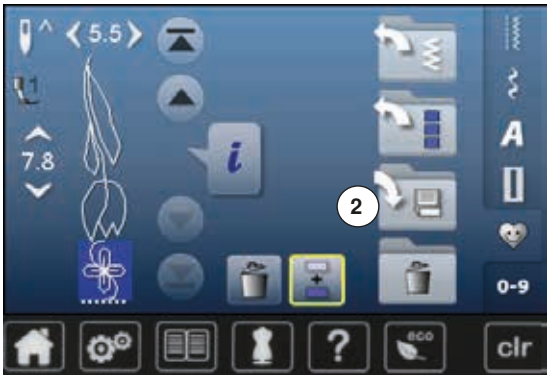
ソーイングメモリーでは、空き容量が十分にあれば、«メモリー»ひとつに70個のステッチパターンを保存することができます。メモリーに空きがあるにもかかわらず、保存スペースが一杯になってしまう場合は、刺しゅうデザインの保存が多すぎる可能性があります。

メモリーは長期保存されます（データは削除するまで保存されます）。電源を切っても、メモリーの内容が消えることはありません。

ステッチコンビネーションを作る

プログラムと保存

- «飾り縫い»ボタンをタッチします。
- カテゴリーを選びます。
- «コンビモード»アイコンをタッチします。
- 必要なステッチパターンを選択するか、番号を入力します。
- 送り長さ、振り幅、針基線などに変化をつけます。
- 別のステッチを選びます。
- «メモリー»アイコン1をタッチします。



- «保存»アイコン2 をタッチします。

- «保存»アイコン3 をタッチします。
- ► 組合わせが保存されました。
- ► 画面が閉じます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

ステッチパターンの削除

パターンの削除
- «削除»アイコンをタッチします。
- ► カーソルの上のステッチが削除されました。
- «削除»アイコンをタッチして、ステッチ操作域のステッチを全て削除します。

コンビネーションを削除する。
- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーションを編集»アイコンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- ✔で確認します。
- ► ステッチ操作域が空っぽになりました。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- 新しいステッチコンビネーションをプログラムできます。

保存されたコンビネーションステッチを開く

- «メモリー»ボタンをタッチします。
- «開く»アイコン1をタッチします。

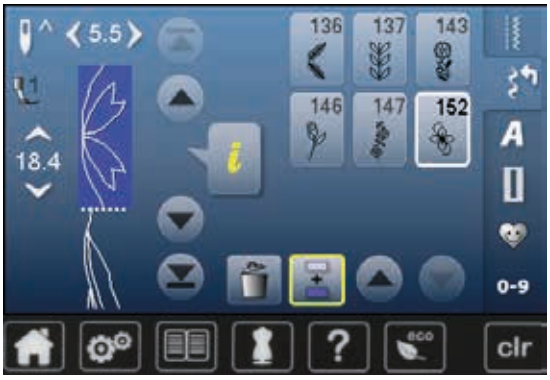
- ► 保存されたコンビネーションステッチが全て表示されます。
- 開きたい引き出しをタッチします。
- ► ステッチ操作域に選んだコンビネーションが表示されます。

コンビネーションステッチを修正する

ステッチパターンを挿入する

- コンビネーションの追加したい場所を選びます。
- 新しいステッチを選びます。
- ► 新しいステッチが選んだステッチの次に挿入されました。

コンビネーションの頭に新しいステッチを挿入する場合は、カーソルをコンビネーションのいちばん最初に移動させます。



ステッチを加工する

- コンビネーションの中でステッチを選びます。
- «i»アイコンをタッチする。
- 機能、例えば、左右模様反転、を選びます。
- ► ステッチパターンが、左右に反転して表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。

修正は常にカーソルの上で行われます。同じ方法で、保存されたコンビネーションステッチも修正可能です。修正した内容を確保するにはコンビネーションを再度保存しなおします。

コンビネーション全体を反転させる

- «i»アイコンをタッチする。
- «コンビネーション全体を編集»アイコンをタッチする。
- «模様反転»アイコンをタッチします。
- ► コンビネーション全体が反転されました。
- «戻る»アイコンを二回タッチします。

コンビネーションの分割 1

- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーションをカーソル位置で編集»アイコンをタッチします。
- «分割コンビネーション 1»アイコンをタッチします。
- «分割 1»機能を使ってコンビネーションをいくつにでも分割できます。
- ► カーソルを当てている箇所のみを縫うことができます。
- 次のセクションを縫うには、カーソルを移動して指定します。

コンビネーションの分割 2

- «i»アイコンをタッチします。
- «コンビネーションをカーソルの位置で編集»アイコンをタッチします。
- «分割2»アイコンをタッチします。
- «分割2»機能を使ってコンビネーションはどの位置ででも分割できます。
- 最初の部分を縫います。
- ► ミシンはプログラムした分割地点に到達したら自動的に止まります。
- 布地を置き換えます。
- 次の部分を縫います。

ステッチパターンコンビネーション

上書き

- 新しいステッチコンビネーションをプログラムします。
- «メモリー»ボタンをタッチします。
- «保存»アイコンをタッチします。
- 上書きしたいメモリーを選びます。ここではメモリー3。
- ✔で確認します。

✕にタッチして、上書き手順をキャンセルします。

削除

- «メモリー»ボタンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- 削除するメモリーを選びます。ここではメモリー5。
- ✔で確認します。

✕をタッチして削除手順をキャンセルします。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

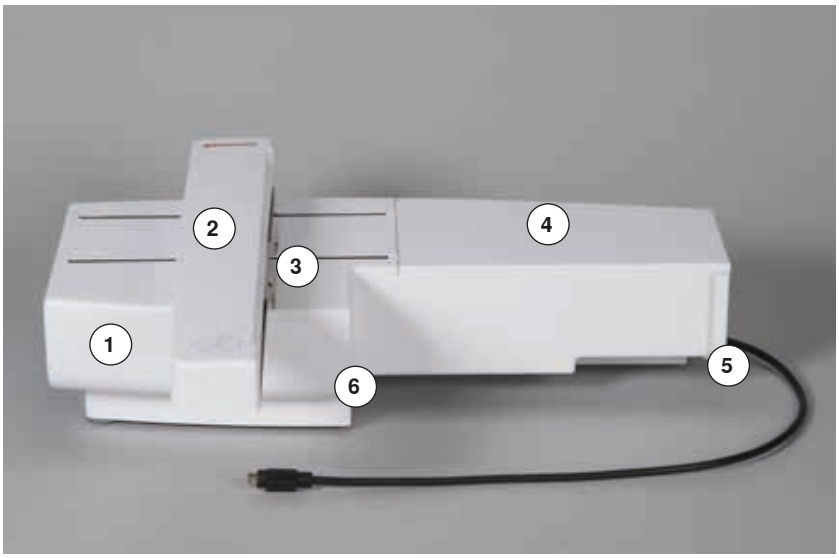
アクセサリー

標準アクセサリー

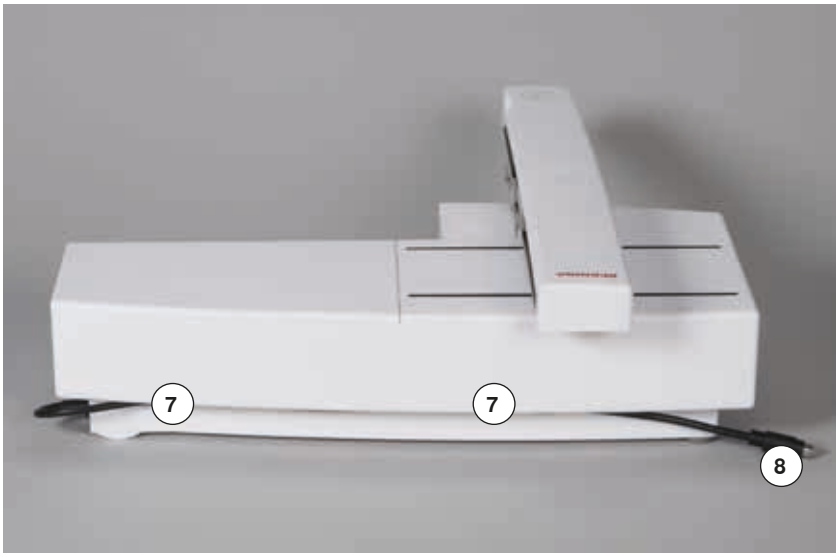
1 糸こま用ネット
2 刺しゅう押え No. 26
3 刺しゅう用針セット
4 刺しゅう枠大型楕円形、145x255 mm
5 刺しゅう枠テンプレート楕円形 VAR 01
6 刺しゅう枠中型、100x130 mm
7 刺しゅう枠テンプレート中型
8 USB接続用コード
9 テンプレートホルダー
10 キャリングバッグ

刺しゅう機

各部詳細



1 アクセサリー収納引き出し
2 刺しゅうアーム
3 刺しゅう枠取り付け用ブラケット
4 刺しゅう機上面
5 接続用右突起
6 接続用中央突起



7 ケーブルホルダー
8 ミシン接続用ケーブル

ケーブル接続用コネクターが写ったミシンの右側外観がこの説明書の15ページに表示されています。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

刺しゅうに関する重要事項

刺しゅう糸

刺しゅうの仕上がりを良くするため、また糸切れを起こさないためにも、高品質の糸は必須です。

上糸には40番のレーヨン、またはポリエステル糸が特に効果的です。カラフルな美しい刺しゅうに必要な幅広い色が揃っています。

ポリエステル糸
ポリエステルの高級な光沢仕上げの糸は色あせがなく、強度もありあらゆる刺しゅうに適した糸です。

レーヨン糸
レーヨンは輝きのある柔らかいビスコース繊維から作られており、繊細な刺しゅうに向いています。洗濯の回数の多いものには向きません。

メタリック糸
メタリック糸は、細いものから中くらいまであり、刺しゅうに特殊効果を持たせるのに適しています。メタリック糸を使用する場合には、スピードを下げて、上糸テンションも緩めます。

刺しゅう針
– 糸と針のサイズを合わせましょう。
– 針は頻繁に新しいものに交換しましょう。

メタリック糸や、特殊な糸には、垂直の糸立て棒を使用し、補助糸ガイド（オプション）を装着してください。糸の流れをスムーズにすることができます。
メタリック糸での刺しゅうには、メタルフィル針130/705H METを使用してください。
上糸のテンションを緩くするか、刺しゅうスピードを遅くします

下糸

ボビンフィル（ボビン専用糸）
ボビンフィルは、特に柔らかく軽い、下糸専用のポリエステル糸です。この特殊な下糸を使うと、糸調子が安定し、上糸ときちんとからむようになります。

ダーニングおよび刺しゅう用糸
光沢性のある細いコットン糸がコットンの布地に刺繍するのには最適です。

ほとんどの場合、刺しゅう用の下糸の色は白か黒です。両面を同じ仕上がりにしたい場合には、上糸と下糸の色を合わせます。

刺しゅうモチーフを選ぶ

薄地にはシンプルでステッチ数の少ないモチーフが適しています。大きくて、密度の濃い刺しゅうモチーフ、例えば多色で他方向に展開するデザイン等は、中から厚地の布地を選びましょう。

試し縫い

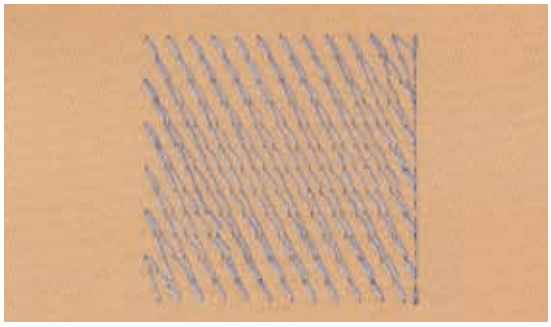
常に同じ条件で試し縫いをしましょう。本番と同じ安定紙を使います。モチーフと布地の組み合わせで、色や、安定紙、針などを必要に応じて使い分けましょう。

モチーフのサイズ変更

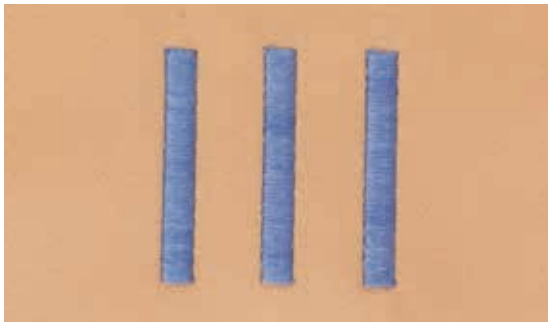
モチーフのサイズは画面上のアイコン操作で変更できますし、またベルニナ刺しゅうソフトを使って変更可能です。拡大、縮小は+±20%以内をお勧めします。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

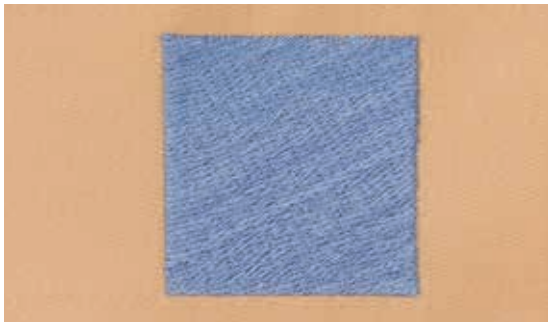
ステッチタイプのいろいろ



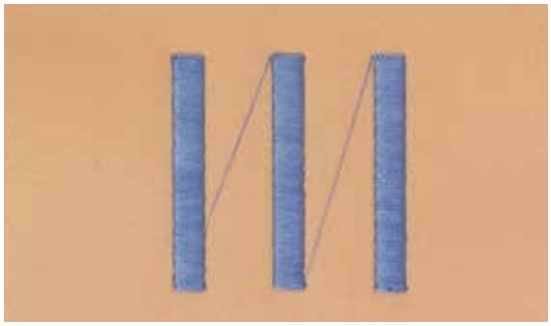
アンダーレイステッチ
アンダーレイステッチは、デザインの基礎となる部分であり、土台布を安定させ、その形を保たせるために使われます。また、ニットなどの土台布に、ステッチが沈み込んでしまうのを防ぐためにも使われます。



サテンステッチ
刺しゅう枠が動いてジグザグステッチを細かい目で繰り返し埋めてゆくタイプのステッチです。糸がデザインをカバーするような感じになります。サテンステッチは、小さく、幅の狭い個所を埋めるのに便利です。大きな部分を埋めるのには、サテンステッチは適していません。振り幅をあまり大きく指定してしまうと、ステッチが広がって、仕上がりに影響します。加えて、ステッチの糸が緩んで、何かに引っかかり、刺しゅうがだめになる危険性もあります。



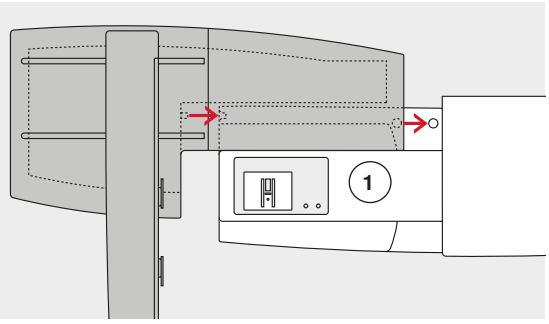
ステップ（たたみ）ステッチ
特定の長さのステッチを繰り返すフィルステッチの一種です。大きな部分を効率よく埋めるのに、使用されます。



ジャンプステッチ
デザインの1箇所の刺しゅうが完了し、次の個所に移動する際に使われる、連結ステッチです。ジャンプステッチの前後には、留め縫いが入ります。ジャンプステッチは、次の場所に移動する前にカットされます。

刺しゅうの準備

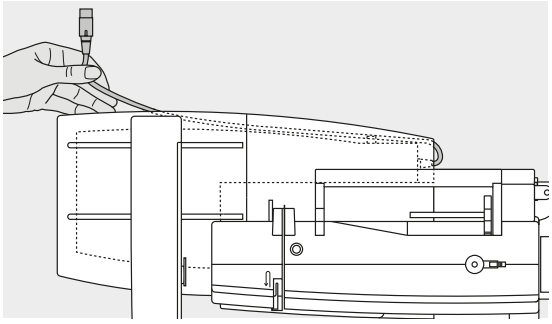
刺しゅう機の取り付け



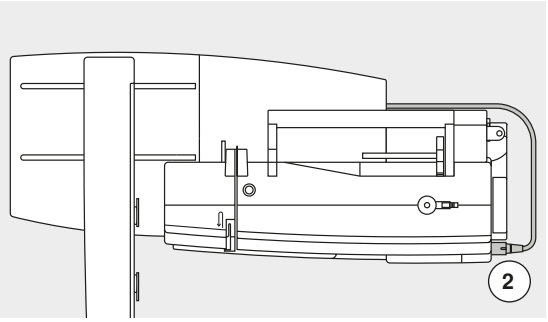
ご注意!
ミシンと刺しゅう機は平らな面に置くようにご注意下さい!
持ち運ぶときは刺しゅう機をミシンから取り離して別々に運んで下さい。

ミシンに刺しゅう機を接続する
- 刺しゅう機をミシンのフリーアーム1の後ろに置きます。
- 刺しゅう機を、左側からミシンに向けて、押しつけるようにすると、ベースプレートのラグがカチリとはまります。

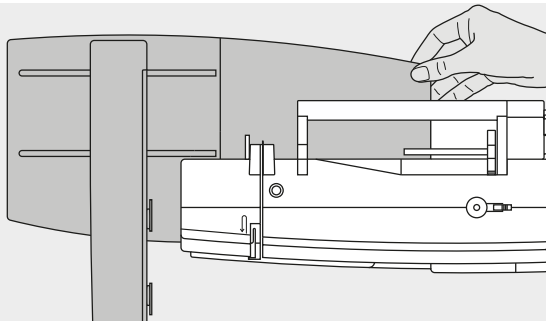
刺しゅう機がミシンにしっかり接続したのを確かめて下さい。



ケーブルを接続する
刺しゅう機とミシンは、コードで接続されています。
- 刺しゅう機背面のホルダーから、コードを引き抜きます。



コードを接続する
- 平らな面を前に向けて、接続します。
- ミシンの右側にあるソケット2に、プラグを挿入します。



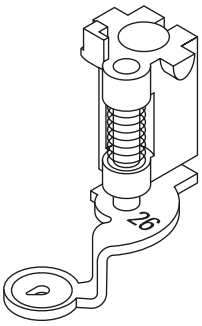
刺しゅう機を取り外す
- ミシンのソケットからプラグを引き抜きます。
- 刺しゅう機の背面の右コーナー部分に、グリップがあります。
- このグリップを持って、刺しゅう機を持ち上げ、左側に向って押しやり、取り外します。

ケーブルを刺しゅう機に収納する
- 刺しゅう機のケーブルホルダーにケーブルを挿入します。
- しっかり押し込みます。

刺しゅう枠のズレの調節
針と刺しゅう枠の相対的な位置関係のズレを調整する必要があります。刺しゅう機に大型楕円形の刺しゅう枠をセットし行います。49ページを参照して下さい。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

刺しゅう押え/刺しゅう針



刺しゅう針
刺しゅう針(130/705 H-SUK)は大きな針穴と僅かに丸い針先を持った刺しゅうに適した針です。レーヨンやコットンなどの糸で擦り切れたりするのを防ぎます。

– SUK針をお勧めします。
– 刺しゅう糸によっては針サイズNo. 70-SUK からNo. 90-SUKをお薦めします。
– 出来るだけ新しい針を使いましょう。

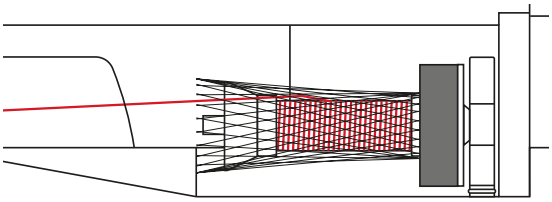
準備
- 刺しゅう押えNo.26を取り付けます。
- 押え金を上げます。
- 針を上げます。

送り歯を下げます。
- «送り歯ドロップ»ボタン1を押し込みます。
► 送り歯が下がります。

直線縫い/カットワーク用針板（オプション）

直線/カットワーク用針板には小さな針穴がついています。小さな針穴が布地を刺しゅう時に保護し、最適なステッチ効果が得られます。
- 標準の針板を取り外します。（28ページ参照）
- 直線／カットワーク用針板を取り付けます。

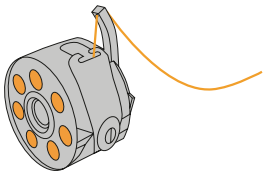
上糸と下糸の糸掛け



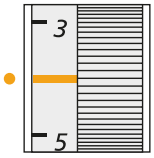
上糸を掛ける

- クッション付糸こまカバーを取り付けます。
- 糸こまをセットします。
- レーヨンや滑りのよい糸などでは、付属品の糸こまネットを被せてください。
- ► 糸の流れがスムーズになります。

糸こまホルダー
メタリック糸や、特殊な糸には、垂直の糸立て棒を使用し、補助糸ガイド（オプション）を装着してください。



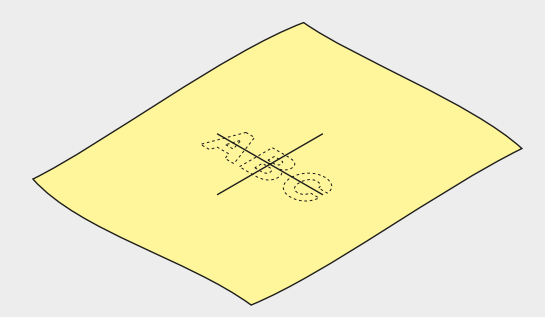
下糸を通す
刺しゅうをする際には、角に下糸を通します。



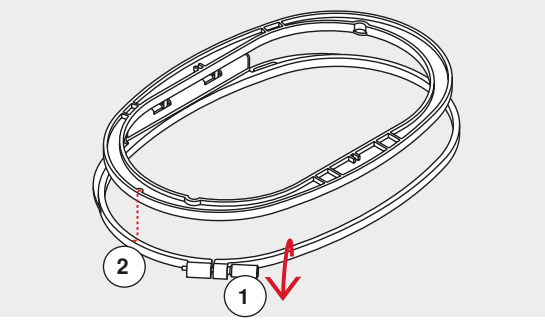
糸調子を設定／変更する
糸調子は全ての刺しゅう域において、2.5～4.5の間で設定します。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

刺しゅう枠



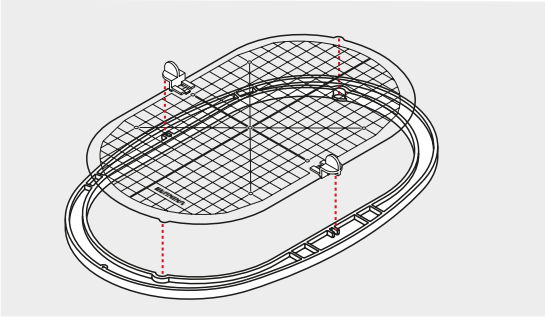
中心を決める
- 刺しゅうする布地の中心を決めます。
- マーカーかチャコで布地に印をつけます。



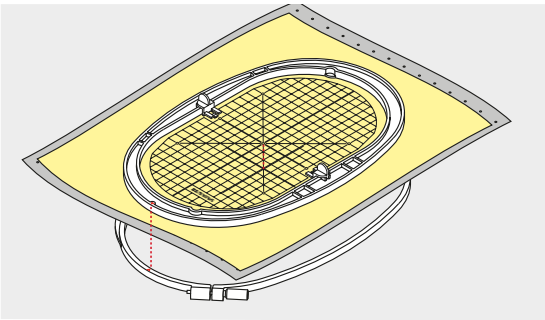
刺しゅう枠を使う
- 刺しゅう枠の外枠のネジ1を緩めます。
- 内側の刺しゅう枠を取り外します。

両側の刺しゅう枠のマーキング 2を揃えます。

矢印マーク;
– 中型刺しゅう枠では中央手前
– メガフープ(オプション)では中央手前
– 小型刺しゅう枠(オプション)では右側中央



刺しゅう枠用テンプレート
– 刺しゅう枠にはそれぞれ専用のテンプレートが付いています。
– 刺しゅう可能な範囲には、1センチ角の格子が描かれています。
– 中心点および角部分には、穴が開いています。
- ここを通して布地に印つけができます。
- テンプレートホルダーを取り付けます。
- テンプレートを内側の刺しゅう枠にセットします。BERNINAのロゴが刺しゅう枠手前端の矢印の横に来て、ふつうに読める状態であることを確認して下さい。
► テンプレートは、自動的に内側の枠に固定されます。

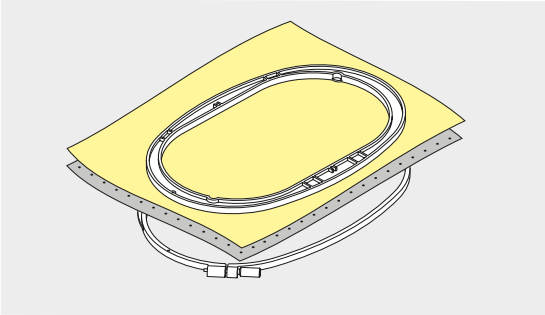


布を刺しゅう枠にセットする
- 内枠の上に布地を置きます。
- 布地にマークした中心点と、テンプレートの中心点を合わせます。
- 内側の枠と布地を外枠の上に被せて置きます。

内側と外側の枠の矢印を合わせます。
- 内側の枠を布の上に押しつけて、はめ込みます。その際、ネジをゆるめて、布地がゆがまない様に気をつけましょう。
- 布地をドラムのようにパンパンに貼り付けます。
- セットできたら、ネジをしめます。
- テンプレートを取り外す際には、取りつけクリップを持って外します。

安定紙

安定紙



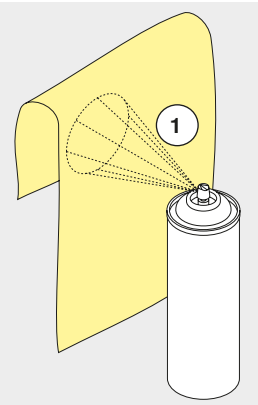
破り取れる安定紙（ティアウエイ）
- 余分な部分を紙のように破れるものです。
- 1枚、または二重、三重にして複数枚を同時に使用できます。
- さまざまな厚みのものがあります。
- しっかりと安定させたい場合には、布の裏側に、スプレー糊で接着してから、刺しゅう枠にセットするとよいでしょう。
- ステッチが完成したら、周りにはみ出た余分を破り取ります。
- モチーフがゆがんだりしません。
- 刺しゅうモチーフの裏側には、安定紙が残ります。

用途：
全ての織地および伸縮性のない布地に最適です。

切り取る安定紙（カット・アウエイ）
- 1枚、または複数枚を同時に使用できます。
- 薄手、および厚手のものがあります。
- しっかりと安定させたい場合には、布の裏側に、スプレー糊で接着してから、刺しゅう枠にセットするとよいでしょう。
- ステッチが完成したら、余分を切り取ります。
- モチーフがゆがみません。
- 大きめの刺しゅうモチーフの裏側には、安定紙が残ります。

用途：
伸縮性のある布地、特にニットに最適です。

スプレー糊



刺しゅう機の横でスプレーするのは避けて下さい。
- 距離1：25-30 cm離れてスプレーします。
- 注意してスプレーしましょう。
- 安定紙や布地の裏側に軽くスプレーし、布ずれやしわを防ぎます。

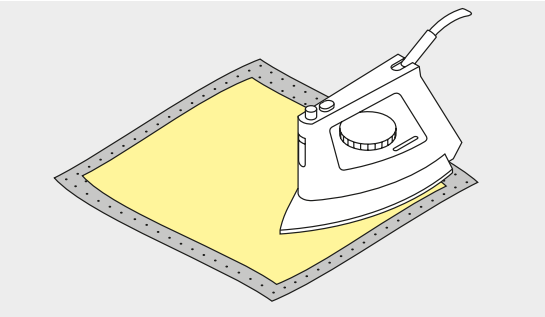
用途:
- 伸縮性のある布地およびニット地に。布地の形を保つことができます。
- 滑りやすい布地が刺しゅう枠から滑って外れるのを防ぎます。
- アップリケなど、位置決めが重要な刺しゅうに。
- 小さな布地、例えばポケットのカバーなど、を安定紙に固定するために。
- ベルベットのような起毛した素材などは、刺しゅう枠の跡が素材を傷つけたりするので、刺しゅう枠は使わず、スプレー糊で安定紙を貼り付けます。
- 刺しゅうしたい箇所に部分的に貼り付けて刺しゅうします。

スプレー洗濯のり・布地の補強用
スプレー糊は、薄手の柔らかい布地、または目の粗い布地をしっかりさせるのに最適です。
- 刺しゅうしたい部分全体にスプレーします。
- 乾くまで置いておくか、低温のアイロンで優しくドライします。

水溶性安定紙等を、布地の裏側に使用します。

用途:
薄手で、目の粗い布地に最適です。バティストや薄手の麻等。

アイロン接着芯



さまざまな厚さのものがありますので、使う布地に適したものを選んでください。簡単にはがせるものを使うようにしましょう。
- 布地の裏側にアイロンで接着します。

用途:
トリコット、ジャージーなどの伸縮性のある布地や、刺しゅうする際に歪みやすい布地に。

のり付き安定紙
- 安定紙を、裏側を上にして刺しゅう枠にセットします。
- はさみのような先の尖ったものを使い、紙に引っかき傷をつけます。
- 紙をはがします。
- ► のりの付いた面が出てきました。
- 布をその上に固定して、刺しゅうします。

用途:
– ジャージーやシルクのような、繊細な布地等に。
– ベルベットやパイル地、皮のように、刺しゅう枠にセットするのが難しい布地に使います。

針や針板、釜などに付着したのりは使用後きれいにふき取ってください。

水溶性安定紙
水溶性安定紙は、食品ラップのような外見です。刺しゅうが完成したら、ぬるま湯につけて溶かします。タオルのような、毛足の長い布地を使用する際には、最適の保護材です。これによって、繊維が布目に沈み込んでしまって、ステッチの合間から土台布が見えてしまうのを防ぎます。
- 布地の上に被せておきます。
- 刺しゅう枠に一緒にセットすることもあります。
- 必要ならば、スプレー糊で固定します。
- パイル地、タオル等には裏側から安定紙で補強、水溶性安定紙を上にかぶせます。
- 水溶性安定紙を溶かした後には、デザインは平らな場所において、乾かします。

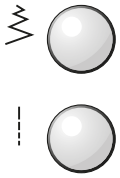
用途:
– タオル、ベルベット、ブークレーニット等に最適。
– 繊細で薄手の布地(オーガンジー、バティスト等)
– レース刺しゅうに。

レース刺しゅうには不織布の水溶性安定紙が最適です。レース刺しゅうでは、土台布が無く、安定紙の上にステッチするので、薄い水溶性安定紙なら二重、三重にして刺しゅう枠に張り付けて刺しゅうします。刺しゅうモチーフのステッチは小さなステッチで構成されていなければ、安定紙を溶かしたあとは、モチーフがばらばらになってしまうからです。

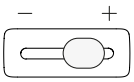
各種機能

«機能»ボタンの一覧

«スタート/ストップ»ボタン
«スタート/ストップ»ボタンを押して刺しゅうをスタート、ストップさせます。



振り幅、送り長さ調節ダイヤル
これらのダイヤルは刺しゅうでは異なる機能、例えば、モチーフのサイズ変更、回転、等に使われます。指示されたダイヤルを使って操作します。



スピードコントロール
スラードスピードコントロールを使ってスピードを調節します。

画面の一覧

刺しゅうモードに切り替える

- «ホーム»ボタンを押します。

刺しゅうモード
- «刺しゅうモード»アイコン2をタッチします。
- ► «刺しゅう»画面が表示されます。

ソーイングモード
- «ソーイングモード»アイコン1をタッチします。
- ► «ソーイング»画面が表示されます。

刺しゅう機アイコン
刺しゅう機に内蔵された刺しゅうモチーフを、«文字»、«モチーフ»、または«マイデザイン»フォルダーから選ぶためのアイコンです。

USBメモリー(オプション)
USBメモリー(オプション)に保存された刺しゅうモチーフのフォルダーです。

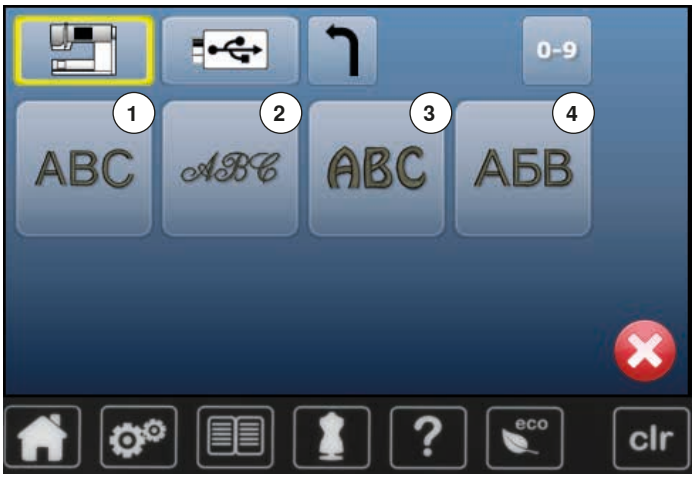
文字フォルダー
内蔵の文字フォルダーです。

刺しゅうモチーフフォルダー
内蔵の刺しゅうモチーフのフォルダーです。

マイデザインフォルダー
ユーザーの刺しゅうモチーフを保存するフォルダーです。

文字の刺しゅう

- «文字»アイコンをタッチします。



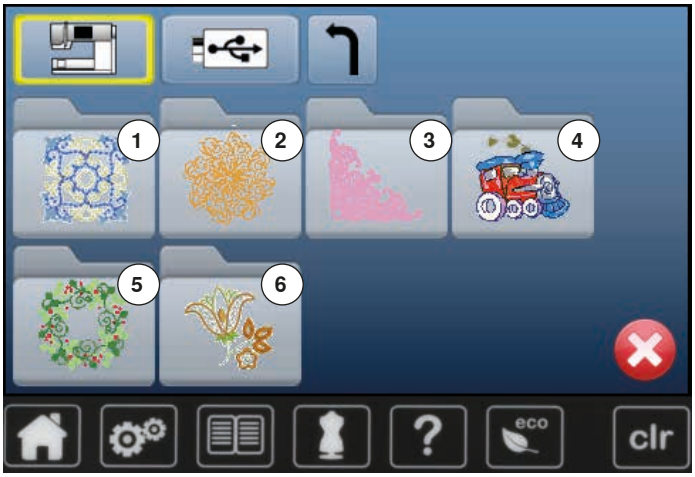
- 文字書体を選びます。

1 Swiss Block
2 Anniversary
3 Drifter
4 Russian Textbook

メインメニューに戻る
«刺しゅう»画面に戻る。

ベルニナ 刺しゅうモチーフ

- «刺しゅうモチーフ»アイコンにタッチします。



- 好みの刺しゅうデザインフォルダーを選びます。

1 飾りモチーフ
2 キルティング
3 レース
4 子供用モチーフ
5 季節のモチーフ
6 花柄

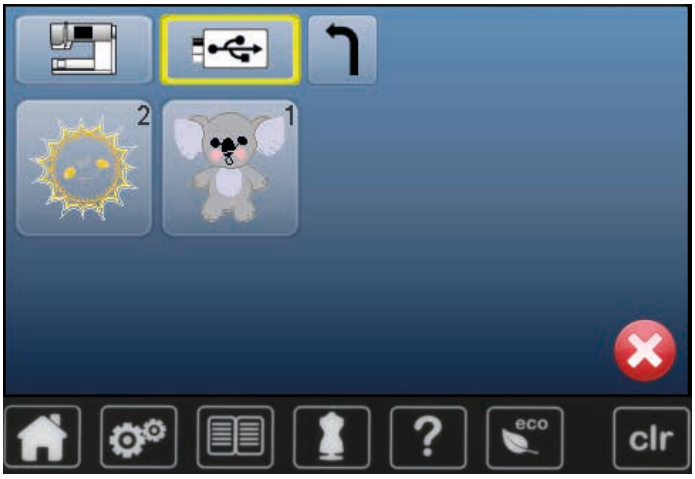
マイデザイン

- «マイデザイン»アイコンにタッチします。

- 刺しゅうモチーフを選びます。

USBメモリー(オプション) に保存された刺しゅうモチーフ

- USBメモリーを差し込みます。
- «USBメモリー»アイコンをタッチします。



- 刺しゅうモチーフを選びます。

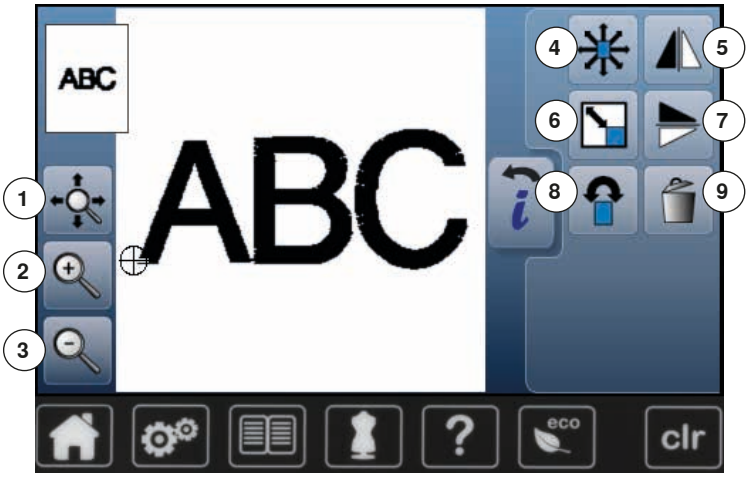
«編集»画面

1 モチーフの選択
2 編集
3 色番号
4 刺しゅう操作メニュー

«編集»画面一覧

- 文字モチーフを選びます。
- «i»アイコンをタッチします。

つまみ操作が必要な機能では、つまみが表示されます。



機能

1 刺しゅう枠内でのモチーフの移動
2 ズームアップ
3 ズームアウト
4 モチーフの移動
5 左右反転
6 モチーフの比率を維持して拡大、縮小
7 上下反転
8 モチーフの回転
9 モチーフの削除

機能の説明

インフォメーション
- ボタンを押します。
- ► 別の画面が表示されます。

戻る
- ボタンを押します。
- ► 前の画面に戻ります。
- ► 編集内容が確定されました。

確認チェック
- ボタンを押します。

編集/選択機能がオンになりました。

画面を閉じる
- ボタンを押します。
- ► 画面が閉じました。
- ► 前の画面が表示されます。

刺しゅう枠内でのモチーフの移動
画面上のモチーフを指先でタッチしてモチーフを刺しゅう枠内で自在に移動できます。

ズームアップ
- アイコンを1～5回タッチします。
- ► タッチする毎にモチーフが拡大表示されます。

ズームアウト
- アイコン1～5回タッチします。
- ► 拡大表示されたモチーフが一段階ずつ縮小されて表示されます。

モチーフの移動
画面では1/10 mm単位で移動します。
- 振り幅調節つまみを回します。
- ► モチーフが水平方向に移動します。
- 送り長さ調節つまみを回します。
- ► モチーフが垂直方向に移動します。
- 振り幅調節つまみと送り長さ調節つまみを回します。
- ► モチーフが斜め方向に移動します。(両方のアイコンに移動距離が表示されます)

画面を指先でタッチしてモチーフを自在に移動できます。

左右反転
モチーフが左右に反転されます。

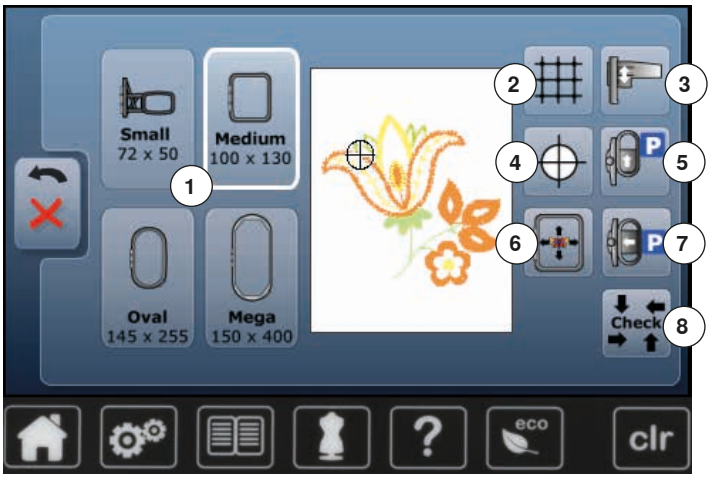
プロポーションを維持してモチーフの拡大、縮小
拡大率、縮小率が画面に%で表示されます。
- 振り幅調節つまみを右に回します。
- ► モチーフサイズが拡大されます。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
- ► モチーフサイズが縮小されます。

上下反転
モチーフが上下に反転されました。

モチーフの回転
回転角度(°)の表示画面
- 振り幅調節つまみを右に回します。
- ► モチーフが右に回転します。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
- ► モチーフが左に回転します。
- «+90»アイコンを1～4回タッチします。
- ► モチーフがタッチ毎に右に90°単位で回転します。
  (0°, 90°, 180°, 270°, 360°)

モチーフの削除
画面上で開いているモチーフを削除します。

- «刺しゅう枠»アイコンにタッチします。



各種機能

1 フープの選択メニュー
2 格子ガイド
3 刺しゅう枠のズレの調節
4 モチーフの中心
5 刺しゅう枠を後方に移動
6 刺しゅう枠ポジション
7 刺しゅう機の待機位置
8 刺しゅう枠とモチーフのサイズのチェック

刺しゅう枠の選択メニュー

► モチーフに最適なサイズの刺しゅう枠を選べます。
- ボタンを押します。
► 刺しゅう枠の選択と各種機能が画面に表示されます。

格子ガイド

モチーフのレイアウト用に目盛りが表示されます。

刺しゅう機の調整

- アイコンをタッチします。
► 刺しゅう機が調整されます。(最初の位置に戻る)

刺しゅう枠は必ず取り外してください。

モチーフの中心

モチーフの正確な中心が十字カーソルで表示されます。
バーチャルポジショニング機能がオンのときに、針が正確にモチーフの中心に来る位置に刺しゅう枠が移動します。

刺しゅう枠を後方に移動

► 刺しゅう枠が後方に移動します。

下糸の交換に便利。

バーチャルポジショニング（仮想位置合わせ）
アイコンがオフ = モチーフを移動しても刺しゅう枠は動きません。

- アイコンを押します。

モチーフを移動させると、刺しゅう枠が呼応して移動します。この機能は刺しゅう枠が取り付けられている時だけ機能します。

刺しゅう機の待機位置
- 刺しゅう枠を取り外します。
- ► 刺しゅうアームは左側に水平に移動して待機位置で停止します。
- ソーイングモードに切り替わります。

刺しゅう機を取り外さずにソーイングが可能です。

刺しゅう枠とモチーフのサイズの確認
- ► サイズを確認するために、刺しゅう枠が縦方向（前後）に動きます。
- ► モチーフが4つの矢印で囲まれ、サイズが読み込まれます。
- «戻る»アイコンを2回押します。
- ► «編集»画面が開きます。
- ► «刺しゅう枠選択»画面に、取り付けられた刺しゅう枠が表示されます。
- ► 刺しゅう枠が取り付けられていない場合、または小さすぎる刺しゅう枠が取り付けられている場合には、エラー表示がされます。

刺しゅう操作メニューの一覧

- «刺しゅう操作メニュー»ボタンを押します。

つまみ操作が必要な機能では、つまみが表示されます。

機能

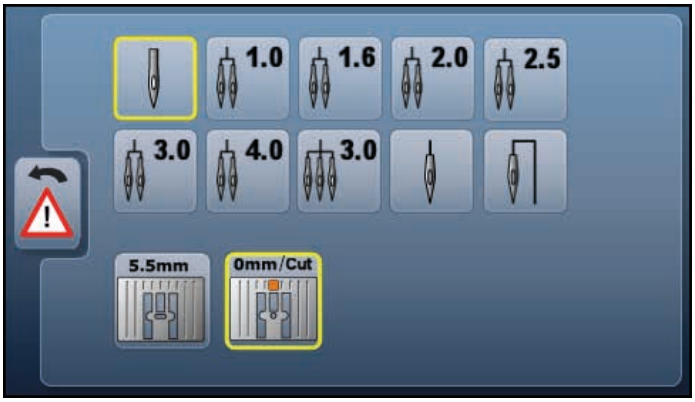
1 押え金表示
2 セキュリティプログラム
3 カラー情報
4 モチーフの選択
5 糸切れ
6 編集
7 色番号
8 塗りつぶし機能
9 «スタート/ストップ»ボタン

押え金表示
刺しゅう押えNo. 26 が標準押えとして表示されます。

- ボタンを押します。
- ► 他に使える押え金、例えば、フリーモーション押えNo. 43も表示され選べます。
- 作業に必要な押え金を取り付け、その押え金のアイコンをタッチします。

セキュリティプログラム

- ボタンを押します。



- 使う«針»と、または«針板»アイコンをタッチします。
- ► «セキュリティ»アイコンが黄色の枠で囲まれている時は、正しい針または針板が選択／取り付けされていません。

カラー情報
現在の色情報

- 左右の矢印アイコンをタッチします。
- ► 色の表示が変わりました。
- ► 表示された色の場所に刺しゅう枠が移動します。

表示されている色、または順番を変えて刺しゅうできます。

モチーフの選択
- 新しいモチーフを選ぶ
- モチーフの保存
- モチーフの削除

糸切れ
左側の画面にモチーフ全体が、右側には拡大されたモチーフが表示されます。

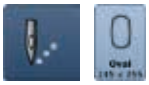
編集
この画面でモチーフを編集できます。

色番号
モチーフの色数を表示
- ボタンを押します。
- ► 選んだモチーフのカラー情報の画面が表示されます。

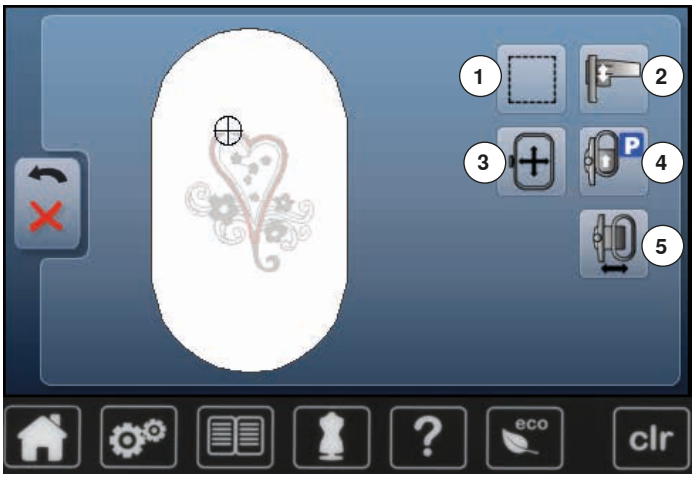
塗りつぶし機能
アイコンがオンの時、色替えなく、最初から終わりまで一色で刺しゅうします。
アイコンがオフの時、色順に刺しゅうをします。

刺しゅう操作メニュー/スタート/ストップ
表示が点滅して表示されます：
- ► «刺しゅう»画面が表示されます。
- ► 刺しゅうをする準備が出来ました。

«スタート/ストップ»ボタンを押して刺しゅうを始めます。



- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- «刺しゅう枠のサイズ»アイコンを押します。



つまみ操作が必要な機能では、つまみが表示されます。

機能

1 しつけ縫い
2 刺しゅう機の調整
3 つまみを使用して刺しゅう枠を移動する
4 刺しゅう枠を後方に移動
5 刺しゅう枠の移動

しつけ縫い

- アイコンを押します。
- ► モチーフの周りを四角形でしつけ縫いします。
- アイコンをもう一度タッチします。表示が変わります。
- ► 刺しゅう枠に沿ってしつけ縫いします。
- アイコンをもう一度タッチします。
- ► しつけ機能がオフになりました。

新しいモチーフに移ってもオンにした機能は有効です。

刺しゅう機の調整

- アイコンをタッチします。
- ► 刺しゅう機が調整されます。(最初の位置に戻る)

刺しゅう枠は必ず取り外してください。

刺しゅう枠の移動

刺しゅう枠に収まらない大きなモチーフ(例えば、文字列やボーダー刺しゅうなど)を刺しゅうする時、布を刺しゅう枠にセットし直さなければなりません。この時、振り幅、送り長さ調節つまみを使って先に刺しゅうしたリファレンスポイント(位置合わせマーク)に針の位置を正確に合わせます。

- ► 移動作業がアイコンに表示されます。

刺しゅう枠を後方に移動

- ► 刺しゅう枠は後方に移動します。

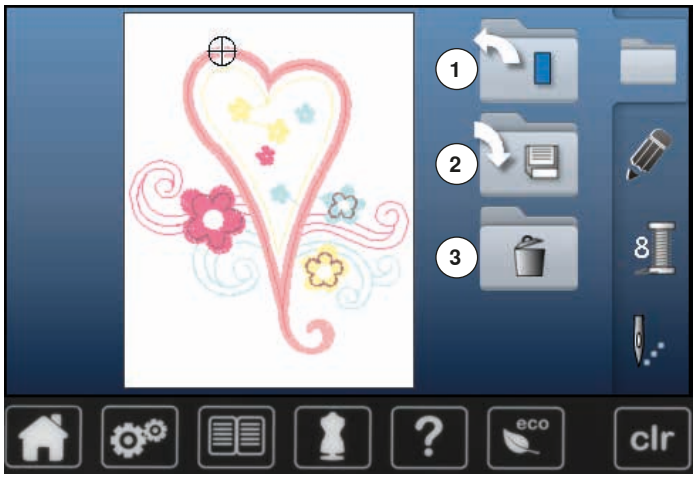
ボビンの着脱、下糸の交換がし易くなります。

刺しゅう枠の移動

- ► 刺しゅう枠が水平移動して中央に戻ります。上糸通しに便利です。
- ✕ をタッチします。
- «スタート/ストップ»ボタンを押すと、
- ► 刺しゅう枠は元の位置に戻り、刺しゅうを続けます。

選択メニュー画面

- «モチーフの選択»ボタンを押します。



機能

1 新しいモチーフ
2 モチーフの保存
3 モチーフの削除

新しいモチーフ

► 前の画面の一覧が表示されます。(文字、モチーフ、マイデザイン)

- モチーフを選びます。

モチーフの保存

► «保存»画面が表示されます。

モチーフの削除

► «削除»画面が表示されます。

カラー画面

- «色番号»ボタンを押します。

糸のブランドを変える

► 画面に他社糸メーカーのブランドが表示されます。

刺しゅうモチーフ

刺しゅうモチーフを選ぶ

«文字» «モチーフ»または«マイデザイン»フォルダーからいろんなモチーフを選べます。

文字

書体を選びます

- «文字»アイコンをタッチします。
- ► 画面に幾つかの文字書体が表示されます。
- 縫いたい«文字書体»アイコンをタッチします。

文字列の入力と修正

► キーボードが表示されます。
► «ABC»アイコン（大文字)が自動的にオンになります。
- 文字列を入力します。

スペースキーはキーボードの下に表示されています。

► 文字列入力欄1に文字が表示されます。
- ✔で確認します。

文字を削除する

- 文字列入力欄1 をタッチします。
► 入力された全ての文字列が削除されます。

修正

- アイコン2をタッチします。
► 入力した文字列が右端から一文字ずつ削除されます。

3 «ABC»大文字（標準）
4 «abc» 小文字
5 «Ä À Á», «ä à á» «@#» 特殊文字
6 «1、2、3» 数字と算術記号

刺しゅう枠に全ての文字列が一列に入りきらない場合は，刺しゅう枠を90°回転させてみてください。長い文字列にはこのような方法を使います。
この方法では解決しない場合は、文字のサイズを小さくするか、文字数を減らしてください。

ベルニナオリジナルモチーフ

すべてのベルニナ刺しゅうモチーフはそのままで刺しゅうするか、またはいろんな機能を使って編集して刺しゅうできます。

- «刺しゅうモチーフフォルダー»アイコンをタッチします。

モチーフの一覧
モチーフはテーマ毎のフォルダーに保存されて表示されます。
- フォルダーを選びます。
- モチーフのフォルダーをタッチします。

マイデザインフォルダー

すべてのベルニナ刺しゅうモチーフはそのままで刺しゅうするか、またはいろんな機能を使って編集して刺しゅうできます。

- «マイデザインフォルダー»アイコンをタッチします。

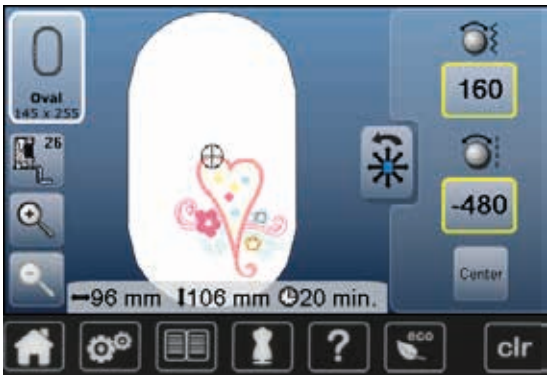
モチーフの一覧
- モチーフのアイコンをタッチするか、«0-9»アイコンで選びます。

モチーフと機能を組合わせる

各種機能を使うには、アイコンをタッチしてから、振り幅または送り長さ調節つまみを使って変更します。

モチーフの移動

- «i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの移動»アイコンをタッチします。



- 振り幅調節つまみを回します。
  - モチーフが水平方向に動きます。
- 送り長さ調節つまみを回します。
  - モチーフが垂直方向に移動します。
  - 移動距離はアイコンに1/10 mm単位で表示されます。
- 振り幅調節つまみと送り長さ調節つまみを回します。
  - 両方のつまみを使えば、モチーフを斜め方向に移動できます。
- 黄色枠のアイコンをタッチ、または«中心»アイコンをタッチします。
  - モチーフが刺しゅう枠の中心にレイアウトされました。

プロポーションを維持して拡大、縮小

- «i»アイコンをタッチッします。
- «拡大または縮小»アイコンをタッチします。

- 振り幅調節つまみを右に回します。
  - モチーフが拡大されます。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
  - モチーフが縮小されます。
  - サイズはアイコンに (%)で表示されます。
- 黄色枠のアイコンをタッチします。
  - モチーフのサイズが元に戻ります。

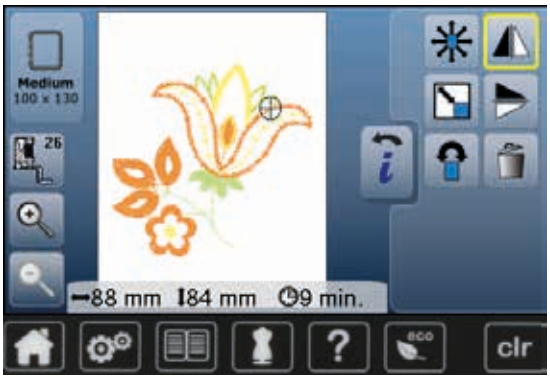
モチーフの回転

- «i»アイコンをタッチします。
- «モチーフの回転»アイコンをタッチします。

- 振り幅調節つまみを右に回します。
  - モチーフが右に回転します。
- 振り幅調節つまみを左に回します。
  - モチーフが左に回転します。
  - 回転の度合いアイコンに角度 (°)で表示されます。
- 黄色枠のアイコンをタッチします。
  - モチーフが元の位置 (0°/360°)に戻ります。
- «+90»アイコンを1～4回タッチします。
  - モチーフが90°単位で回転します。(0°, 90°, 180°, 270°, 360°)

モチーフの反転

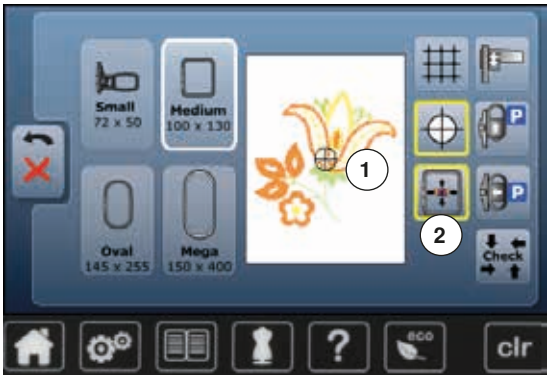
- «i»アイコンをタッチします。



- «左右反転»アイコンをタッチします。
- ► モチーフが左右に反転されます。
- «上下反転»アイコンをタッチします。
- ► モチーフが上下に反転します。

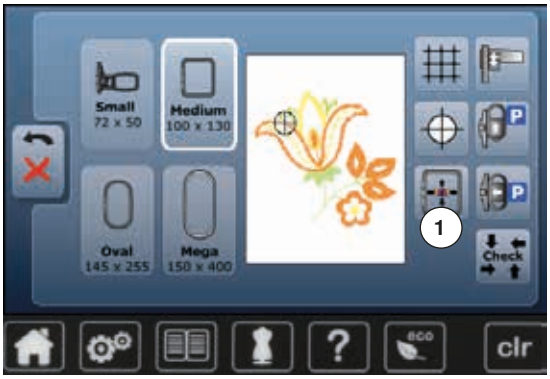
モチーフの中心

- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
- «モチーフの中心»アイコンをタッチします。



- ► モチーフの中心1 が画面に表示されます。
- ► «バーチャルポジション»2機能がオンになっていると、刺しゅう枠が移動して、モチーフの中心に針が移動します。
- アイコンをもう一度タッチします。
- ► モチーフの最初の一針が再び画面に表示されます。

刺しゅうの位置合わせ



«編集»画面では、刺しゅうモチーフの一部分を選択したい場合、先の丸まったタッチペンなどで直接タッチして選択できます。

- モチーフを選択し、編集する。
- モチーフに合った刺しゅう枠を取り付けます。

刺しゅうの位置合わせをするには«モチーフの中心»アイコン機能をオフにします。

- タッチペンで刺しゅうモチーフを刺しゅう枠の中で移動します。
- モチーフの適当な位置をタッチペンでタッチします。
- ► カーソル（針の位置に相当）がタッチした場所に移動します。
- ► «刺しゅう枠ポジション» 1アイコンがアクティブ（黄色枠）ならば、刺しゅう枠は針が指している場所に移動します。

> 糸が切れたら、画面上で糸の切れた付近をタッチペンでタッチします。刺しゅう枠が移動します。

刺しゅうモチーフのサイズを確認する

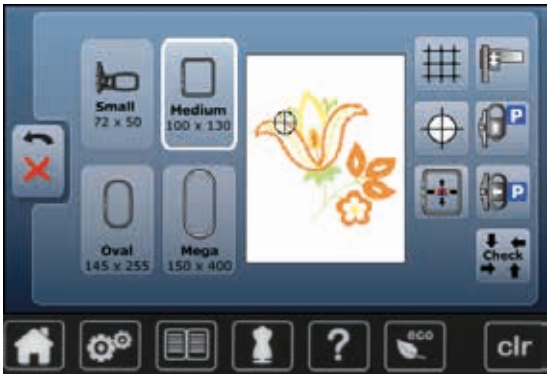
- «刺しゅう枠»アイコンをタッチします。
- «サイズ確認»アイコンをタッチします。
- ► 刺しゅう枠のサイズが読み込まれます。=刺しゅう枠が動きます。

刺しゅうモチーフのサイズ確認機能は、4つのステップで行われます。

- 刺しゅうモチーフが収まるように、4つの角を矢印キーで選択します。
- «モチーフの中心»アイコンをタッチします。
- ► モチーフの中心が表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じます。
- ► 刺しゅう枠が取り付けられていない場合、または刺しゅう枠が小さすぎる場合には、エラー表示がされます。

刺しゅう枠の選択

- «刺しゅう枠を選択»アイコンをタッチします。



最高の結果を得るには、モチーフのサイズに対してできる限り小さな刺しゅう枠を使うことです。

- 刺しゅう枠を選びます。
- ► 選んだ刺しゅう枠が白枠で表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じます。
- ► 選んだ刺しゅう枠にモチーフが表示されます。

ズーム

- «i»アイコンをタッチします。
- «ズームアップ»アイコンを1～5回タッチします。

► モチーフがその都度大きく拡大されて表示されます。

- «ズームアウト»アイコンを1～5回タッチします。

► 拡大表示されたモチーフがその都度縮小されます。

モチーフの移動

- «移動»アイコンをタッチします。

アイコンが停止状態：
- 画面を指でタッチしてモチーフの位置を刺しゅう枠の**中で**移動できます。

アイコンがアクティブ（黄色枠表示）：
- 画面上のモチーフの位置を指でタッチして移動することができます。

► 刺しゅうの位置は変わりません。

モチーフのサイズとし刺しゅう時間

- «i»アイコンをタッチします。

モチーフの横と縦のサイズがmmで表示されています。刺しゅう時間は分で表示されます。

モチーフの色

モチーフの色を変える

- 画面上の«色数»アイコンをタッチします。
- 矢印アイコンでスクロールして、変えたい色が出るまでまでスクロールします。
- 変えたい色を選びます。(ここでは 1)

- «糸の色»アイコンをタッチします。
- 矢印アイコンでスクロールして、新しく変える色を探します。
- 色を選ぶ、または。
- «0-9»アイコンをタッチします。
- 色番号をキーボードから入力します。
- 白いXをタッチして0-9画面を閉じ、色を確定します。
- 色のアイコンを選びます。
- ► 新しい色に入れ替わりました。
- ► 入れ替わった色が表示されます。

糸のブランドを入れ替える

- «糸の色»アイコンをタッチします。
- 矢印アイコンで左右にスクロールして、替えたい糸のブランドを表示します。
- «糸のブランド»アイコンをタッチします。
- ► 画面の糸のブランドが変更され、そのブランドの糸の詳細が表示されます。
- «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 入れ替わった糸ブランドの詳細が表示されます。

> モチーフに標準と異なる糸のブランドを適用できます。
> - 替えたい糸のブランドにスクロールします。
> - アイコンにはタッチしません。
> - 変える色にスクロールします。
> - アイコンをタッチします。

単色で刺しゅうする

- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- «塗りつぶし»アイコンをタッチします。
- ► 塗りつぶし機能がアクティブになりました。
- ► 刺しゅう機は、途中で止まることなく一色で刺しゅうを仕上げます。

しつけ縫い

- «刺しゅうメニュー»ボタンを押します。
- «刺しゅう枠の選択»アイコンをタッチします。
- «しつけ縫い»アイコンをタッチします。

刺しゅうを縫う範囲を四角形の直線縫いでしつけ縫いされます。
布地と安定紙を縫い合わせて、刺しゅう中の布地を安定させるしつけ縫いの役割を果たします。

- «しつけ縫い»アイコンをもう一度タッチします。
- ► しつけ縫いの形状が変わります。

しつけ縫いが刺しゅう枠の内側に沿って縫われます。

しつけ縫いをオフにする

- アイコンを再度タッチします。
- ► しつけ縫いがオフになりました。

新しいモチーフの刺しゅうに移ってもこの機能は継続されます。

モチーフの保存

ミシンに内蔵されたモチーフ、USBメモリーまたは刺しゅうソフトウェアで作られたモチーフなどを編集して保存することができます。
刺しゅうモチーフはミシンのメモリー、またはUSBメモリーのいずれにも保存することができます。

サイズなどが変更されたモチーフが保存されると、それはまったく新しいモチーフとして見做されます。この新しいモチーフが100%の大きさとなり、編集されたモチーフはまったく新しいモチーフとなります。

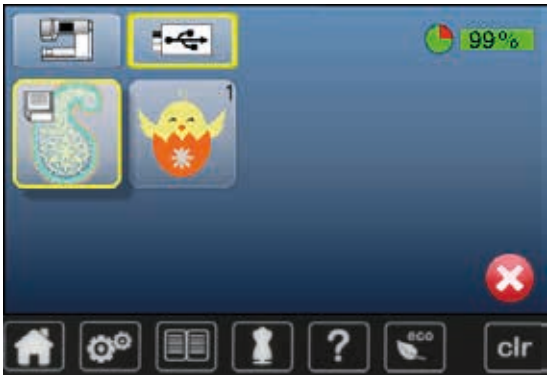
刺しゅうメモリー

- モチーフを選びます。
- 好きなように編集します。

- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «保存»アイコン1をタッチします。

保存されるモチーフは黄色枠に表示されます。
- ► «刺しゅう機»アイコンがオンになりました。
- ► «マイデザイン»フォルダーが自動的に開きます。
- ► ミシンの中のメモリーの空き容量は緑枠に%で表示されています。
- 保存したいモチーフを選びます。
- ► 刺しゅうモチーフが、«マイデザイン»フォルダーに数字の順番に保存されます。
- ► «編集»画面が再び表示されます。

メモリースティック



保存するモチーフが黄色枠で表示されます。

- USBメモリーを差し込みます。
- «USBメモリー»アイコンをタッチします。
- ► ミシンの中のメモリーの空き容量は緑枠に%で表示されています。
- 保存したいモチーフを選びます。
- ► スティックにモチーフが保存されました。

オプションの空のUSBメモリースティックはベルニナ取扱店でお買い求めいただけます。
他メーカーのUSBメモリーは、特に大容量のものでは対応しないものがありますので、ご注意ください。

モチーフの上書き

メモリーやメモリースティックに保存されたモチーフに上書きする

- モチーフを選びます。

- ベルニナUSBメモリーを差し込みます。
- «モチーフの選択»ボタンを押します。
- «保存»アイコンをタッチします。

保存するモチーフが黄色枠で表示されます。

- «刺しゅう機»アイコン、または«USBメモリー»アイコンをタッチします。
- 上書きするモチーフを選びます。

- ✔で確認します。
- ► モチーフが選んだ場所に上書きされました。

保存した単体のモチーフを削除する

- スティックを差し込みます。
- «USBメモリー»アイコンをタッチします。
- «刺しゅう機»アイコンをタッチ、
- «マイデザイン»アイコンをタッチします。

- «削除»アイコン1 をタッチします。

- 削除したいモチーフを選びます。

- ✔で確認します。
- ► これでモチーフを削除しました。

削除をキャンセルする

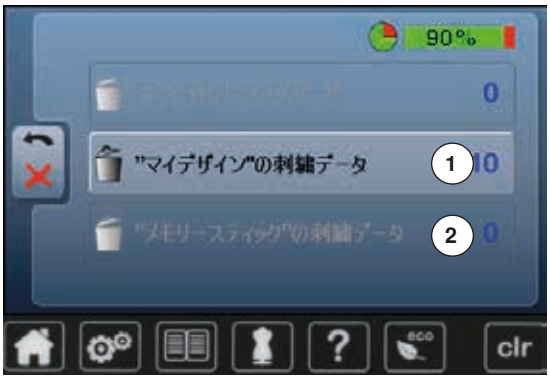
- ✕ をタッチします。
- ► 削除処理がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

保存されている全てのモチーフを削除する

«マイデザイン»フォルダー内、またはUSBメモリー内のモチーフを一度に消去することができます。

- «セットアップ»ボタンを押します。
- «基本の設定»アイコンをタッチします。

- «ユーザーデータを削除»アイコンをタッチします。



刺しゅうしているときの二つの方法:
1 マイデザイン
2 USBメモリー（USBメモリーが差し込まれていること）

- 削除したいモチーフをタッチします。

- ✔で確認します。
- ► データが削除されました。

削除作業をキャンセルする

- ✕ をタッチします。
- ► 削除作業がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

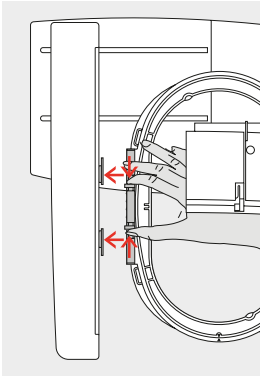
刺しゅうを始める

刺しゅう枠の選択

- モチーフを選びます。
  - ► 選んだモチーフがサイズに合った最適な刺しゅう枠に表示されます。
  - ► «刺しゅう枠選択»アイコンが推奨の刺しゅう枠を表示します。
- 推奨の刺しゅう枠を取り付けます。

刺しゅう枠を取り付ける

- 針と押え金を上げます。
- 刺しゅう枠を布表を上に、取付金具を左側にして持ちます。

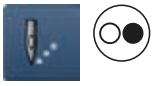


刺しゅう機のアームの取付金具に刺しゅう枠を取り付けます

- 刺しゅう枠を押え金の下をくぐらせます。
- 刺しゅう枠の取付金具のつまみを指で強く挟む様に持ちます。
- 刺しゅう枠の取付部を、刺しゅうアームの取付け金具にはめます。
- 刺しゅう枠を取付金具に合わせて上から押し付けます。
- つまみを放します。

刺しゅう枠を取り外す

- 刺しゅう枠の取付金具のつまみを指で強く挟んで持ちます。
- 刺しゅう枠を持ち上げて取り外します。



- 画面上の«刺しゅうメニュー»ボタンをタッチ、またはミシン上の«スタート/ストップ»ボタンを押します。
- ► 刺しゅう枠が動きます。
- ► ミシンが刺しゅう枠を認識します。

> 刺しゅう枠のズレの調節方法。49ページ参照。

> «刺しゅう操作メニュー»ボタンを押すと、«編集»画面に戻っても 編集した内容はもう見られません。«インフォメーション»アイコンが再び青色表示に変わり、機能アイコンの黄色枠が消え、全く新しいモチーフになります。

刺しゅうメニュー

► 刺しゅうメニューが表示されます。
► モチーフを刺しゅうする準備が完了しました。

ミシン上の«スタート/ストップ»ボタンを押して刺しゅうを始める

- ミシンが動き出すまで«スタート/ストップ»ボタンを長押しして下さい。
► ミシンはおよそ7針縫った後、自動的に停止します。
► 画面に余分な糸をカットするイラストが表示されます。
- 押え金を上げて、
- モチーフの縫い始めの糸端をカットします。
- 刺しゅう押えを下げます。
- «スタート/ストップ»ボタンを再度長押しして縫い始めます。

途中で止めるには
- «スタート/ストップ»ボタンを押します。
► 刺しゅう機が止まります。

一つの色を完成させる
- «スタート/ストップ»ボタンを押します。
► 画面上で縫う色の部分をすべてアクティブに表示します。
► その色の部分をすべて刺しゅうしてミシンが自動的に止まります。

糸を交換する
► 刺しゅう機は自動的に次の色に移ります。
- 上糸を次の色に交換します。
- 新しい色の刺しゅうを開始します。

«刺しゅう»画面
► モチーフの刺しゅうが始まると«刺しゅう»画面が表示されます。

フットコントローラーを使って刺しゅうする

フットコントローラーを刺しゅうの間ずっと踏み続けます。

- ● フットコントローラーを踏み込みます。
- ► ミシンはおよそ7針縫った後、自動的に停止します。
- ► 画面に余分な糸をカットするイラストが表示されます。
- ● フットコントローラーから足を退けます。
- ● 押え金を上げます。
- ● モチーフの縫い始めで、糸端をカットします。再度スタートします。
- ● 刺しゅう押えを下げます。
- ● フットコントローラーを押して、刺しゅうを続けます。

フットコントローラーで刺しゅうを止める

- ● フットコントローラーから足を退けます。
- ► ミシンが停止します。

一つの色を完成させる

- ● フットコントローラーを踏み込みます。
- ► ミシンはアクティブ表示された色の部分を刺しゅうします。
- ► その色の部分をすべて刺しゅうしてミシンが自動的に止まります。

糸を交換する

- ► 刺しゅう機は自動的に次の色に移ります。
- ● 上糸を次の色に交換します。
- ● 新しい色の刺しゅうを開始します。

«刺しゅう»画面

- ► モチーフを縫い始めると«刺しゅう»画面が表示されます。

フットコントローラーを使った刺しゅうは小さな部分を刺しゅうするときに便利です。

刺しゅう途中に糸が切れる

刺しゅうの途中で上糸、または下糸が切れると、セットアップ画面で上糸と下糸のセンサーをオンにしてあればミシンは自動的に止まります。

上糸、下糸が切れる。

- ► ミシンは自動的に停止します。
- ► アニメーションが表示されます。
- ● 上糸を確認してください。
- ● 針に糸を掛けなおしてください。
- ● 下糸を確認してください。
- ● ボビンの糸を巻き直すか、下糸掛けをやり直してください。

糸が切れたときの手順

- ● «糸切れ»アイコンをタッチします。

画面の左側に刺しゅうしている色の部分が普通のサイズで、右側に拡大した画像で表示されます。刺しゅうの順序を確認するのに便利です。

- ► 振り幅調節つまみと送り長さ調節つまみを使って操作するようにと画面に表示されます。
- ● つまみを左右に回して操作します。
- ► つまみを回すと刺しゅう枠が刺しゅうの順番に準じて前後左右に動きます。
- ● 振り幅調節つまみをゆっくり回してください。
- ► 刺しゅう枠が1針毎に動きます。
- ● 送り長さ調節つまみをゆっくり回してください。
- ► 刺しゅう枠が大きく動きます。
- ► 画面中の黄色枠アイコンがモチーフ中のステッチ位置を表示して位置を教えてくれます。
- ● «0-9»アイコンを使って直接ステッチの位置を入力することも可能です。
- ● 糸切れが発生して空縫いした部分をカバーするために7針以上ステッチを戻します。

刺しゅう画面に戻る

- ● «戻る»アイコンをタッチします。
- ► 画面が閉じます。

刺しゅうを再開する

- ● «スタート/ストップ»ボタンを長押しするか、またはフットコントローラーを踏み込みます。

クリーニング

ご注意!
掃除や注油をするときは、安全のためにコードを電源ソケットから抜いてください!
絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わない事!

液晶画面とミシンの掃除の仕方
柔らかい、湿り気のある布で拭き取ります。

送り歯周辺
ご使用後は必ず釜周辺と針板の下側をブラシなどで掃除するようにしましょう。
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 押え金と針を取り外します。
- 釜カバーを開きます。
- 針板の右側奥の角の丸い印の部分を指で強く押して針板を浮かび上がらせます。
- 浮かび上がった針板を取り外してください。
- ブラシで掃除します。
- 針板を戻します。

大釜の掃除
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 取り出します。
- 中釜押えロックを左側に押します。
- 黒い樹脂の中釜押えを手前に倒します。
- 中釜を取り出します。

- 大釜レース(溝)の回りをブラシや布で掃除します。その際、金属の尖ったものを使わないこと。
- 中釜を戻します。必要なら、釜の中の半月状の"トンビ"が左側に位置するようにはずみ車を回してください。
- 中釜押えを閉じて、中釜押えロックでしっかり閉じられていることを確認します。
- はずみ車を回して正しくセットされたかどうか確認します。
- ボビンケースを装着してください。

注油について
- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 一、二滴のオイルを大釜の周りに注してください。
- 電源スイッチをオン«I»にしてください。
- 糸を掛けないでミシンを少し回してください。
- ► 布を汚れるのを防ぎます。

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

トラブルシューティング

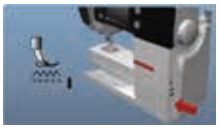
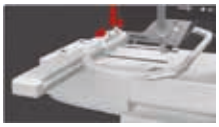
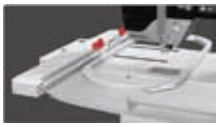
困った時は以下の各ポイントをご確認ください。殆どの場合、解決できます。

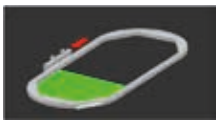
確認してください:
- 上糸、下糸が正しく掛けられていますか。
- 針が正しく装着されているかどうか。
- 針は、針と糸の一覧表(**17**ページ)を参照して正しいものをご使用下さい。
- 針先が傷んでいませんか。
- ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。
- 釜周りの掃除も忘れずに。
- ダイヤルテンション付近やボビンケースのばねの下の糸くずを取り除いて下さい。

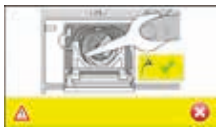
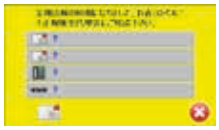
故障	原因	対策
ステッチが均等でない	– 上糸調子がきつすぎる／緩すぎる。 – 針先が曲がっているか、または傷ついている。 – 針の品質に問題があります。 – 糸の品質が悪い。 – 針と糸の組み合わせが合っていない。 – 糸掛けが間違っている。	• 上糸テンションを調節してください。 • 高品質のベルニナ針をお使いください。 • 新しいベルニナ針に交換してください。 • 高品質の糸をお使いください。(Isacord, メトラー、グータマン等.) • 糸の番手に適切な針の番手を選びます。 • 上糸と下糸が正常かどうか確認します。
目とび	– 間違った番手の針を使っている。 – 針先が曲がっているか、または傷ついている。 – 針の品質に問題があります。 – 針が正しく装着されていない。 – 針の種類が違う。	• 正しい針の番手は130/705Hです。 • 新しいベルニナ針に交換してください。 • 新しいベルニナ針に交換してください。 • 針を最上部まで差し込みます。 • 布地に合った針先形状の針を使って下さい。
ステッチの目が揃わない	– 上糸テンションダイヤルに糸くずが挟まっていませんか。 – 糸掛けが間違っている。 – ボビンケースのテンションばねの下に糸くずなどが残っていませんか。	• 上糸ダイヤルテンションを掃除するには、薄い布切れを二つ折りにして折り山をテンションディスクの間に滑り込ませて、前後にゆっくり動かしてテンションディスクの左右の溝を両側とも掃除します。 • 上糸と下糸が正常かどうか確認します。 • スプリングの下に引っ掛かっている糸クズを注意して取り除きます。
上糸が切れて、ミシンの中に隠れて天秤等に引っ掛かってしまったとき	– 上糸が切れる。 	上糸が切れて、ミシンの中に隠れて天秤等に引っ掛かってしまったときは以下の手順で取り除きます: • 電源スイッチをオフ«0» にして下さい。 • ミシン左側の面板の止めネジ**1**を付属品のL型レンチで取り外します。 • 面板を左方向にねじって上に持ち上げ手取り外します。 • 絡まった糸を取り除いてください。 • カバーを戻してネジを締めてください。
上糸が切れる	– 上糸テンションが強すぎる。 – 糸掛けが間違っている。 – 古くなった糸や粗悪な糸を使っている。 – 針板、または中釜剣先に傷が付いている。	• 上糸テンションを弱くしてください。 • 上糸掛けを確認する。 • 質のよい糸を使う。(Isacord, メトラー、グータマン等) • お近くのベルニナ正規販売代理店へミシンをお持ちください。
下糸が切れる	– 下糸のテンションが強すぎる。 – 針板の針穴周りに傷が付いている。 – 針先が傷付いていたり、曲がっている。	• 上糸テンションを強くしてください。 • お近くのベルニナ正規販売代理店へミシンをお持ちください。 • 新しい針をお使い下さい。
針が折れる	– 針が正しく取り付けられていない。 – 布を引っ張って縫っていませんか。 – 厚地を縫うときに布地を押し込んでいる。 – 品質の悪い糸では縫りが均一でなかったり、こぶがあったりします。	• 針止めネジをしっかり締め付けます。 • ソーイング中は布地を引っ張らないように。 • 厚地には正しい押え金を使って縫いましょう(例えばジーンズ押えNo.8)厚い縫い代の上を縫うときは高さ調節板を使います。 • 質のよい糸をお使いください。(Isacord, メトラー,グータマン等)
ジグザグの振り幅を調節できない	– セキュリティープログラムがオンになっています。	• 制限を解除してください。

故障	原因	対策
画面が表示しない	– 画面の計測が正常に設定されていない 。 – エコ機能がオンになっている。	● セットアッププログラムで画面のズレの調節を実行してください。 ● エコ機能をオフにして下さい。
刺しゅう機に関して	– ミシンが動かない、または大変遅い。 – 電源スイッチをオフ«0»にします。	● スライドスピードコントロールを調整します。 ● ミシンを暖かい部屋に移動して暫く放置します。 ● 電源スイッチをオン«1»にします。 ● ミシンをお近くのベルニナ正規販売店へお持ちください。
上糸センサーが機能していない	– セットアッププログラムでオフにしている。	● セットアッププログラムでオンにします。
アップデートがエラーになってしまう	– USBメモリーが認識されていない。 – アップデートがフリーズする。(砂時計が出たまま) – アップデートデータが認識されない。	● ベルニナUSBメモリーを使ってみてください。 ● USBメモリーを取り外して、電源をオフにして、またオンにしてみてください。画面上のメッセージに従がって実行してみてください。 ● アップデートデータをフォルダーに保存できません。 ● アップデートデータを解凍してから実行します。
LEDソーイングライトが点灯しない	– LED電球が壊れている。 – セットアッププログラムで、ソーイングライトがオフに設定されている。	● ミシン／刺しゅう機をベルニナ正規販売店へお持ちください。 ● セットアッププログラムでソーイングライトをオンにします。

事象	解説	修理 対応策
ミシンに関して 	– メモリーのデータの削除、上書き	● ✔で確認、または✖でキャンセル。
	– 直接入力したステッチ番号が不明です。	● 番号を確認して入れ直します。
	– コンビネーションモードではステッチの選択ができません。	● 他のものを選んでみてください。
	– 押え金を上げてください。	● 押え金を上げます。
	– 押え金を下げてください。	● 押え金を下げます。

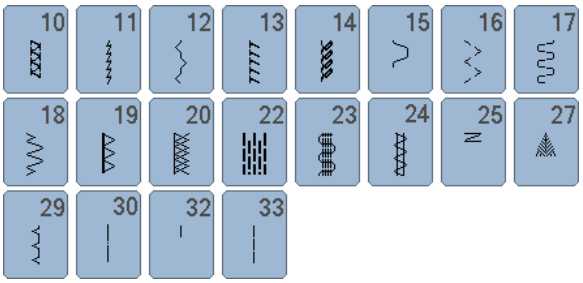
事象	解説	修理 対応策
	– 送り歯を下げてください。	● «送り歯ドロップ»ボタンを押し込みます。送り歯が下がりました。
	– 針板と合わない針をセットしています。	● セキュリティープログラムの設定を確認してみてください。
	– 針が一番高い位置にありません。	● 弾み車を回します。
	– 上糸を使い切った。	● 新しい糸こまを取り付けてください。
	– メインモーターが動きません。	● 釜付近に糸が絡んでいないか確認。電源を切って絡んだ糸などを取り除く。
 	– 針の位置が刺しゅう枠の中心と合っていません。	● 取扱説明書49 ページに従って調整して下さい。
 	– 刺しゅう機の取り付け	● 刺しゅう機の取り付け状態を確認して、ケーブルが正常に接続されているのを確認して下さい。 ● アニメーションがミシンから刺しゅう機にソフトウェアーをダウンロードしているのを示しています。
	– 刺しゅう枠が付いていていません。	● 刺しゅう枠を取り付けて下さい。
	– 刺しゅう枠が付いています。	● 刺しゅう枠を取り外して下さい。

事象	解説	修理 対応策
	– メガフープ上部	● メガフープを上部(1)に移動して下さい。
	– メガフープ中央部	● メガフープを中央部(2)に移動して下さい。
	– メガフープ下部	● メガフープを下部(3)に移動して下さい。
	– 刺しゅうモチーフの一部がはみ出しています。	● 刺しゅうモチーフの位置を変えてください。刺しゅう枠に入っている部分だけが刺しゅうされます。
	– 刺しゅうモチーフが大きすぎます。	● モチーフのサイズを小さくするか、大きな刺しゅう枠を取り付けて下さい。刺しゅう枠に囲まれた部分だけが刺しゅうされます。
メモリースティックに空きスペースがありません。	– USBメモリーに十分な空きスペースがありません。	● USBメモリーからデータを削除して下さい。
メモリースティックにはパーソナル・データは存在しません。	– USBメモリーにパーソナルデータが入っていません。	● USBメモリーが正しく接続されているのを確かめて、ミシンを再スタートさせて下さい。
パーソナルデータのリカバリーに失敗しました。	– アップデートの過程で、USBメモリーにパーソナルデータの保存ができませんでした。	● ソフトウェアーは正常にアップデートされました。パーソナルデータはリカバーに失敗しました。
ベルニナ・メモリースティックを挿入してください。ソフトウエアーの自動更新作業中は、必ず同じメモリースティックをご使用ください。	– ベルニナUSBメモリーがセットされていません。	● ベルニナUSBメモリーを差し込んでアップデートを実行します。実行中は取り外さないでください。
ソフトウエアーの更新に失敗しました。	– 新しいソフトウェアバージョンがUSBメモリーに入っていません。	● 新しいソフトウェアバージョンをベルニナUSBメモリーに保存して、アップデートをやり直して下さい。

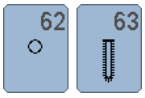
事象	解説	修理 対応策
ソフトウエアーの自動更新に成功しました。新世代のベルニナをお楽しみください。	– アップデートに成功しました。	● ミシンと刺しゅう機は最新のソフトウェアーバージョンです。
	– ミシンを掃除して注油しましょう。	● この警告はおおよそ18万ステッチ縫う毎に表示されます。掃除をして注油をしたら画面をタッチして表示を消してください。画面の«ESC»をタッチすると表示を取り消せますが、ミシンの電源を入れると再び表示されます。«ESC»で三度画面を取り消すと、次回の警告は次の18万ステッチを縫った後になります。
	– 定期点検の時期です。ベルニナ販売店またはベルニナサービスに連絡をしてください。	● ミシンと刺しゅう機をベルニナ正規販売店またはサービスショップにお持込み下さい。この警告メッセージは200万ステッチを縫った時点で表示されます。サービスが履行されるとこのカウンターは《0》(ゼロ)にリセットされ、メッセージも取り消されます。メッセージは«ESC»アイコンをタッチすることで画面から取り消せますが、次にミシンの電源をオンにすると、再び表示されます。三回この操作を繰り返しますとメッセージはキャンセルされ、次の200万ステッチを縫った頃に再び表示されます。ミシンを定期的に点検サービスに出していただくことで、大切なミシンを正常に機能させるだけでなく、長く、安全にお使い頂けます。この点検サービスを怠るとミシンの寿命を短くすることになりかねませんし、製品保証にも影響を及ぼしかねません。修理点検サービス料は国ごとに規定されていますので、お近くのベルニナ正規販売店、またはサービスショップにご相談下さい。

ステッチの一覧

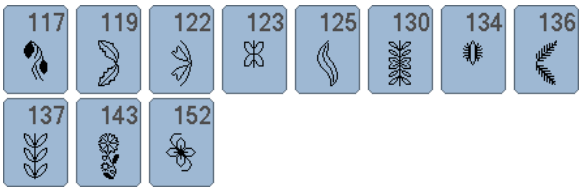
実用縫いステッチ



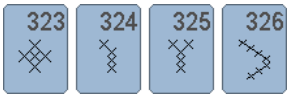
ボタンホール



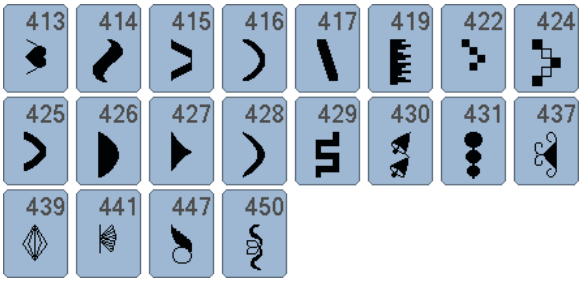
飾り縫い
花柄パターン



クロスステッチ

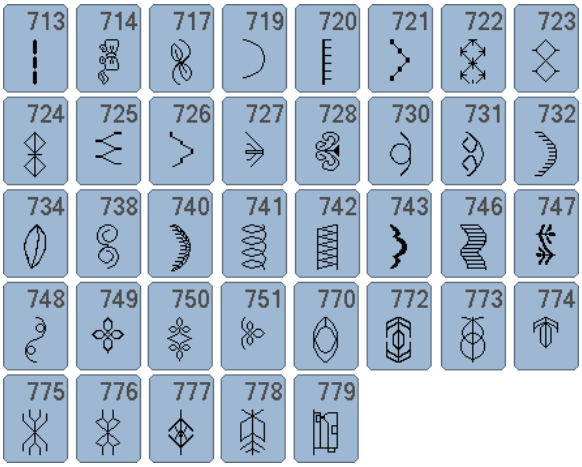


サテンステッチ模様



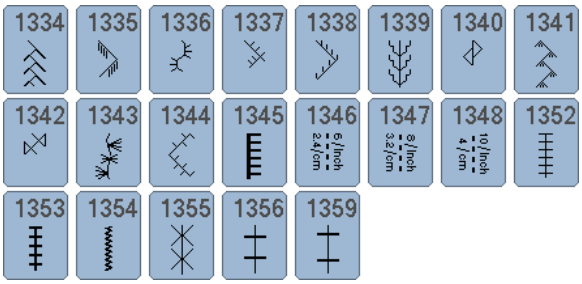
オーナメント（飾り縫い）模様

ヘアロームステッチ



イノベイティブ（斬新な）ステッチ

キルトステッチ



文字
ブロック体

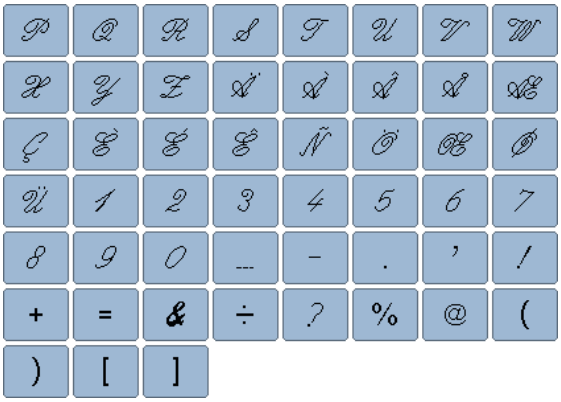
P	Q	R	S	T	U	V	W
X	Y	Z	Ä	À	Â	Å	Æ
Ç	É	È	Ê	Ñ	Ö	Œ	Ø
Ü	1	2	3	4	5	6	7
8	9	0	_	–	·	´	!
+	=	&	÷	?	%	@	(
)	[	]					

p	q	r	s	t	u	v	w
x	y	z	ä	à	â	å	æ
ç	è	é	ê	ñ	ö	œ	ø
ü							

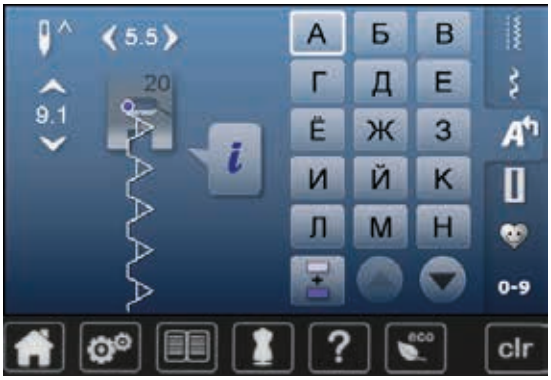
中抜き文字

P	Q	R	S	T	U	V	W
X	Y	Z	Ä	À	Â	Å	Æ
Ç	È	É	Ê	Ñ	Ö	Œ	Ø
Ü	1	2	3	4	5	6	7
8	9	0	_	-	.	´	!
+	=	&	÷	?	%	@	(
)	[	]					

スクリプト体（筆記体）



ギリシャ文字

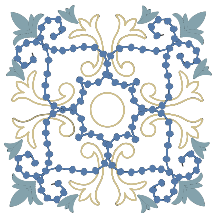


ひらがな

た	ち	つ	て	と	な	に	ぬ
ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ	ま
み	む	め	も	や	ゆ	よ	ら
り	る	れ	ろ	わ	を	ん	ぁ
ぃ	ぅ	ぇ	ぉ	ゃ	ゅ	ょ	っ
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ざ	じ	ず
ぜ	ぞ	だ	ぢ	づ	で	ど	ば
び	ぶ	べ	ぼ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ
ぽ	1	2	3	4	5	6	7
8	9	0	ー	_	。	?	!
・	、	「	」	『	』		

刺しゅうモチーフの一覧

飾りモチーフ



NB403

78.3mm × 78.1mm

CM198*

106.0mm × 96.1mm

FB033

99.6mm × 99.3mm

FB106

92.6mm × 128.1mm

FQ871

170.9mm × 132.3mm

FB126

102.2mm × 86.9mm

NA959*

103.7mm × 75.6mm

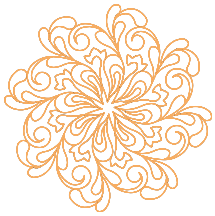
NB385

174.0mm × 86.2mm

- 台布なしのレース刺しゅう
- カットワーク
- フリンジ
- アップリケ

*このデザインには特殊効果が含まれています。詳細は www.bernina.com/5seriesをご覧ください。

キルティング



BD569

120.6mm × 120.6mm

12380-09

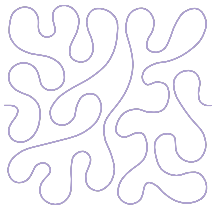
111.6mm × 61.6mm

12380-08

89.1mm × 89.2mm

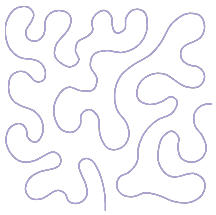
12380-04

83.1mm × 89.9mm



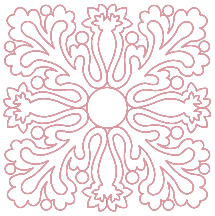
BD501

61.1mm × 63.5mm



BD502

60.7mm × 61.5mm



BD554

109.9mm × 109.9mm

BD837

123.6mm × 123.6mm

BD562

126.0mm × 63.9mm

BD563

89.6mm × 89.7mm

BD568

160.3mm × 109.5mm

BD669

215.4mm × 67.1mm

レース

NX696

90.7mm × 91.2mm

FB422*

33.8mm × 52.3mm

HG341

63.7mm × 63.8mm

NX957

88.1mm × 97.9mm

FB436

29.2mm × 132.8mm

FQ741

71.1mm × 26.4mm

BE570401

232.0mm × 76.0mm

NB520

175.9mm × 26.3mm

*このデザインには特殊効果が含まれています。詳細は www.bernina.com/5seriesをご覧ください。

子供用モチーフ

CK970

81.6mm × 84.4mm

BE790313*

102.3mm × 98.9mm

CM348

167.1mm × 119.0mm

CM376*

97.5mm × 100.3mm

HE456

72.5mm × 90.2mm

NA667

83.8mm × 83.8mm

CM226*

63.1mm × 63.3mm

CK667*

82.3mm × 99.8mm

CM362*

113.0mm × 120.6mm

*このデザインには特殊効果が含まれています。詳細は www.bernina.com/5seriesをご覧ください。

季節のモチーフ

HG053

121.8mm × 122.1mm

12417

97.1mm × 84.3mm

BE790303

97.1mm × 84.3mm

CM426

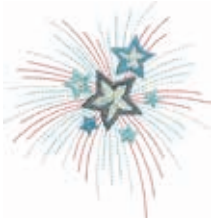
96.0mm × 45.8mm

FQ748

130.9mm × 80.8mm

HE543

84.2mm × 73.4mm



HG460

98.1mm × 91.8mm

花柄

FP814

84.4mm × 88.0mm

FP246

61.8mm × 65.6mm

FQ562

156.3mm × 90.3mm

FQ722

90.6mm × 80.0mm

FQ808

142.5mm × 123.9mm

WS641

151.4mm × 72.6mm

アルファベット

Swiss Block

Anniversary

Drifter

Russian Textbook

索引

あ

- アクセサリー 11-13
- アップデート 52
- アルファベット 105-107, 167-169
- 安全に関する説明 2-3

い

- 糸こまカバー 11
- 糸調子の設定／変更 29, 124

う

- 上糸をかける 25, 124

え

- エコについて 61
- エラー表示 160-163

お

- 送り歯周辺を掃除する 158
- 押え圧の調節 30
- 押え金 12
- 押え金を上げる／下げる 21
- 押え金を交換する 27
- お手入れ 158

か

- 飾りステッチ 94-97, 164-166
- 釜を掃除する 158
- 画面の色を選択する 48
- 環境保護について 3

き

- 基本設定 53
- キルトステッチ 98

く

- クリーニング（お手入れ参照）

け

- 言語 54

こ

- コンビネーションモード 112

さ

- サービスデータ 55
- 三本針に糸を通す 26

し

- シグナル音の設定 50
- 刺しゅう押え／刺しゅう針 123
- 刺しゅう機をミシンに接続する 122
- 刺しゅうモチーフ一覧 170-174
- 刺しゅうモチーフを選択する 141
- 刺しゅう枠用テンプレート 125
- 刺しゅう枠を使用する 125
- 下糸をかける 24, 124
- 下糸を巻く 23
- 実用縫い 62, 164

す

- ステッチパターン一覧 164-169
- ステッチパターンのコンビネーションを作成する 112
- ステッチを選択する 64

そ

- ソーイングアドバイザー 58
- ソーイングスピードを調節する 20, 48
- ソーイングライト 47

た

- 代理店情報 55
- 正しい針と糸の組合わせ 17
- 試し縫い 81
- 試し縫い（刺しゅう） 120

ち

- チュートリアル 56
- 注油 158
- 直線縫い/カットワーク用針板(オプション) 123

て

- ディスプレイのキャリブレーション 50
- ディスプレイの設定を変更する 47

と

- トラブルシューティング 159

に

- 二本針に糸を通す 26

ね

- ネット 117, 124

は

- バージョン情報 54
- バランス 60
- 針、糸および布地 16

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

- «針停止»ボタン 32
- 針板 28
- 針を上げる、または下げる 20, 32
- 針を交換する 25

ひ

- BSR押えを取り付ける 101
- ピンタック 96

ふ

- フットコントローラーを接続する 20
- フリーハンドキルティング 99
- フリーハンドシステム（FHS） 21

へ

- ヘルププログラム 59

ほ

- ボタンホール 80, 164
- ボタンホール押えNo.3Aの調整 52
- ボタンホール芯 83
- ボビンケースの交換 24
- ボビンをセットする/下糸を掛ける 24

も

- モニター機能 51

テキスト
Herbert Stolz/Susanne Ribi

グラフィック
www.sculpt.ch

写真撮影
Patrice Heilmann, Winterthur

タイプセッティング、レイアウト
Susanne Ribi

版権
2015 BERNINA International AG, CH-Steckborn

2015/05 ja 0365315.0.10

036531.50.10_2015-05_Manual_B570QE-B555_JA

made to create BERNINA